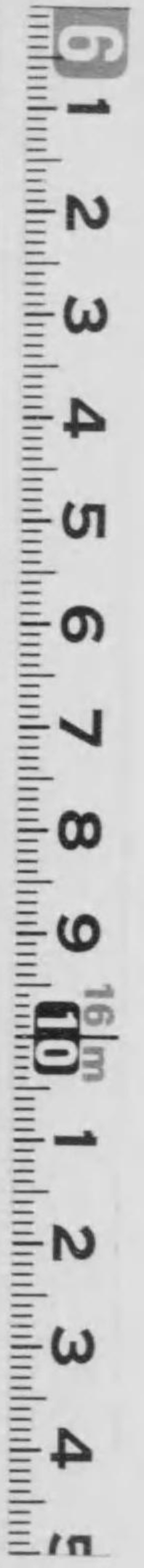


14.2
137



始



142
137

殖產局出版第三〇號

安平鎮茶樹栽培試驗場及三叉河分場

大正元年事業報告

臺灣總督府殖產局



大正元年中當場事業報告別冊ノ通り取調候條謹テ

供貴覽候也

大正二年五月



茶樹栽培試驗場

主任技師 山田 秀雄

殖産局長高田元治郎殿



大正
3. 7. 16
寄贈



目次

第一章 總說

第一節 經費

第二節 建物

第三節 面積及權數

第四節 氣候

第二章 事業概況

第一節 本年各茶期ニ於ケル茶樹發育狀況

第二節 茶期別收量

第三章 試驗事項

第一節 種類試驗

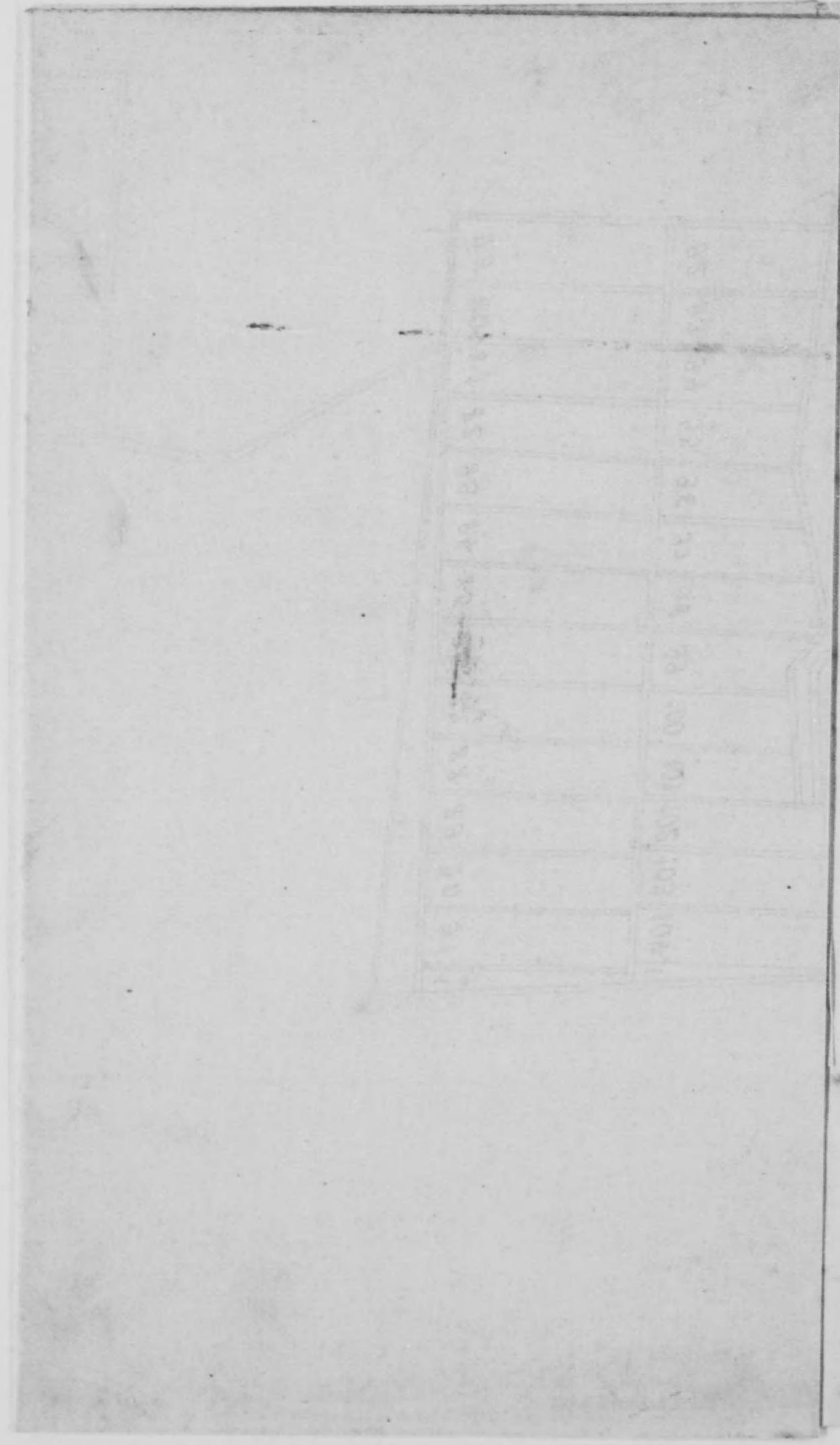
第二節 甘藷間作有無比較試驗

第三節 人耕ト牛耕トノ比較試驗

第四節 製茶試驗

第五節	烏龍茶製造ト包種茶製造トノ得失試験	二
第六節	石灰ノ効果試験	三
第七節	硫酸鐵加用試験	三
第八節	泥土加用試験	三
第九節	大豆粕滿俺混用試験	三
第十節	燐炭肥料試験	三
第十一節	アルロールト間作試験	三
第十二節	綠肥用アルビジャ間作試験	三
第十三節	想思樹間作試験	三
第十四節	機械試験	三
第十五節	播種時期試験	三
第十六節	挿木試験	三
第四章 調 査		
第一節	植付時期及方法	四
第二節	移植後ノ經過	四

第三節	移植調査	四
第四節	製造時間調査	五
第五節	茶芽伸長度合調査	五
第六節	深耕費調査	五
第七節	施肥費調査	五
第八節	大豆粕減量調査	五
第九節	施肥無肥對照	五
第五章 製茶配合試験		
第六章 分析試験		
第一節	試験茶園土壤ニ就キテ	一〇一
第二節	土地改良方法ニ就キテ	一〇四
第三節	茶浸出液ニ就キテ	一三二
第四節	茶花ニ就キテ	一三六
第五節	茶樹生葉水分試験	一三一
	以上	



此圖係根據...
 說明書...
 圖中...
 各部分...
 之構造...
 及...
 之...
 說明...
 如下...
 一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...
 十一、...
 十二、...
 十三、...
 十四、...
 十五、...
 十六、...
 十七、...
 十八、...
 十九、...
 二十、...
 二十一、...
 二十二、...
 二十三、...
 二十四、...
 二十五、...
 二十六、...
 二十七、...
 二十八、...
 二十九、...
 三十、...
 三十一、...
 三十二、...
 三十三、...
 三十四、...
 三十五、...
 三十六、...
 三十七、...
 三十八、...
 三十九、...
 四十、...
 四十一、...
 四十二、...
 四十三、...
 四十四、...
 四十五、...
 四十六、...
 四十七、...
 四十八、...
 四十九、...
 五十、...
 五十一、...
 五十二、...
 五十三、...
 五十四、...
 五十五、...
 五十六、...
 五十七、...
 五十八、...
 五十九、...
 六十、...
 六十一、...
 六十二、...
 六十三、...
 六十四、...
 六十五、...
 六十六、...
 六十七、...
 六十八、...
 六十九、...
 七十、...
 七十一、...
 七十二、...
 七十三、...
 七十四、...
 七十五、...
 七十六、...
 七十七、...
 七十八、...
 七十九、...
 八十、...
 八十一、...
 八十二、...
 八十三、...
 八十四、...
 八十五、...
 八十六、...
 八十七、...
 八十八、...
 八十九、...
 九十、...
 九十一、...
 九十二、...
 九十三、...
 九十四、...
 九十五、...
 九十六、...
 九十七、...
 九十八、...
 九十九、...
 一百、...



- 111 111 甘蔗間作試驗
- 108 108 經濟試驗牛群區
- 105 105 泥土施用試驗
- 106 106 灌溉施用試驗
- 120 120 採木區
- 123 123 アルビヤ試驗區
- 121 121 採木跡台刈區
- 122 122 經濟試驗人跡區
- 117 117 製茶試驗
- 114 114 樹膠樹間作試驗
- 116 116 樹膠樹類試驗
- 709, 704 709, 704 樹膠樹靜試驗
- 98, 100 98, 100 石灰効果試驗
- 94 94 綠葉肥料施用試驗
- 96 96 烏龍包種得失比較試驗
- 97 97 硫酸銨施用試驗
- 99 99 包種原料荔枝種
- 126 126 包種原料秀英種
- 127 127 包種原料秀英種
- 128 128 包種原料秀英種
- 129 129 包種原料秀英種
- 130 130 包種原料秀英種
- 131 131 包種原料秀英種
- 132 132 包種原料秀英種
- 133 133 包種原料秀英種
- 134 134 包種原料秀英種
- 135 135 包種原料秀英種

分析室
事務所
製造場
農夫宿舍
浴室及廁所



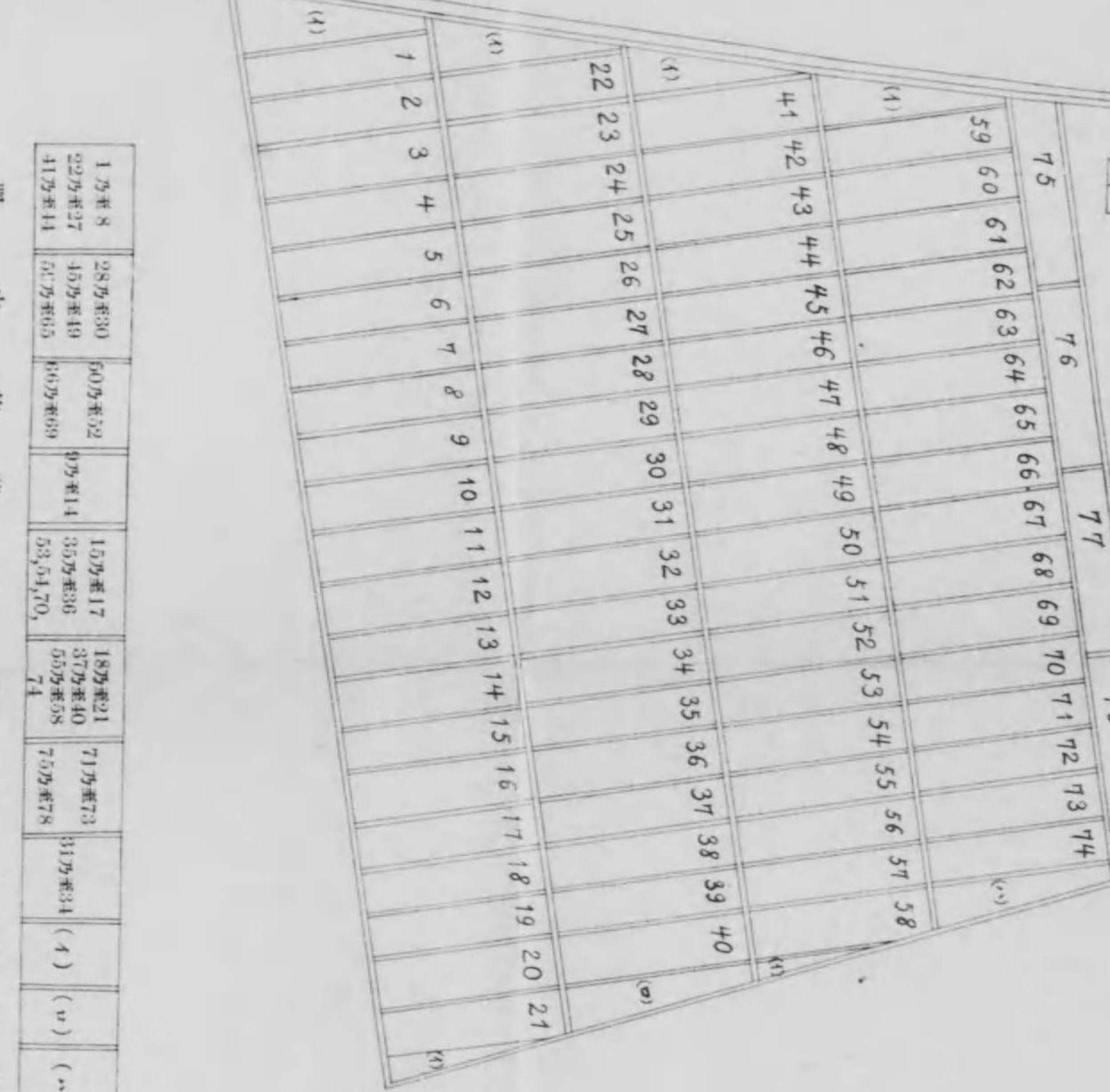
縮尺 1/1200

至場梅壠

至德橋
至德橋

分析室
事務所
遺場
農具倉
稻倉
及
便所

- 111 108 105 106 120 123 121 117 114 116 705*01 94 96 97 99 126 129 129 133 1
- 113 110 100 106 120 123 121 117 114 116 705*01 94 96 97 99 126 129 129 133 1
- 經濟試驗牛群區
- 泥土施用試驗
- 滿德施用試驗
- 採木區
- アルビヤ試作區
- 採木跡台刈區
- 經濟試驗人排區
- 製茶試驗
- 想思樹間作試驗
- 茶樹種類試驗
- 茶樹樹齡試驗
- 石灰効果試驗
- 煙草肥料施用試驗
- 鳥籠包種得失比較試驗
- 硫酸銨施用試驗
- 包種原料黃枝種
- 包種原料秀茶種



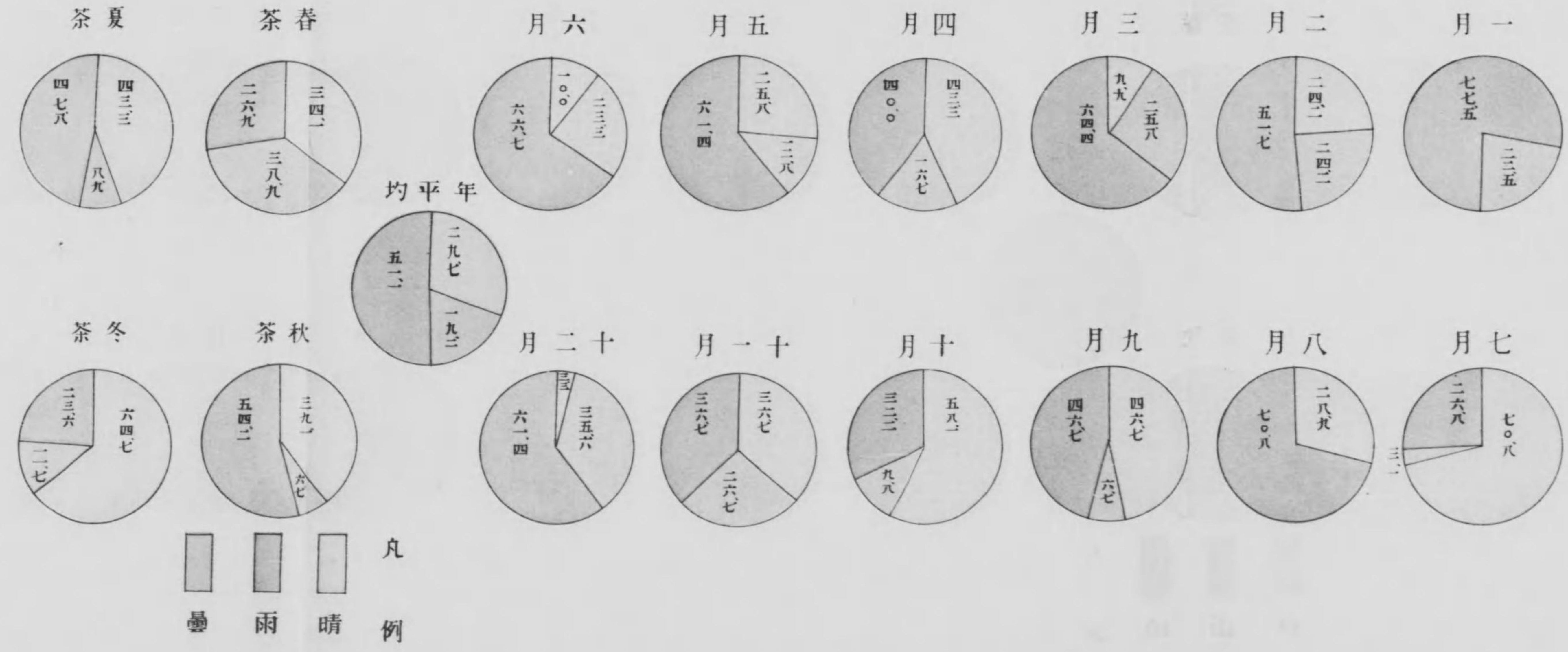
1 79*8	28 79*30	50 79*32	97 79*14	15 79*17	18 79*21	71 79*73	31 79*34	(4)	(v)	(w)	(=)
2 79*27	45 79*39	60 79*49	98 79*14	35 79*38	37 79*40	70 79*78	31 79*34	(4)	(v)	(w)	(=)
3 41 79*14	51 79*14	60 79*14	97 79*14	53, 54, 70,	74	74	74				
肥料三要素量試驗	中耕回數試驗	施肥時期試驗	剪枝時期試驗	株數比較試驗	肥料効果試驗	摘採回數比較試驗	台刈上可採比較試驗	包種原料花黃枝種	包種原料花架新種	包種原料花秀茶種	茶樹苗圃及夏本圃

1 / 1200 尺

示表ノ如ク總反別ハ七町六反八畝廿二步總茶權數五萬二千四百九十二權ニシテ此内古權數二萬二千
 百四十九權四年生百八十一權三年生五千二百二十三權二年生七千八十六權一年生壹萬七千八百五十
 三權内本年試驗ニ供セシ茶權ハ古權ノミニシテ三四年生ハ單ニ摘採シテ收量ヲ秤レリ

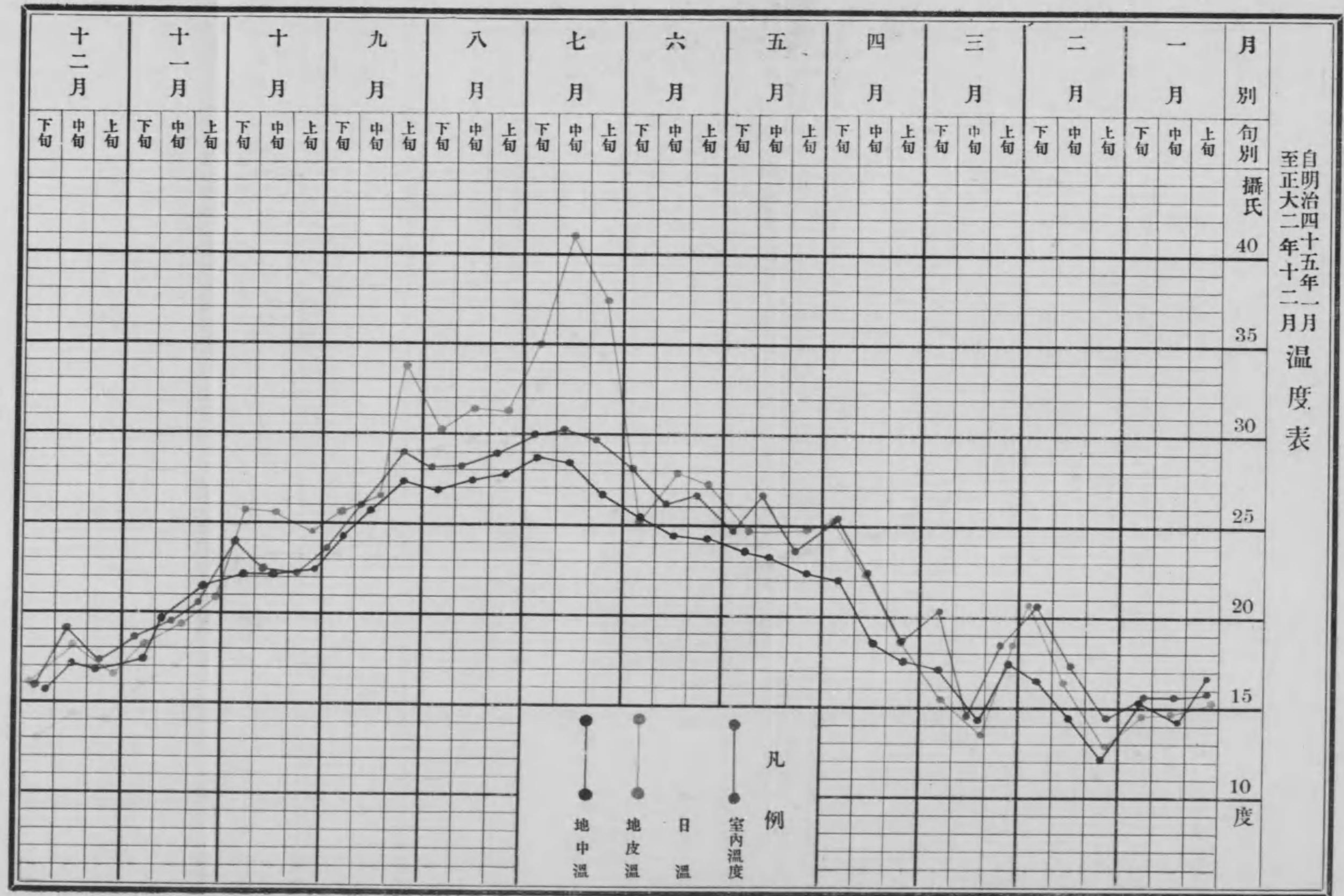
計	花	猫	漢	印	福	烏	不	埔	香	宇	同	同	同	同	同	同	同	開墾地	
	木	耳	口	度	州	金	春	心	圓	治	枝	大	紅	白	白	毛	黃	青	
	園	耳	口	度	州	金	春	心	圓	治	枝	大	紅	白	白	毛	黃	青	
七六六三	110111	311	210	311	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310	310
311111																			
111																			
五三三三					211						211	311	310	111	111	111	111	111	111
七〇八六			111	101		71	211	101	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311
一七八三三		311	11	21	11	311	311	91	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311	311
五七五三		311	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111

天氣比較圖 (百分率)



示表ノ如ク總反別ハ七町六反八畝廿二步總茶權數五萬二千四百九十二權ニシテ此内古權數二萬二千
 百四十九權四年生百八十一權三年生五千二百二十三權二年生七千八百六十六權一年生壹萬七千八百五十
 三權内本年試驗ニ供セシ茶權ハ古權ノミニシテ三四年生ハ單ニ摘採シテ收量ヲ秤レリ

自明治四十五年一月至正大二年度十二月温度表



凡例

- 室内温度
- 日温
- 地皮温
- 地中温

第四節 氣候

一、溫度

本年中觀測セシ室内、日温、地温、地中溫度觀測時間別月平均及一ヶ月ヲ六期ニ別チ五日ノ平均ヲ表示スルニ左ノ如シ

月別	室内溫度			日温			地温			地中溫度		
	午前六時	正午	午後五時	午前六時	正午	午後五時	午前六時	正午	午後五時	午前六時	正午	午後五時
一月	14.1	16.1	15.4	10.0	15.6	11.5	10.0	14.1	11.5	22.5	26.0	25.1
二月	14.8	18.3	18.0	11.0	17.1	13.8	11.0	15.7	13.8	22.9	27.4	26.5
三月	16.4	18.9	18.0	11.8	17.5	14.5	12.0	16.3	14.5	23.4	28.0	27.1
四月	18.8	23.5	23.3	12.8	18.0	15.8	13.0	17.1	15.8	24.0	28.7	27.8
五月	20.8	26.2	25.2	13.8	18.9	16.8	14.0	18.0	16.8	24.6	29.4	28.5
六月	24.0	29.7	28.7	15.1	20.6	18.1	15.0	19.1	18.1	25.2	30.1	29.2
七月	26.3	31.9	30.8	16.3	21.6	19.1	16.0	20.1	19.1	25.8	30.8	29.9
八月	27.1	31.9	30.7	16.6	21.6	19.1	16.3	20.1	19.1	26.4	31.4	30.5
九月	24.9	27.4	26.4	15.5	20.6	18.1	15.3	19.1	18.1	25.2	29.4	28.5
十月	22.2	24.8	23.6	14.5	18.6	16.8	14.3	17.1	16.8	24.0	28.0	27.1
十一月	18.5	21.1	20.4	13.4	17.1	15.5	13.2	16.1	15.5	22.8	26.3	25.4
十二月	16.3	18.9	18.0	12.1	15.6	14.0	12.0	14.1	14.0	21.6	25.1	24.2

期別平均表ノ如シ

期別及月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一期	一七	一四	一八	一九	三三	二八	三〇	三〇	三九	三三	三三	二八
二期	一五	一五	一八	一五	三五	二六	三〇	三九	三〇	三三	三〇	一七
三期	一五	一九	一五	二〇	三五	二六	三〇	三九	三〇	三三	三〇	一七
四期	一六	一六	一四	一五	二九	二七	三〇	三九	三〇	三三	三〇	一七
五期	一九	一九	一九	二〇	二九	二八	三〇	三九	三〇	三三	三〇	一七
六期	二二	三三	三三	三五	三六	三九	三〇	三九	三〇	三三	三〇	一七

右表ノ如ク二、四、五月ハ前年ニ比シ一度位高温ナリシモ九、十一、十二月ハ反對ノ現象ヲ呈シ年平均前年ハ二十二度六本年ハ二十二度五ニシテ一分ノ差ニ過キサリシ

二、雨量

本年ノ總雨量ハ三千四百十九耗ニシテ前年ヨリ多キコト實ニ千四百八十三耗九尙又一昨四十三年ノ千五百九十一耗六ト比較スレバ大異倍量ニシテ千五百二十七耗四超過セリ今前年ト月別増減ヲ見ルニ次ノ如シ (△印ハ不足)

月別	四十四年	四十五年
一月	一八七、九	二九七、六
二月	五〇、四	九四、七
三月	一三三、六	三一五、〇
四月	八二、六	三六一、〇
五月	三三九、五	二五二、二
六月	一五八、三	五四一、六
七月		△
八月		△
九月		一〇九、七
十月		四四、三
十一月		一八一、四
十二月		二七八、四
計		四十五年過不足

期別及月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一期	八二	六六	三七一	一三	六七八	三〇一	二	三二八	一〇八	一	六八五	七四
二期	六四五	八	二八	一七五	七	一六七、九	二八	一一一	二〇八	二五	九八	七四
三期	五三二	三三	三三	二七	五九九	八五〇	一	一〇五、三	一三、七	一〇	五二	一五〇
四期	六〇八	一六〇	一九三	一七四	六三七	一九二、七	六	一〇五、三	一三、七	一〇	五二	一五〇
五期	一七二	三三九	二〇	一	三三七	六三九	一一〇	二七六	一三、一	一〇	五二	一五〇
六期	九四七	一七一	二	一	三三八	六三九	一一〇	二七六	一三、一	一〇	五二	一五〇
晴天	四	二七	八三	二二	六八	三三	二八	五五、四	一〇八、八	三二、七	七六	三九五
曇天	八七	二二	八三	二二	六八	三三	二八	五五、四	一〇八、八	三二、七	七六	三九五
雨天	一九	一五	二〇	二五	一九	七〇	一〇	一九	八	一〇	二二	一九

夏ニ一ヶ月ヲ六別シテ各期間ノ雨量及一ヶ月ノ晴雨日數ヲ前年ト比較セシモノヲ擧クレバ左ノ如シ

計 一、九三五、一 三、四一九、〇 一、四八三、九

右表ニ據レバ五、十、十一月ハ前年ヨリ少シト雖其他ノ九ヶ月ハ概シテ百耗以上ノ増加ヲ示シ就中最モ多量ナルハ九月ニ於ケル四百八耗次キハ六、四、八月ノ順序ニシテ如何ニ本年ノ降雨多カリシカ

ヲ知ルヘシ尙ホ天氣日數ヲ比較セバ本年ニ於ケル晴天日數百十三日ニテ前年ヨリ十八日少ク曇天六十六日ニテ三日雨天百八十七日ニテ十六日多シ(本年ハ潤年ニテ總日數ニテ一日多シ)

第二章 事業概況

第一節 本年各茶期ニ於ケル茶樹發育狀況

一月以降三月迄晴天十日曇天二十二日雨天五十九日總雨量七百七耗三ニシテ昨年ニ比較スレバ晴天ニテ十三日ヲ減シ曇天四日雨天十日雨量ハ實ニ三百三十五耗四ヲ増加セリ乍去雨量ノ多キハ三月中旬以前ニシテ其後曇天多カリシモ平均氣温攝氏十九度五ナリシヲ以テ茶芽ノ發育順調ヲ得テ前年ト等シク四月十五日ニ摘採ヲ開始シ四月末日迄ノ十六日間ニ曇天僅カニ二日ニ過キスシテ晴天連續シテ品質ヲ向上セシメ事業ノ進捗ヲ助ケタリ越ヘテ五月上旬ハ天候ノ順調ヲ缺キシト雖最早春茶終了時ナルヲ以テ大差ナカリシナリ此間ノ摘採日數二十一日ナリ

夏茶ハ五月十一日ニ始マリ八月六日ニ終了セリ此期間八十八日內晴天五十六日曇天十九日雨天十三日ニシテ前年ト大差ナカリシモ雨量ハ八百六十七耗四ニシテ六百四十耗七ヲ超過シテ殆ント三倍ノ増加ヲ見タリ例年本期間ハ雨量少クシテ年中最優品ヲ産スル時期ナルニ不拘本年ハ日々殆ント多少ノ降雨アラザナキノ状態ニシテ茶芽徒ラニ伸長シ形狀惡シキノミナラス香味劣等ニ陥リ殊ニ六月上

旬ノ夏茶第一回ノ如キ殆ント優品ヲ産セスシテ終了セリ

秋茶ハ八月十二日ニ始マリ十月十九日ニ終了セリ此期間九月上旬ノ晴天十月ノ降雨割合ニ少キ外一般雨天勝チニシテ摘採意ノ如クナラス遂ニ適度ヲ過スノ止ムナキニ至リ品質粗惡ニ陥リタリ本期間中八月下旬ト九月中旬ニ於ケル二回ノ暴風雨ハ事業ノ進捗ヲ防ケタルコト甚タシカリキ

冬茶ハ十一月四五兩日ニ摘採ヲ終了セリ十月中ノ天候ハ順調ヲ得タリト雖元來品質粗惡ノ時期ナレハ別段影響ヲ見サリシ

第二節 茶期別收量

本年ノ供試茶權ハ二萬二千四百四十九權ナレトモ内前年採木セシモノ及ヒ本年採木セシ爲メ春茶ノ收穫ナク又夏茶以降摘採セサルモノ二千五百五十九權ナリ今是等ヨリ本年收穫セシ總量ヲ各茶期別ニ舉ケレハ次ノ如シ(四年生以下ヲ除キ古權ノミ)

茶季別	收穫茶葉量	供試茶種別	供試茶葉量	同上製茶量	同上割合
春茶	KCOOKO	烏龍茶	11110	11110	11110
		包種茶	11110	11110	11110
		紅綠茶	11110	11110	11110
茶					

夏茶	烏龍茶計	11,900	11,900	2,275	2,275
	包種茶	1,800	1,800	3,150	3,150
	紅茶	1,100	1,100	2,275	2,275
秋茶	烏龍茶計	10,100	10,100	1,875	1,875
	包種茶	1,300	1,300	2,275	2,275
冬茶	烏龍茶計	11,000	11,000	2,275	2,275
	包種茶計	3,800	3,800	2,275	2,275
烏龍茶計		38,000	38,000	7,725	7,725
包種茶計		9,900	9,900	7,725	7,725
綠茶計		7,100	7,100	2,275	2,275
紅茶計		1,200	1,200	2,275	2,275
合計		67,900	67,900	15,275	15,275

以上各期ノ收穫割合ヲ算出セハ春茶四割一分七厘夏茶二割八分八厘秋茶二割九分冬茶五厘ニシテ昨年ノ割合ニ比較セハ春茶ニテ一分四厘減シテ夏茶一分九厘秋茶二分六厘増加シ又冬茶三分一厘ノ減少ヲ呈セリ之レ夏秋茶ノ増量ハ畢竟降雨ノ爲メニシテ冬茶ハ前季ノ影響ニテ發芽少ナカリシナリ

第三章 試驗事項

第一節 種類試驗

區番	種類	摘採期間	同 同		一 萬 權 取 穫 量				季 別 製 茶 歩 合					
			上	下	春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均
七九	青心	自四月廿日 至十月十九日	一四	一五	一五,600	一五,600	一四,600	—	四五,800	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
八〇	白毛猴	自四月十九日 至十月十九日	一四	一五	一五,600	一五,600	一四,600	—	四五,800	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
八一	白心	自四月十九日 至十月十九日	一六	一五	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一四,六〇〇	—	四八,六〇〇	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
八二	紅心	自三月廿九日 至十月十九日	一五	一五	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一四,六〇〇	—	四八,六〇〇	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
八三	大右	自四月十九日 至十月十九日	一五	一五	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一四,六〇〇	—	四八,六〇〇	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
八四	枝蘭	自四月十九日 至十月十九日	一六	一六	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一四,六〇〇	—	五〇,六〇〇	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
八五	黃柑	自四月十九日 至十月十九日	一六	一六	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一四,六〇〇	—	四八,六〇〇	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇
一〇四	福州	自四月十六日 至十月十九日	一五	一五	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一四,六〇〇	—	四八,六〇〇	二二,一〇〇	二二,一〇〇	—	—	二二,一〇〇

右ハ林野開墾地ニ明治四十三年ニ移植セシモノニシテ本年ヨリ摘採ヲ開始セリ其最モ早キハ紅心種ノ三月廿九日次キハ四月九日青心種ハ四月廿日ニテ最モ遅キモノナリ摘採回数ノ多キハ白心枝蘭黃柑ノ三種ニシテ少キハ青心白毛猴ノ十四回ナリ收量ハ枝蘭種ノ四百七十三貫八百二十六匁就中多量ニシテ次キハ黃柑、青心、白心ノ順序ヲ呈シ以下約半量ニシテ最モ少ナキハ大右種ノ百三十八貫三百五匁トス但シ大右種ハ冬季落葉シテ樹勢衰弱シ居タリ更ニ前年ノ收量ト比較シ其増量ヲ見レバ

區番	種類	一萬權當年收葉量	同上前年收葉量	本年ノ増量
七九	青心	四五,八〇〇	四四,八〇〇	一,〇〇〇
八一	白心	四八,六〇〇	四七,六〇〇	一,〇〇〇
八二	紅心	四八,六〇〇	四七,六〇〇	一,〇〇〇
八三	大右	四八,六〇〇	四七,六〇〇	一,〇〇〇
八四	枝蘭	五〇,六〇〇	四九,六〇〇	一,〇〇〇
八五	黃柑	四八,六〇〇	四七,六〇〇	一,〇〇〇

備考白毛猴及福州ハ前年收穫ナシ

示表ノ如ク就中増量ノ著シキハ青心種ノ四百四十六貫三百四十二匁ニシテ最モ少キハ大有種ノ百十貫八百五匁ナリ如斯シテ二年生ト三年生トノ收量ノ差大ナルヲ知ルヘシ
尙參考ノ爲メ隣區黃柑種ノ三年四年ノ收量ヲ記スレバ次ノ如シ

區番	本年一萬權當收葉量(四年生)	前年一萬權當收葉量	本年増量
九二	四九七五	三九七〇	一〇〇五

以上各種類ハ百歩三百權宛移植セシモノニシテ春茶以降一回ノ收量ハ極メテ少量ニシテ區別ニテ製造シ得サル爲メ品質ノ鑑定不可能ナリ今春茶ノ品質ヲ對照セシニ

審査項目	定點		青心		白毛猴		白心		紅心		大有		枝蘭		黃柑	
	形	狀	二〇	七	七	一一	九	七	七	七	九	六	八	八	七	七
色澤	一〇	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
水色	一〇	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
萎凋	一〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
香氣	一五	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
潤味	一五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
釜炒	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
乾燥	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
計	一〇〇	五四	六三	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七

以上ノ如キ品質ナリト雖春茶殊ニ三年生ハ水分過多ナルカ爲品質未ダ定マラサルモノナリ

第二節 甘藷間作有無比較試驗

茶樹ノ間作トシテ甘藷ヲ栽培スル時ハ如何ナル影響ヲ及ボスベキヤヲ比較査定セントスルニアリ其成績左ノ如シ

區番	試驗區名	一權宛施肥量	摘採回数	摘採期間	一萬權當收葉量				季別製茶歩合						
					春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均	
一一一	施肥間作	大豆粕 三八 磷酸石灰 一一 硫酸加里 一七	二〇	自四月四日 至十一月四日	三三、一	三〇、一〇	三三、一	一〇、六三	九六、三	二六、七	二六、七	二六、七	二六、七	二六、七	二六、七
一一二	無肥無間作		一九	自四月十一日 至十一月四日	二八、七	二六、一	二八、七	一一、八〇	八三、三	二二、八	二二、八	二二、八	二二、八	二二、八	二二、八
一一三	無肥間作		一九	自四月十六日 至十一月四日	二六、五	二四、九	二六、五	一〇、七	七三、五	二二、八	二二、八	二二、八	二二、八	二二、八	二二、八

右ノ成績ヲ見ルニ間作施肥區優秀ニシテ無間作無肥區、間作無肥區順次之ニ次ク即チ對照無間作無肥區ニ對シ施肥間作區ハ一五、〇三、一匁即チ一割八分五厘ノ增收ヲ示シ間作無肥區ハ九十一貫七百三十五匁其歩合一割一分三厘ノ減收ニシテ間作無肥ニ對シ間作施肥區ハ二百四十二貫七百六十匁其增收割合三割三分五厘ニ達セリ進ンテ製茶歩合ヲ見ルニ施肥區ハ對照區ニ比シ一分減リ無肥間作區ハ三厘ノ好歩合ヲ示セリ茶葉收量ノ多寡之ニヨリ水分ニ多少アルモノ、如シ
尙前年ノ收量ト對照シ見ルニ

區番	項目	試驗區名	一萬噸當收葉量		
			四十五年	四十四年	四十三年
一一一	施肥間作		九六六三八	1,110,000	八二七一
一一二	無肥無間作		八一五三〇	八二二,九〇〇	七三三七八
一一三	無肥間作		七三三九五	六八六四〇〇	六〇五五九

右表ニヨリ三ヶ年ノ成績ヲ通覽スルニ何レモ一、施肥間作區二、無肥無間作區三、無肥間作區ノ順序ニシテ尙昨年ト比較スレバ施肥間作區ハ三十六貫五百十九匁無肥無間作區ハ七貫五百五十匁ノ減收ニシテ無肥無間作區ニ於テハ三十七貫二百十五匁ノ增收ナリ然レトモ毎年ノ對照區トノ比較ヲ見レバ間作ハ茶葉收量ニ影響ヲ及ボスハ事實ナルヲ知ルヘシ

尙製品ニ及ボス影響ヲ見ルニ

(當場審査鑑定表)

項目	定點	一 番			二 番			三 番		
		春	夏	私	春	夏	秋	春	夏	秋
形狀	二三〇	八七九	八七九	七六六	八七八	八七七	九一〇	八八九	七七八	
色澤	一〇〇	八七九	八七九	七六六	八七八	八七七	九一〇	八八九	七七八	
水色	一〇〇	八七九	八七九	七六六	八七八	八七七	九一〇	八八九	七七八	
萎凋	一〇〇	八七九	八七九	七六六	八七八	八七七	九一〇	八八九	七七八	
香氣	一〇〇	八七九	八七九	七六六	八七八	八七七	九一〇	八八九	七七八	

項目	定點	一 一 一 番			一 一 二 番			一 一 三 番		
		春	夏	私	春	夏	秋	春	夏	秋
潤味	一五	八八八	八八八	八七七	八八八	八八八	八八八	八八八	八七七	
釜炒	一〇	八八八	八八八	八七七	八八八	八八八	八八八	八八八	八七七	
乾燥	一〇〇	八八八	八八八	八七七	八八八	八八八	八八八	八八八	八七七	
計	一〇〇	八八八	八八八	八七七	八八八	八八八	八八八	八八八	八七七	

大稻埕鑑定價格表

製造月日	一 一 一 番	一 一 二 番	一 一 三 番
四月十六日	二一,〇〇〇	二五,〇〇〇	二二,七五〇
四月廿三日	一七,〇〇〇	二一,〇〇〇	二六,五〇〇
五月二日	一七,五〇〇	一八,〇〇〇	一六,五〇〇
春茶平均	一八,五〇〇	二一,三三〇	二一,九二〇
五月十八日	三二,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
五月廿九日	二四,〇〇〇	二三,〇〇〇	二四,〇〇〇
六月七日	二一,〇〇〇	二二,〇〇〇	二六,〇〇〇
六月廿一日	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇
七月三日	一七,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一六,〇〇〇
七月十一日	一八,〇〇〇	一八,〇〇〇	二三,〇〇〇
七月廿三日	一八,〇〇〇	一七,〇〇〇	二二,〇〇〇
八月一日	一八,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一七,〇〇〇
夏茶平均	二〇,七五〇	一九,五〇〇	二〇,七五〇
八月十二日	一四,〇〇〇	一七,〇〇〇	一五,〇〇〇
八月廿一日	一四,〇〇〇	一四,〇〇〇	一四,〇〇〇
總平均	一九,六二〇	一九,三一〇	二〇,〇六〇

示表ノ如ク審査點數ニ於テハ間作無肥區最優秀ニシテ鑑定價格ニ於テモ施肥無肥共ニ標準區ニ優レ
 リ之ニヨリテ間作ハ品質ニ影響ヲ及ボスコトナク寧ロ向上セシムルヲ知ルヘシ
 甘藷ハ昨年ノ如ク茶樹ノ畦間ヲ耕鋤シテ畦立ヲナシ五月二十日ヨリ二十三日マデ三日間ニ亘リ植付
 ヲナセリ爾後暫クハ成育良好ナリシモ其後臺灣大蟋蟀ノ喰害ヲ被リ殆ンド成育スル能ハサルニ至リ
 シヲ以テ八月、八九日ニ又新ニ諸苗ヲ移植セリ然レトモ時期既ニ遅レ加フルニ同月末及九月中旬ノ
 二回暴風雨ノ襲來ヲ受ケタル爲メ成育ニ障害ヲ來シ施肥區ニアリテハ蔓ノ伸長四五尺ニ達セシモノ
 アリシカド無肥區ニアリテハ殆ンド成育セサルモノヲ認メタル程ニシテ最良ク伸長セシモノニテ二
 尺位ニ過キサリキ斯クテ十二月一日收穫セシ成績ハ

區番 試驗區名	收穫量		反當收穫量		四十四年同上	
	諸量	蔓量	諸量	蔓量	諸量	蔓量
一一一 肥	1,260	1,260	1,100	1,100	1,110	1,110
一一三 無肥	1,100	1,100	1,100	1,100	1,110	1,110

肥料モ亦前年ト同シク甘藷ニ施スコトナク茶樹ニ施用セルモノナリ右表ニヨリ反當收量ヲ比較スル
 ニ施肥ハ無肥ニ對シ諸量十一貫六百六十三匁蔓量六貫四百七十六匁ノ增收ヲ示セリ右ノ内使用ニ堪
 ユルモノ施肥區ニアリテハ約七割無肥區ニアリテハ四割ニ過キサリキ尙前年ニ比スレハ無肥區ニ於

テハ諸量ハ大差ナク蔓量ニアリテハ却ツテ三倍ノ增收アリシト雖施肥區ニアリテハ蔓量ニ於テハ略
 相等シク諸量ハ九貫四百六十三匁ノ減收ニシテ約五割ニ相當スルノ不成績ナリキ之レ主トシテ前述
 セシガ如ク臺灣大蟋蟀ノ喰害ト時期ノ遅レタルニヨル

第三節 人耕ト牛耕トノ比較試驗

茶園ノ中耕ヲナスニ人耕ト牛耕トハ何レカ經濟的ナルカ並ニ其影響ヲ見ルニアリ今其賃銀ヲ見ルニ

中耕月日	牛耕區		人耕區	
	所要時間	賃銀	所要時間	賃銀
四月八日 水牛	三〇分	四	四月二日 人夫	一八分
五月廿三日 同	五二分	四	五月十八日 同	一〇分
八月九日 同	五五分	四	八月十九日 同	一〇分
十一月十九日 同	一〇分	三	十一月六日 同	一〇分
計	一〇分	三	一〇分	一〇分
壹萬標當	1,000	3,000	1,000	1,000

備考 一日ノ勞働時間ハ四月一日ヨリ九月卅日迄ハ九時間半拾月一日ヨリ三月三十一日迄
 ハ八時間半ニシテ人夫賃ハ何レモ三十二錢水牛ハ七拾錢也

壹萬標當收穫量ハ左ノ如シ

區番	區名	一畝宛施肥量	摘採期間	摘採回数	一畝當收葉量				季別製茶歩合				
					春茶	夏茶	秋茶	名茶計	春	夏	秋	冬平均	
108	牛耕區	大豆粕 過燐酸石灰 二	自四月四日 至十月四日	一八	3,197.0	2,876.6	2,111.0	8,184.6	2,111.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0
109	牛耕區	硫酸加里 一	自四月四日 至十月四日	二〇	3,512.3	1,843.7	2,111.0	7,467.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0
110	人耕區				3,512.3	1,843.7	2,111.0	7,467.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0	2,111.0

牛耕區一畝宛中耕賃銀十七圓七十四錢二厘ニ對シ人耕區ハ二十一圓六十五錢七厘ニシテ差引三圓九十一錢五厘牛耕ノ利アルヲ示セリ尙收量ヲ見ルニ人耕區ハ茶權比較的一ナルニ拘ハラズ牛耕區ニ比シ二貫七百二十三匁ノ減收ヲ示セリ而シテ後表ニヨリ前年ノ收量ト對照スルニ四十四年度ニ比スレバ人耕區ハ二百七十一貫八百三十八匁牛耕區ハ八十四貫二百六十九匁何レモ減收ニシテ四十三年ニ比較スレバ人耕區ハ百八貫六百六十九匁ノ減收ナルニ牛耕區ニ於テハ六十六貫二百三十一匁ノ增收ヲ示セリ尙四十三年度ニ於テ人耕區ハ牛耕區ニ對シ百七十二貫七百七十七匁四十四年度ニ於テハ百八十四貫八百三十五匁ノ增收アリシニ拘ハラズ本年ニ至リテハ却ツテ減收ヲ示スニ至レリ是等ノ成績ヲ見レバ人耕ノ茶權ニ及ホス影響ヲ察知シ得ヘシ是レ前年ノ成績書ニモ記述セシガ如ク人耕ハ反轉及深度ニ利アリト雖固結密着シ易ク土壤ノ理學的性狀ヲ不良ナラシムルニ起因スルモノ、如シ尙ホ製品ニ就テ見ルニ人耕區總平均點數六十一點牛耕區ハ六十三點ニシテ同シク牛耕區ノ優レルヲ見バ益々牛耕ノ利アルヲ知ルヘシ

前年トノ收量比較表

區番	區名	四十五年	四十四年	四十三年
108	牛耕區	八二五九三	九一三〇七	七五七九七
109	牛耕區	八二五九三	九一三〇七	七五七九七
110	人耕區	八二五九三	九一三〇七	七五七九七

審査鑑定成績

審査項目	定點	人耕區				牛耕區			
		春	夏	秋	冬計	春	夏	秋	冬計
形	100	100	100	100	100	100	100	100	100
色	100	100	100	100	100	100	100	100	100
澤	100	100	100	100	100	100	100	100	100
水	100	100	100	100	100	100	100	100	100
萎	100	100	100	100	100	100	100	100	100
香	100	100	100	100	100	100	100	100	100
調	100	100	100	100	100	100	100	100	100
釜	100	100	100	100	100	100	100	100	100
乾	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

第四節 製茶試驗

如何ナル程度ノ茶ヲ産シ得ヘキカト其得失ヲ知ラントスルニアリ其收穫成績左ノ如シ

區番	區名	一權宛施肥量	摘採期間	摘採回数	一萬權當収量				季別製茶歩合				
					春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬
一一四	無肥	大豆粕 過燐酸石灰 硫酸加里	自四月十三日 至四月十六日	三	二八・七	一六・九	二二・一	三六・二	六六・五	二二・五	二九・七	二八・四	二七・七
一一五	肥	同上	自四月十二日 至十月十六日	三	二八・九	一六・六	二〇・八	三六・二	六六・四	二二・四	二九・七	二八・四	二七・七

本試験ハ本年始メテ行ヘルモノニシテ目的ニ從ヒ摘採ニ注意ヲ拂ヒ成ル可ク小芽ニ且ツ古葉、老葉、其他爽雜物ヲ混ゼザル様町嚙ニ摘採スルコト、セリサレバ他ノ區ニアリテモ大抵年摘採回数十七八回ナルニ本試験區ニ於テハ二十二回ノ摘採ヲ重ネタリ而シテ其收量ニ於テハ施肥無肥殆ンド差違ヲ認ムルコト能ハサリシト雖此ハ百十五番ノ茶標比較的小ニシテ不整一ナルニ起因スルモノ、如シ左ニ普通ニ摘採セル施肥無肥區ト對照シテ審査鑑定成績ヲ示スヘシ

審査項目	定點	一一四番無肥				一一五番施肥				一一二番無肥				一〇八番施肥			
		秋	夏	春	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	
形	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
色	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
澤	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
水	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
潤	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
釜	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
乾	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
計	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	

大稻埕ニ於ケル價格鑑定表

製造月日	價	一一四番無肥		一一五番施肥		一一二番無肥		製造月日	價	一〇八番普通	
		格	製造月日	格	製造月日	格	製造月日			格	製造月日
四月十七日	二五・〇	四月十八日	二五・〇	四月十七日	二五・〇	四月十五日	二五・〇	四月十五日	二五・〇	四月十五日	二五・〇
四月廿六日	二二・〇	四月廿五日	二二・〇	四月廿五日	二二・〇	四月廿日	二二・〇	四月廿日	二二・〇	四月廿日	二二・〇
五月二日	二〇・五	五月二日	二〇・五	五月三日	一八・〇	五月二日	一八・〇	五月二日	一八・〇	五月二日	一八・〇
春茶平均	二二・三	五月八日	二二・三	五月八日	二二・三	五月八日	二二・三	五月八日	二二・三	五月八日	二二・三
五月八日	二二・五	五月八日	二二・五	五月八日	二二・五	五月八日	二二・五	五月八日	二二・五	五月八日	二二・五
五月十一日	二二・〇	五月十一日	二二・〇	五月十一日	二二・〇	五月十一日	二二・〇	五月十一日	二二・〇	五月十一日	二二・〇
五月十八日	二二・〇	五月十八日	二二・〇	五月十八日	二二・〇	五月十八日	二二・〇	五月十八日	二二・〇	五月十八日	二二・〇
五月廿四日	二二・〇	五月廿四日	二二・〇	五月廿四日	二二・〇	五月廿四日	二二・〇	五月廿四日	二二・〇	五月廿四日	二二・〇
六月三日	二二・〇	六月三日	二二・〇	六月三日	二二・〇	六月三日	二二・〇	六月三日	二二・〇	六月三日	二二・〇
六月十五日	二二・〇	六月十五日	二二・〇	六月十五日	二二・〇	六月十五日	二二・〇	六月十五日	二二・〇	六月十五日	二二・〇
七月一日	二二・〇	七月一日	二二・〇	七月一日	二二・〇	七月一日	二二・〇	七月一日	二二・〇	七月一日	二二・〇
七月十一日	二二・〇	七月十一日	二二・〇	七月十一日	二二・〇	七月十一日	二二・〇	七月十一日	二二・〇	七月十一日	二二・〇
七月十八日	二二・〇	七月十八日	二二・〇	七月十八日	二二・〇	七月十八日	二二・〇	七月十八日	二二・〇	七月十八日	二二・〇

七月廿四日	一九〇〇	七月廿四日	二〇〇〇	八月一日	二〇〇〇
八月一日	一九〇〇	八月一日	二〇〇〇	八月十二日	一九〇〇
夏茶平均	二〇〇〇	八月十二日	二〇〇〇	八月十三日	一九〇〇
八月十二日	二〇〇〇	八月廿二日	二〇〇〇	八月十三日	一九〇〇
八月廿一日	二〇〇〇	八月廿二日	二〇〇〇	八月廿二日	一九〇〇
總平均	二〇〇〇	八月廿二日	二〇〇〇	八月廿二日	一九〇〇

今當場審査ノ點數ヲ見ルニ無肥區六十六點施肥區六十七點ニシテ施肥區一點勝レリ無肥區ト對照無肥(一一番)ト比較スルトキハ五點無肥區優越シ施肥區ハ對照施肥區(一〇八番)ニ比シ四點ノ高點ニシテ何レモ製茶試驗ノ優秀ナルヲ示セリ尙ホ大稻埕ニ於ケル鑑定價格ヲ見ルニ(九月以降ヲ缺グ)製茶試驗無肥區平均二十三圓六十九錢施肥區ハ二十三圓三十一錢ニシテ無肥區ニ於テ三十八錢ノ高價ナリ然レトモ是等ハ未ダ品質ノ下降價格ノ下落トハ云ヒ難シ尙無肥區ハ對照無肥ニ對シ四圓三十八錢對照施肥ニ比シ五圓五十七錢對照高價ニ又施肥區ハ對照施肥ニ比シ五圓十九錢對照無肥ニ比スレバ四圓ノ高價ニシテ審査鑑定ト同ジク施肥無肥ヲ不同遙ニ製茶試驗ノ優良ナルヲ見ルヘシ而シテ本年ハ恰モ優品ヲ產スヘキ六月中ニ降雨連日ニ亘リシ爲メ品質ヲ損ヒ惹イテ平均點數及平均價格ニモ影響ヲ及ボセリサレバ其頃ノ天氣良好ナリセバ尙之上ノ好成績ヲ顯ハスベカリシナラン尙普通ニ摘採セル前年度トノ收量對照ヲ見ルニ

區番	區名	四十五年總收葉量	四十四年總收葉量	備	考
一一四	無肥	六、二〇〇	六、一〇〇		
一一五	施肥	二、二〇〇	七、七〇〇		
一一六	想思樹間作	六、四〇〇	六、三〇〇		

百十四番ニ於テハ前年ニ比シ百廿七貫六百九十六匁、一一五番ハ百十四貫〇五十匁何レモ減收ヲ示セリ是レ一ツニ小芽ヲ摘採セシニヨルナランモ亦普通ニ摘採セル一一六番モ五十一貫七百八十九匁ノ減收ヲ示セルヲ見バ天候等他ノ原因ニヨル減收ナルヲ認メ得ヘシ又昨年度ニ於ケル價格本年ニ準シ秋茶二回迄ヲ平均セルニ百十四番拾七圓八十錢ニシテ五圓八十九錢、百十五番拾六圓五十錢ニシテ六圓八拾一錢何レモ本年度ノ高價ヲ示セリ前述セシガ如ク優品ヲ產スベキ夏茶期ニ降雨多クシテ品質ヲ下降セシメタルニ拘ハラズ夏茶期最良ナリシ前年度ニ對スル平均價格ノ高價ナルヲ示セルヲ見バ摘採賃銀ハ稍ヤ高昇スルヲ免レズト雖摘採ヲ懇切ニシ優良茶ヲ製スルノ利アルヲ認メ得ヘシ

第五節 烏龍茶製造ト包種茶製造トノ得失試驗

年ヲ迫フテ包種茶製造盛トナルヲ以テ烏龍茶製造トノ得失ヲ比較シ其優劣ヲ知ラントスルニアリ其成績ハ

區番	區名	一機究施肥料	摘採期間	摘採同數	春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	季別製茶歩合
一三一	無肥烏龍		自四月十八日 至十月十九日	一	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	春一夏一秋一冬一平均

一二九 無肥包種	大豆粕 過磷酸石灰 硫酸加里	一 三 八	自四月廿八日 至十月十九日	八	四三〇〇大	三三七九五	一五〇三〇	—	八八三三七	二五四	二二五二九	—	二七五
一三四 施肥烏龍	—	—	自四月十九日 至十一月五日	一七	四三三〇大	三三七九五	一五〇三〇	—	八八三三七	二五四	二二五二九	—	二七五
一三五 施肥包種	—	—	自四月廿八日 至十月十九日	八	四三〇〇大	三三七九五	一五〇三〇	—	八八三三七	二五四	二二五二九	—	二七五

包種區ニ於テハ施肥無肥共ニ七月廿八日、八月三日、八月十六日ノ三回（生葉量 一二九番 九五三三）烏龍茶ニ製造セリ摘採回数ハ示表ノ如ク烏龍區何レモ十七回包種區ハ八回ナリ今右表ニ就テ見ルニ無肥區ニ於テハ包種區烏龍區ニ比シ僅カニ廿六貫六百二十四匁ノ増政ニ過ギズシテ包種茶製造ノサマデ有利ナラザルヲ示セリト雖施肥ニアリテハ包種區二百八十二貫九百十六匁ノ多額ナル增收ヲ示シ包種茶製造ノ利アルヲ見ルヘシ又施肥無肥ヲ比較スルニ（元來現在ノ施肥區稀）烏龍區ニ於テハ施肥二百八十貫七百六十九匁其増加率三割五分五厘ニシテ包種區ニ於テモ施肥五百卅七貫六十一匁其增收割合實ニ六割五分七厘ニ當レリ又以テ肥料ノ効力ノ偉大ナルヲ知ルベシ

前年トノ收量ノ對照ハ左ノ如シ

區番	區名	四十五年總收葉量	四十四年同	四十三年同	備考
一三一	無肥烏龍	七九、七三三	七九、八三三	六九、八三六	四十三年度ハ試驗ヲ行ハサルモ
一二九	無肥包種	八、八三七	八、四三三	六、五三七	ノニシテ何レモ無肥ナリ
一三四	施肥烏龍	一〇、一八一	九、〇〇六	八、一七四	
一三五	同包種	一、三三九	一、三三九	一、三三九	

右表ニヨレバ無肥ニアリテハ烏龍包種共昨四十四年度ト殆ド大差ナク施肥ニアリテハ烏龍區ニ於テ百五十一貫三百九十三匁ノ增收ヲ示シ包種區ニ於テハ僅少ナル增收ヲ示セルノミ之レ施肥烏龍區ハ前年ノ施肥ニヨリテ樹勢ヲ増進シ加フルニ本年ノ施肥ニヨリテ益々其肥効ヲ發揮セシニヨルベク施肥包種區ノ比較的増量少キハ前述セシ如ク夏秋茶ノ一部ヲ烏龍茶ニ製造セシニヨルヘシ尙ホ無肥ニ於テハ前貫トノ收量ニ於テハ大差ナシト雖四十三年度即チ試驗施行前ノ收量ヲ見バ烏龍區ニ比シ包種區ノ増量多キコトヲ知ルベシ

審査鑑定成績ハ左ノ如シ

審査項目	定點	一三一番					一二九番					一三四番					一三五番						
		春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均		
形狀	二〇	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
色澤	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
水色	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
萎凋	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
香氣	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
滋味	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
乾造	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
計	一〇〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八

備考 包種茶ハ包種茶トシテ審査鑑定セシ爲メ點數多シ大稻埕ニ於ケル評價ハ左ノ如シ

製造月日	鑑定價格	製造月日	鑑定價格	製造月日	鑑定價格	製造月日	鑑定價格
四月十八日	112,000	四月廿八日	112,000	四月十八日	112,000	四月廿八日	112,000
四月廿七日	111,200			四月廿七日	112,000		
五月 八日	112,200			五月 八日	112,000		
春茶平均	110,000			五月廿四日	112,000		
五月廿四日	112,000			六月 一日	112,000		
六月 一日	112,000	六月十一日	112,000	六月 一日	112,000		
六月十三日	112,000	七月 二日	112,000	六月十三日	112,000		
七月 一日	112,000	七月廿六日	112,000	七月 一日	112,000		
七月十六日	112,000	八月 三日	112,000	七月十六日	112,000		
七月廿七日	112,000			七月廿七日	112,000		
八月 三日	112,000			八月 三日	112,000		
夏茶平均	112,000			八月十六日	112,000		
八月十五日	112,000			八月廿四日	112,000		
八月廿四日	112,000			總平均	112,000		

審査鑑定表ニ於テハ無肥區一點施肥區二點何レモ包種茶區ノ優レルヲ見ルヘシ尙ホ評價ハ九月以降ヲ缺クヲ以テ精確ト稱スル能ハザレトモ無肥ニアリテハ烏龍區九拾壹錢施肥ニアリテハ包種區壹圓

三十二錢ノ高價ヲ示セリ

尙烏龍茶製造ト包種茶製造トノ收支ヲ見ルニ

區 番	區 名	季加評價ニヨル總價格	摘採實銀	製造費	差 引	備 考
一三一	無肥烏龍	21,150	7,910	4,810	13,010	摘採實銀ハ何ニモ春茶一斤一錢七厘夏茶以降ハ一錢九厘トシテ計算セリ尙ホ製造費ハ百斤三圓六十六錢トシテ計算セリ
一二九	同 包種	25,620	8,820	5,110	11,710	
一三四	施肥烏龍	28,380	11,920	6,620	9,710	
一三五	同 包種	34,780	15,170	8,820	10,410	

無肥ニアリテハ烏龍區十五圓六十一錢施肥區ニアリテハ包種區百拾壹圓八十八錢ノ利ヲ示セリ據之觀是當場附近ノ如キ至極優品ヲ産スル能ハザル地ニ於テハ肥料ヲ使用シ包種茶ヲ製造スル方得策ナルガ如シ

第六節 石灰ノ效果試驗

生石灰ヲ施用シ以テ土壤ノ酸性ヲ中和シ茶樹ノ發育ニ及ボス效果ヲ知ラントスルニアリ其ノ成績ハ

區 番	區 名	一畝畝施肥量	摘採期間	一畝 當 收 葉 量				季別製茶歩合				
				春 茶	夏 茶	秋 茶	冬 茶	計	春	夏	秋	平均
一二八	第一區	石灰反當 0.000	自四月十八日至十一月五日	1.8	1.1	1.9	1.1	5.9	22.7	22.7	22.7	22.7
一二七	第二區	石灰反當 0.000	自四月十八日至十一月五日	1.7	1.1	1.4	1.1	5.3	22.7	22.7	22.7	22.7
一二六	第三區	大豆粕 1.000	自四月十八日至十一月五日	1.4	1.1	1.8	1.1	5.4	22.7	22.7	22.7	22.7

右表ニヨレバ第二區即チ大豆、粕石灰混用ハ第一區ノ石灰單用ニ比シ六十四貫十七匁六百第三區大豆粕單用ニ對シ四貫八百七十八匁何レニモ減收ヲ示セリ是レ第二區ハ他區ニ比シ茶櫨ノ小ニシテ不揃ナルト第一區ハ前年既ニ之ヲ施セシニ起因スルガ如シ今昨年トノ收量ヲ比較表記スルニ左ノ如シ

區番	區名	四十五年總收量	四十四年總收量	備考
一二八	第一區	七、七二九	七、八一〇	昨年度石灰加用
一二七	第二區	七、三六二	六、〇〇二	昨年度無肥石灰
一二六	第三區	七、一五〇	—	昨年度ハ無肥ナリシモ間作アリシヲ以テ舉ゲ難シ

本年度ニ於ケル收量ハ前述ノ如ク第二區最モ小額ナリト雖無肥無石灰ナリシ前年度ニ對比スレバ百十二貫六百七十匁第一區ハ七十九貫百九十九匁ノ增收ナリ之ニヨリテ見レバ大豆粕石灰兩用ノ最良ナル成績ヲ示セルヲ知ルベク又前表ニヨリ又石灰ノ効果ハ年ヲ閱スルニ從ヒ漸次著ハレ來ルヲ知ルヘシ

當場ニ於ケル審査鑑定成績ハ

審査項目	定點	一二八番				一二七番				一二六番						
		春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均
形	三〇	六	六	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
色	〇	七	八	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水色	〇	七	七	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
澤	〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
狀	〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

審査項目	定點	一二八番				一二七番				一二六番						
		春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均
萎	一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香	一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
潤	一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
澁	一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
釜	一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
乾	一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	六	八	八	八	七	六	八	八	八	七	六	八	八	八	七

右ニヨレバ第三區ノ平均點數ニテ一點多キノミ殆ド影響ナシ

第七節 硫酸鐵加用試驗

茶樹ハ鐵分ヲ多用スト稱スルヲ以テ硫酸鐵ヲ施シ其ノ及ボス影響ヲ見ルニアリ

收穫成績表

區番	區名	一標宛施肥量	摘採期間	摘採回数	一萬標當收葉量				計	季別製茶歩合				
					春茶	夏茶	秋茶	冬茶		春	夏	秋	冬	平均
一二三	硫酸銀加用區	二匁	自四月十九日至十月十九日	一六	三三・九二	三〇・四〇	二九・八五	—	九三・一九七	二二・六	二二・九	二二・七	—	—
一二二	無肥	—	自四月十八日至十月十八日	一六	三三・〇一	二九・〇〇	二九・八五	—	九三・一七三	二二・六	二二・九	二二・七	—	—

右表ニヨレバ加用區百三十三番ハ無加用區百三十一番ニ比シテ百三十一貫四百八十四匁ノ増加ニシテ其割合ハ一割六分六厘ナリ尙前年度トノ收穫比較ヲ見ルニ左ノ如シ

區番 區名 四十五年總收葉量 四十四年總收葉量 四十三年同上 備考

一三三 硫酸鐵加用區 九三三・九七 八〇一・八五 七六四・九六 四十四年ハ無加用ナリ

一三一 無加用區 七九七・七三 七九一・六一 六七八・五九

百三十一番無肥區ハ前年ノ收量ト殆ト相等シト雖百三十三番即チ加用區ニ於テハ本年度百二十一貫三百八十二匁ノ增收ニシテ四十四年ニ比較スレバ無加用區ハ百十二貫八百七十七匁、加用區ハ百五十八貫九百一匁何レモ本年ノ増加ニシテ加用區ニ於テ増加ノ大ナルヲ見バ硫酸鐵ノ效果アルヲ見ルヘク又加用區ニ於テ四十四年ニ對スル四十四年ノ増量ヨリ四十四年ニ對スル四十五年ノ増量多キニヨリ其肥効ハ漸次ニ顯レ來ルヲ知ルベシ

尙品質ニ及ボス影響ヲ見ルニ

審査項目	定點	一三三番(硫酸鐵加用)					一三一番(無加用)					一三四番(普通)				
		春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均	春	夏	秋	冬	平均
形	澤	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
色	澤	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
水	潤	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
萎	萎	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
香	氣	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
潤	味	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
釜	炒	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
乾	燥	六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
計		六〇	六二	六三	六三	六三	六二	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三

平均合計點數加用區ハ六十點對照無加用區六十三點ニシテ無加用區ニ三點ノ劣レルヲ見レトモ對照施肥(大豆粕一糶宛三十八匁、過燐酸石灰一匁、硫酸加里一匁七)ニ比較スレバ一點優レルヲ示セリ

第八節 泥土加用試驗

茶樹ニ池底ノ泥土ヲ施用シ其效果ヲ知ルニアリ其成績ハ

區番	區名	一糶宛施肥量	摘採期間	摘採回数	一萬糶當收葉量					季別製茶歩合					
					春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均	
一〇五	泥土加用	九二〇	自四月十六日至十一月五日	一八	二五七・八〇	一一二・七九	一九五・五七	一一一・〇〇	一一一・一一	五三三・三三	二二・八	二二・八	二二・七	二二・七	二二・七
一〇六	無肥	同	同	一八	二〇九・三八	九四・六一	一一一・〇〇	一一一・〇〇	一一一・〇〇	四三六・一七	二二・八	二二・八	二二・七	二二・七	二二・七

今右表ニヨリ無肥區ト對照スルニ泥土加用區九十四貫八十八匁ノ增收ヲ示セリ而シテ其肥効ハ秋期ニ至リ顯ハレタルガ如シ

泥土ハ前以テ池底ヨリ堀リ上ケ置キタルモノヲ十一月五日一糶九貫百二十匁宛ニ施セルモノナリ而シテ本年ハ恰初年ニシテ而モ急激ニ肥効ヲ顯ハスコト能ハサル性質ノモノナルガ故ニ未ダ充分ノ効果ヲ發揮スルコト能ハサリシヤモ知ルベカラズ然ルニ約二割ノ增收ヲ見タルハ本場ノ如キ有機質ニ缺乏セル粘土地ニハ比較的效果多キヲ知ルベシ

第十節 燐炭肥料試驗

茶樹ニ燐炭肥料ヲ施ス時ハ如何ナル効果ヲ及ボスベキヤヲ查定セントスルニアリ
收穫成績表

區番	區名	一畝宛施用量	摘採期間	摘採回数	一畝當收穫量				季別製茶歩合					
					春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均
一三二	小柳津式燐炭區	一七九匁	自四月九日至十一月五日	一七	四三三・九	三三九・三	三三九・三	三三九・三	一三六一〇・〇	二八二	二八二	二八二	二八二	二七五
一三三	無肥區	—	同	同	四六一・四	三〇〇・五	二二九・〇	一八八・〇	一〇八七・〇	二六二	二六二	二六二	二六二	二七五

右ノ成績表ニヨレバ燐炭肥料區ハ無肥區ニ比シ八貫三百八十四匁ノ減收ヲ示セリ之レ一ツニ無肥區ノ茶權ノ整一ナルニ基因スレトモ要スルニ本年度ニ於テハ燐炭肥料區ハ不良ノ成績ヲ呈セリ

第十一節 アルロールト間作試驗

五月六日ニ畦間ヲ耕鋤シ株間一尺ヲ隔テ、一個乃至二個宛下種セリ而シテ同月廿五日頃ニ至リテ發芽シ初メノ程ハ成育良好ナリシガ月経ルニ從ヒ成長鈍リ莖長漸ク一尺内外ニ達セシノミニテ遂ニ良好ノ成績ヲ舉グルコト能ハサリキ斯塔テ十一月廿一日ニ收穫シ反當十三貫七百十四匁ヲ得タリ今是ヲ昨年ノ收量ト比較スルニ實ニ廿四貫五百三十六匁ノ減收ニシテ一昨年ニ比スレバ十一貫七百七

十匁ノ增收ヲ示セリ之レ昨年ハ施肥セルモノニシテ本年度ノ四十三年度ニ對スル增收ニハ幾分昨年度ノ肥料ノ殘功アリシモノナラン

茶葉收穫ニ及ボスベキ影響ヲ見ルニ

區番	區名	摘採期間	摘採回数	一畝當收穫量				茶期別製茶歩合					
				春茶	夏茶	秋茶	冬茶	計	春	夏	秋	冬	平均
一三六	間作區	自四月十八日至十一月五日	一七	四七九・一	三三三・八	三三三・八	三三三・八	一三六一〇・〇	二八二	二八二	二八二	二八二	二七五
一三一	對照區	自四月十八日至十月十八日	一七	三三三・八	二〇〇・〇	一八九・五	—	一三六一〇・〇	二六二	二六二	二六二	—	二七五

對照區ニ比較スレバ間作區二百十六貫六百九十三匁ノ增收ナリ之レ間作區ノ茶權大ニシテ整一ナルニ起因スレトモ又以テ間作ノ毫モ影響ナキヲ知ルヘシ然レトモ或ハ間作物ノ影響ヲ及ボス丈ケ長大ニ成長セサリシニモ因ルヘキカ

備考 四十四年度ニ於ケル茶葉收穫量ハ百二十六番一區ノモノナリシガ本年度ハ二區ニ別チ一區

ニハ大豆粕ヲ施シ石灰効果比較試驗トシタルヲ以テ昨年度ト收量ハ比較ヲ取り難シ

第十二節 綠肥用アルビシヤ間作試驗

本樹ハ明治四十三年四月畦間茶樹二畦株間二間ヲ隔テ、移植セシモノナリ其株數四十四、昨年十月十二日枝打ヲナシ收量四貫六百六十匁一株當百貫五匁九ヲ得タリ本年ハ時期遅レタレトモ十月廿四

日ニ收穫シ葉量一株當四十九匁枝條四十五匁ヲ得タリ今是ヲ昨年ノ收量ニ比スレバ其ノ半ニモ滿タ
ス之ニ昨年ハ施肥セルニ起因スルモノナラン尙ホ收穫セル綠葉ハ直チニ茶株ノ兩側ニ埋メ込ミタリ
現今ノ成育狀態ヲ觀察スルニ當場附近ノ如キ土地ニハ成育餘リ良好ナラサルガ如シ尙ホ前年トノ茶
葉收量ヲ比較スレバ

區 番	區 名	四十五年總收葉量	四十四年總收葉量	四十三年總收葉量
一二三	アルビジャ間作區	100kg	9kg	85kg

四十二年ニ比較スレバ百五十五貫四百三十七匁四十四年ニ對シテハ九十二貫百九十九匁ノ增收ヲ示
セルヲ見バ年ニヨリ天候等事情ヲ異スヘキモノアリト雖又以テ多少効果アルハ確カナリ

第十三節 想思樹間作試驗

想思樹ハアルビジャト同シク四十二年四月ニ移植セシモノニシテ移植後ノ成育ハ良好ナリシモ昨年
迄ハ收量ヲ見ルニ至ラザリシガ本年末ニハ六七尺ニ達セルモノアリシヲ以テ十月廿五日其大ナルモ
ノヲ選ビ枝打ヲナシ葉ハ直チニ茶樹ニ施用セリ其收量ハ左ノ如シ

種 別	總 收 量	種 別	總 收 量	一 株 宛 收 量
葉	一〇、九六〇	枝	三、四四〇	一五六
備考	葉ハ小枝ヲ含ミ又枝ハ薪用ニ供セラレ得ベシ			

前年トノ茶葉收量對照ハ左ノ如シ

區 番	區 名	四十五年總收葉量	四十四年總收葉量	四十三年總收葉量
一一六	想思樹間作	六二四四三	六六二六一	六四三三三

四十四年ニ對シテハ五十一貫八百十九匁四十三年ニ比スレバ六十九貫七百八十匁ノ減收ナリ斯ク年々ノ減少ヲ示セルハ一ニ茶樹ノ老齡ニシテ逐年收量ヲ減ズルノ傾向アルニヨルガ如ク思ハルレトモ要スルニ想思樹間作ノ效果未ダ顯ハレザルヲ知ルヘシ

第十四節 機械試驗

在來烏龍茶製造ニ機械ヲ使用セザルヲ以テ本年左記三種ニ對シ試驗セシ結果ヲ舉クヘシ

第一望月式揉捻器

本機械ハ静岡縣庵原郡尻尻町橋本工場ノ製造ニシテ別紙圖面ノ如キ構造ナリ

一、使用法

釜炒終了セシモノ五釜分ヲ回轉シツ、入レ時々上及右ノ螺旋ヲ交互ニ上下シテ塊ノ反覆ヲ自由ナラシムルト共ニ揉捻ヲ堅カラシメ又外側ニ出ルモノヲ掃キ入レツ、廻轉ス回轉時間ハ葉ノ老幼硬軟ニヨリ異レトモ大約五分乃至七分間ニシテ終ルモノナリ此生菜約十五斤ニシテ萎凋濟量十二斤一五ナリ爰ニ注意スヘキハ分量ノ度合ニシテ一回ニ多量ノ揉捻ヲナサント欲シ無理ニ入ル、ガ如キ又ハ早ク終ラントシテ急速ニスルガ如キハ甚ダ慎ムヘキコトニシテ先ツ前記ノ量ヲ極量トシテ廻轉ハ一人

ニテ持續シ得ル程度ニ廻スヘシ

二、機械ト足踏トノ經濟比較

本比較ヲナサンガ爲メ試驗ノ結果ニヨリ假リニ二十萬權ヲ栽培スルモノトシテ計算スレバ次ノ如シ

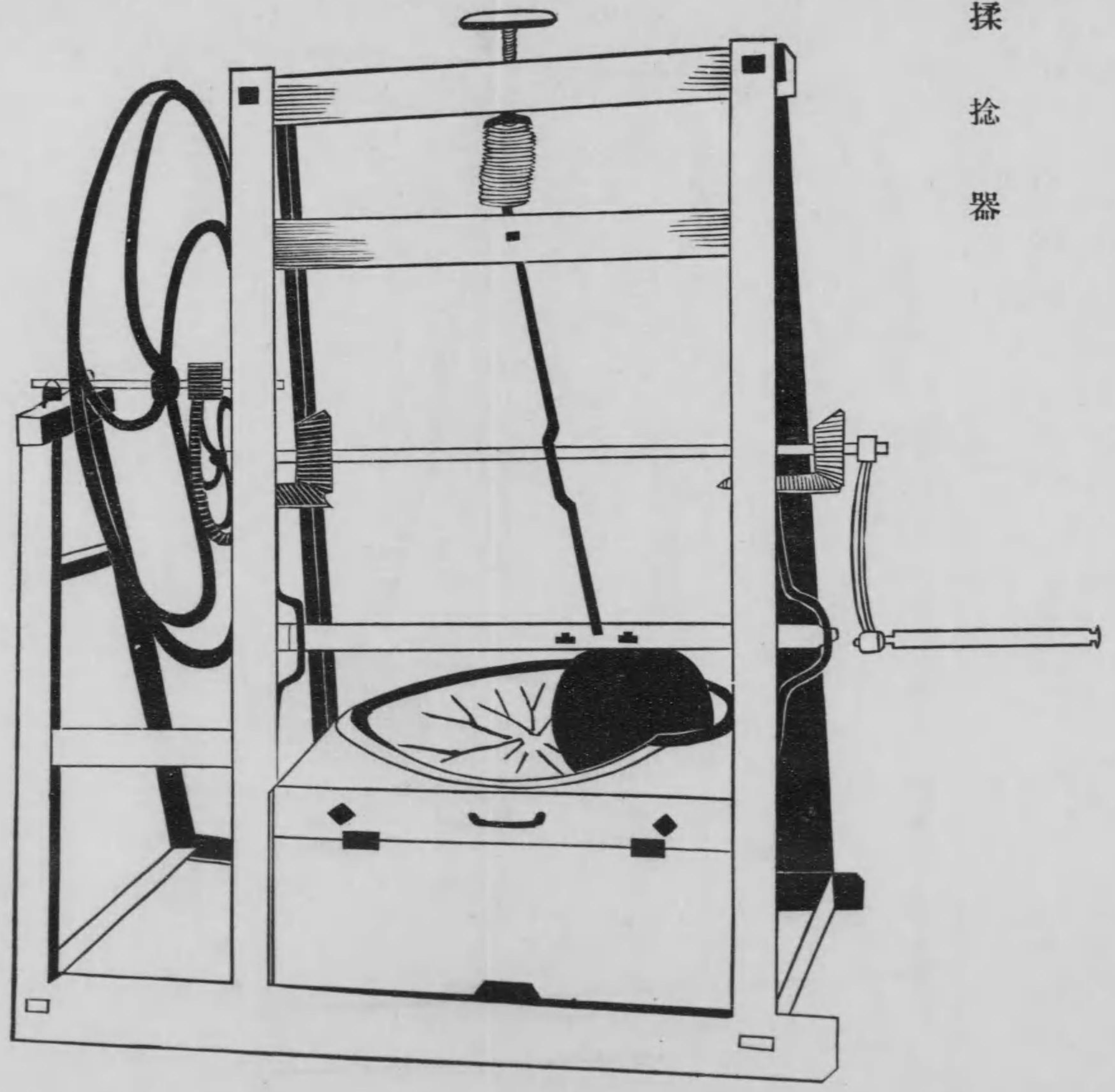
一萬權製茶收量	一千斤
此生菜量	四千斤
二十萬權製茶量	二萬斤
此生菜量	八萬斤
内春茶生菜量	(年收量ノ四割)三萬二千斤
夏茶以降	(年收量六割)四萬八千斤
春茶摘採回数	三回 此日數二十一日
同一日摘採量	一千五百二十三斤八
釜八個使用一個一回三斤	六十三回ト四釜
一回ノ釜炒時間十分間故ニ總時間	六百四十分間
揉捻器ハ一回釜五個分(總釜數五百八釜)故ニ	百二回
一回揉捻時間五分間(總時間)	五百十分間
夏茶以降ハ製造日數	九十日
同生菜量四萬八千斤ニ付一日量	五百三十三斤三
釜三個使用一個一回三斤ニ付	五十九回ト一釜



本比較ヲナサンガ爲メ試験ノ結果ニヨリ假リニ二十萬權ヲ栽培スルモノトシテ計算スレバ次ノ如シ

一萬權製茶收量	一千斤
此生葉量	四千斤
二十萬權製茶量	二萬斤
此生葉量	八萬斤
內春茶生葉量	(年收量ノ四割)三萬二千斤
夏茶以降	(年收量六割)四萬八千斤
春茶摘採回数	三回 此日數二十一日
同一日摘採量	一千五百二十三斤八
釜八個使用一個一回三斤	六十三回ト四釜
一回ノ釜炒時間十分間故ニ總時間	六百四十分間
揉捻器ハ一回釜五個分(總釜數五百八釜)故ニ	百二回
一回揉捻時間五分間(總時間)	五百十分間
夏茶以降ハ製造日數	九十日
同生葉量四萬八千斤ニ付一日量	五百三十三斤三
釜三個使用一個一回三斤ニ付	五十九回ト一釜

揉 捻 器





一回ノ釜炒時間七分間故ニ總時間 四百二十分間

揉捻器ハ一回ニ釜五個(總釜數百七十回)故ニ 三十六回

一回ノ揉捻時間七分間ニ付總時間 二百五十二分間

春茶中在來揉捻人夫ハ釜八個ニテ 八人

同 揉捻器ヲ使用セバ 一人半 (此差六人半)

夏茶以降在來揉捻人夫ハ釜三個ニ付 三人

同 揉捻器使用セバ 一人 (此差二人)

春茶製造日數廿一日間ニ付差人數 百三十六人半

夏茶以降製造日數九十日間ニ付差人數 百八十人

一ヶ年使用人夫差總人數 三百十六人半

一日一人賃銀三十五錢 百十圓七十七錢五厘

製茶百斤當利益 五十五錢三厘

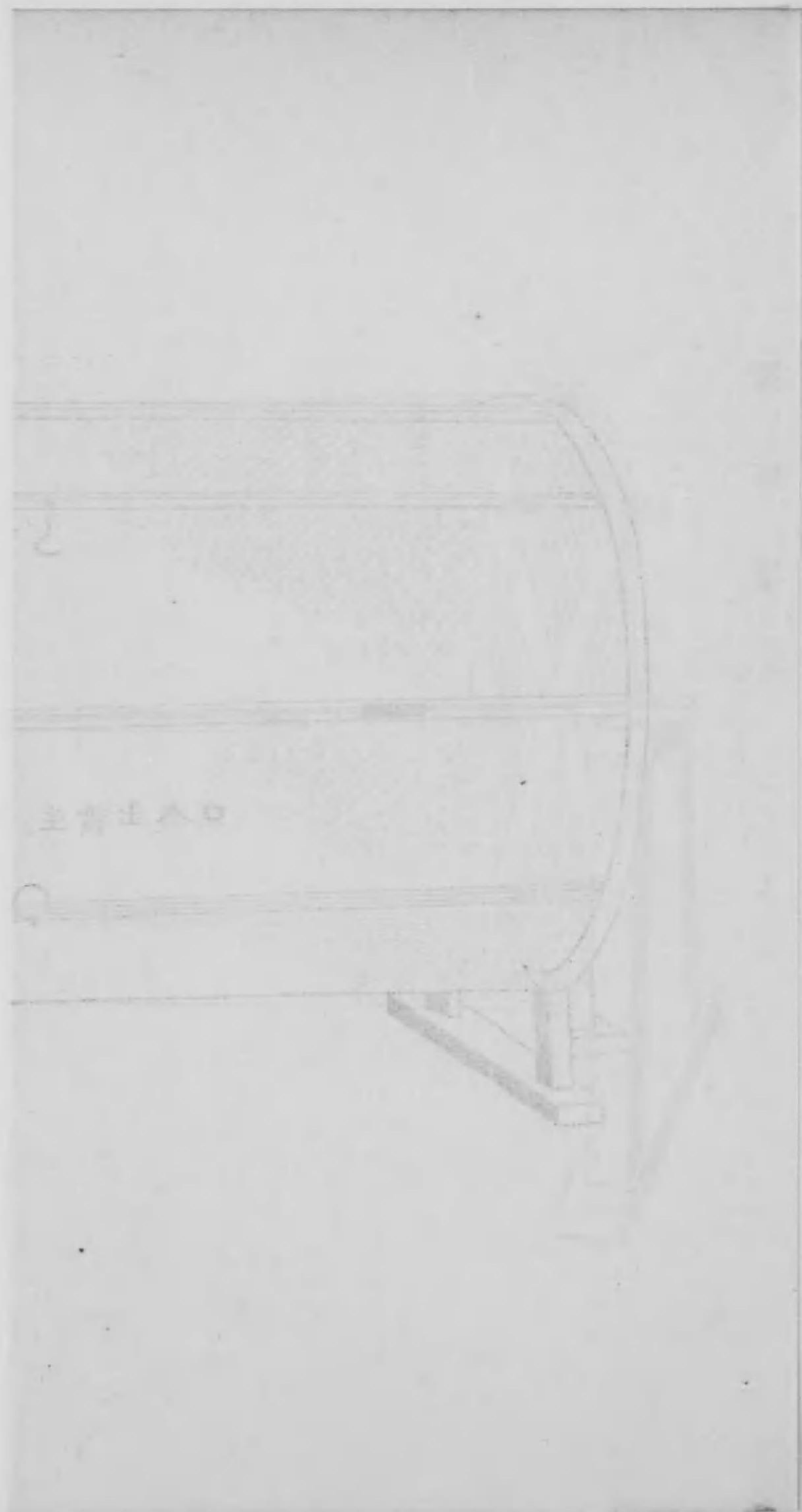
以上ノ如ク本機使用センカ春茶期中一日間ニ二時十分夏茶以降一日二時四十八分間ヲ節約シ尙ホ製
 茶百斤ニ付五十五錢三厘ノ生産費ヲ減少シ得ルノミナラズ世人ノ最モ忌ムヘキ土足揉捻ノ如ク汚物
 ヲ混合セサルナリ進ンテ其製品ハ班ナル揉捻ナラズシテ能ク均一シ捻ノ強キ等ニテ形狀優良ニシテ
 價格又之ニ伴フノ利アリ殊ニ老葉即チ包種原料茶ノ如キモノ、揉捻ニ際シ其効力ヲ發揮スルコト甚
 ダシ

第二 萎 凋 機

一 構造及回轉

當場ノモノハ元製茶試驗場ニテ機械ニヨリ回轉使用シツ、アリシモノヲ幾分小サクセシモノニテ直徑三尺六寸長サ七尺三寸ニ達シ別紙圖面ノ如ク八角形ヲ呈シ周圍ハ竹綱代ニテ包ミ其上ヲ木ニテ押へ内一角ヲ開閉口トス兩端ハ徑一分位ノ荒目綱代ヲ以テ圍ヒ中軸ヲ兩側据付ノ棒ニ架ケ周圍ヨリ出スル木ヲ手又ハ足ニテ回轉スルモノナリ一回ニ七十斤内外ヲ入レ回轉ハ生葉ノ老幼、水分ノ多少春夏秋冬ニ依リ多少ノ差ヲ生ジ又最初ハ一分間四回後五六回ニ増加回轉スヘキモノニテ今春茶日旱濟ミノモノヲ直チニ萎凋セントスルキノ時間ヲ舉クレバ該生葉ハ水分多キヲ以テ最初五六分間回轉シテ四十分間位放置シ廿分間ノ回轉ヲナシ又一時二十分間位ヲ經テ三十分間程廻セバ萎凋ヲ終ルモノナリ此間ノ時間二時五十五分ニテ内廻轉時間ハ五十五分放置時間二時間ナリトス因ニ夏茶ノ如キ優良芽且ツ水分少キモノニアリテハ春茶ノ如ク永カラズ且ツ回轉時間ハ約半バニシテ宜シ今二十萬權ノ茶權ヲ栽培スルモノトシテ計算セバ

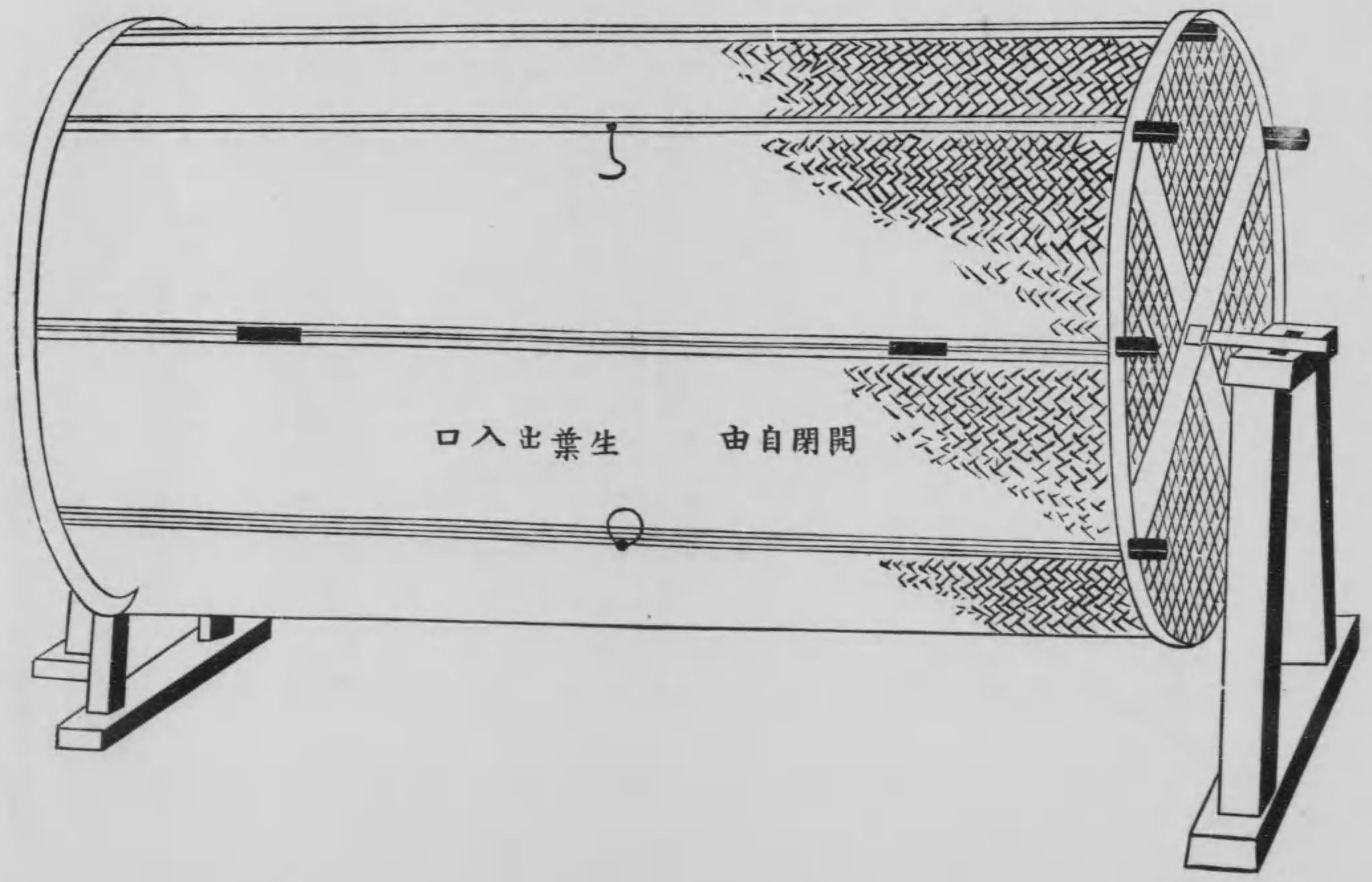
春茶一日ノ生葉量 一千五百二十三斤八
 同在來法六人ニ對スル機械ノ使用二個ニテ二人其差四人
 春茶期中製造日數廿一日ニテ其差 八十四人
 夏茶以降在來法三人ニ對スル機械使用一人 差二人
 同製造日數九十日間ニテ差人數 百八十八人



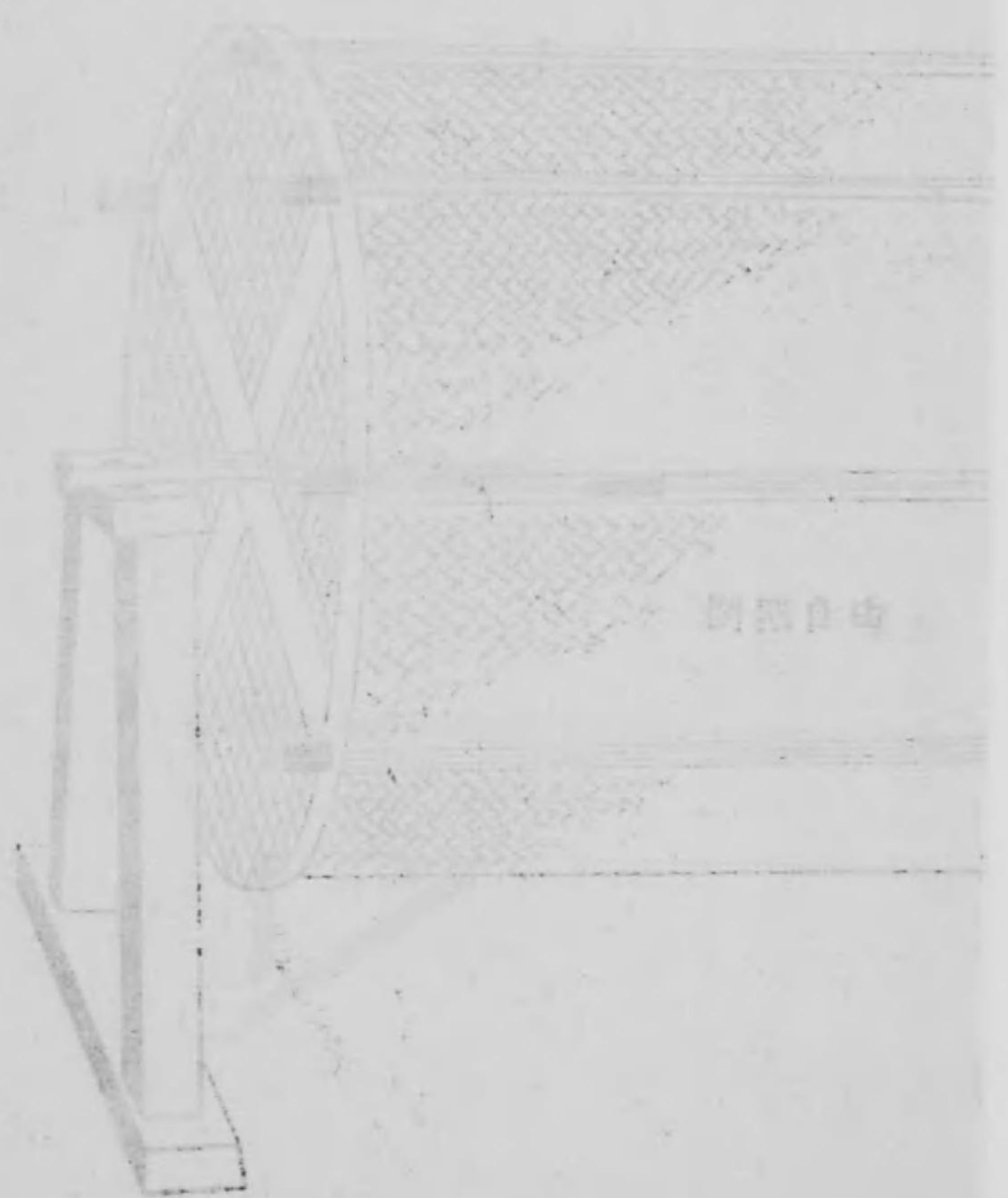
徑三尺六寸長サ七尺三寸ニ達シ別紙圖面ノ如ク八角形ヲ呈シ周圍ハ竹綱代ニテ包ミ其上ヲ木ニテ押
 へ内一角ヲ開閉口トス兩端ハ徑一分位ノ荒目綱代ヲ以テ圍ヒ中軸ヲ兩側据付ノ棒ニ架ケ周圍ヨリ出
 スル木ヲ手又ハ足ニテ回轉スルモノナリ一回ニ七十斤内外ヲ入レ回轉ハ生葉ノ老幼、水分ノ多少春
 夏秋冬ニ依リ多少ノ差ヲ生ジ又最初ハ一分間四回後五六回ニ増加回轉スヘキモノニテ今春茶日旱濟
 ミノモノヲ直チニ萎凋セントスルキノ時間ヲ舉クレバ該生葉ハ水分多キヲ以テ最初五六分間回轉
 シテ四十分間位放置シ廿分間ノ回轉ヲナシ又一時二十分間位ヲ經テ三十分間程廻セバ萎凋ヲ終ルモ
 ノナリ此間ノ時間二時五十分ニテ内廻轉時間ハ五十五分放置時間二時間ナリトス因ニ夏茶ノ如キ
 優良芽且ツ水分少キモノニアリテハ春茶ノ如ク永カラズ且ツ回轉時間ハ約半バニシテ宜シ
 今二十萬擔ノ茶糶ヲ栽培スルモノトシテ計算セバ

春茶一日ノ生葉量 一千五百二十三斤八
 同在來法六人ニ對スル機械ノ使用二個ニテ二人其差四人
 春茶期中製造日數廿一日ニテ其差 八十四人
 夏茶以降在來法三人ニ對スル機械使用一人 差二人
 同製造日數九十日間ニテ差人數 百八十八人

萎 凋 器



口入出葉生 由自閉開



一ヶ年差總數

一日一人賃銀三十五錢

製茶百斤當利益

二百六十四人

九十二圓四十錢

四十六錢四厘

右ノ如ク萎凋時間約一時間早キノミナラズ製茶百斤ニ付四十六錢四厘ノ生産費ヲ減シ得ヘシ
 今又大稻埕ニ於ケル評價格ヲ受ケタルモノヲ舉クレバ次ノ如シ

種 別	百斤當價格
揉捻器ノミ使用	二〇、三〇〇
右兩機使用	二一、一〇〇

種 別	百斤當價格
萎凋機ノミ使用	二〇、四〇〇
在 來 注	二〇、六〇〇

以上ノ如ク兩器使用セシモノハ在來法ヨリ五十錢高價ニシテ其他ハ二三十錢ノ差ヲ生ゼシノミニシ
 テ製品ニ關係ナキヲ知ルヘシ

第三 玉 解 機

本機ハ別紙圖ノ如キ長方形ノ底ナキ箱ヲ具ヘ此箱ニハ漏斗口ヲ有スル蓋アリ其内部ニハ急速ニ回轉
 スヘキ棒ヲ有ス先ツ右手ニテ回轉シツ、左手ニテ揉捻ノ際生セシ葉塊ヲ頂上ノ漏斗ヨリ續々箱内ニ
 落セバ急速ニ回轉シツ、アル數本ノ棒木ニテ敲キ破ラレ下部ノ受物ニ入ル然レトモ一回ニテハ充分
 其目的ヲ達シ得サルヲ以テ二回乃至三回反復シテ之レヲ終ルモノナリ其工程ハ在來法即チ手ニテ玉
 解スルモノ十分乃至十二分間ヲ要スルモノヲ本機使用セバ三分乃至四分即チ三分ノ一ニシテ塊解シ

得ルモノニシテ三分ノ二時間ヲ節約シ得ルモノナリ

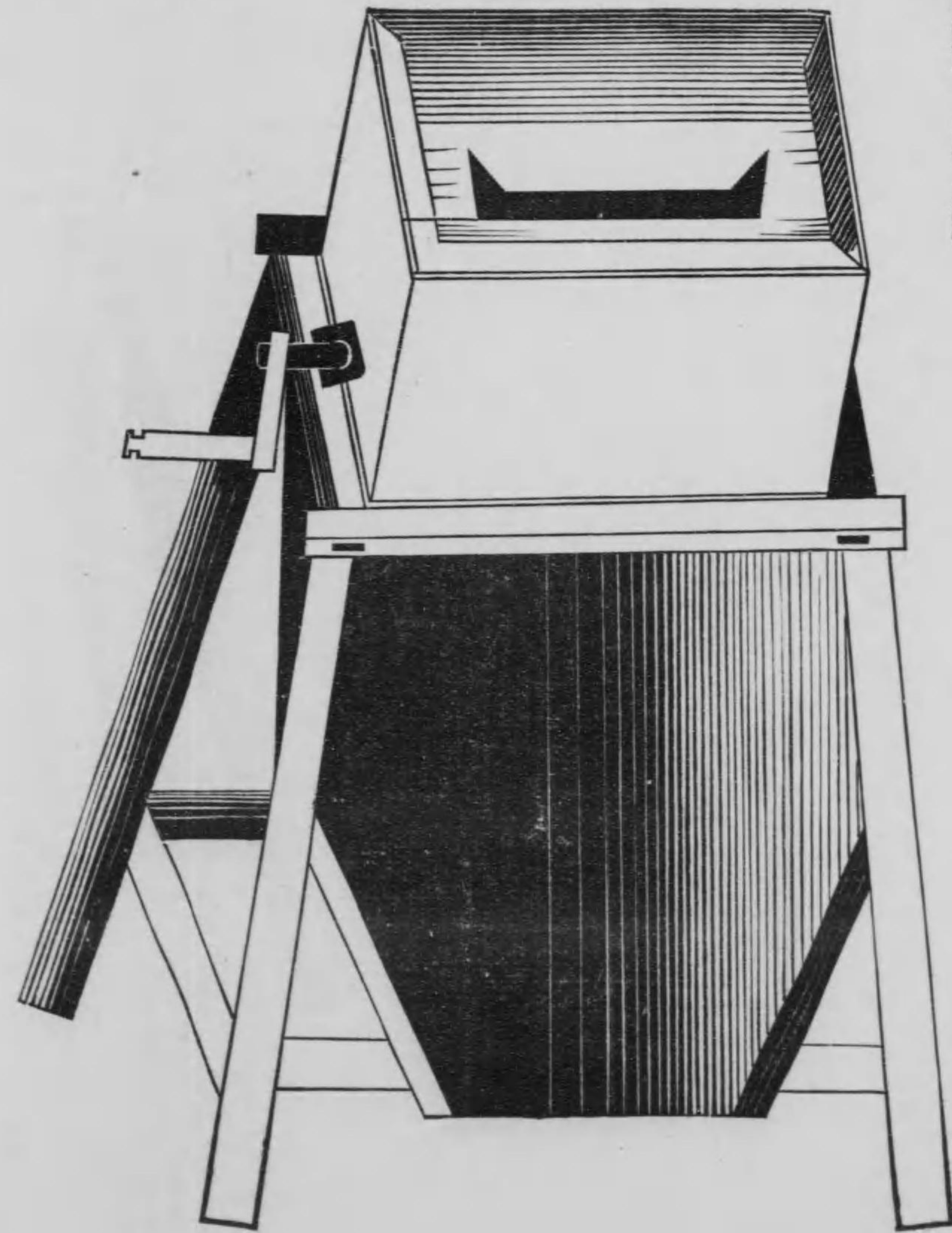
第十五節 播種時期試験

茶種子播種ノ好期ヲ見出サンガ爲メニ施行セリ種子ハ十一月初旬ニ採集シ直チニ外殻ヲ去リテ蔭乾セシモノヲ用ヒ各播種前二晝夜内外ノ浸種ヲナシ浮沈セシモノヲ別チテ播下セリ播種ハ畦巾一尺二三寸株間二寸五六分ニ各畦十五粒宛ヲ播種シ後一寸位ノ覆土ヲナシ約一ヶ月毎ニ行ヒシニ其結果次表ノ如シ

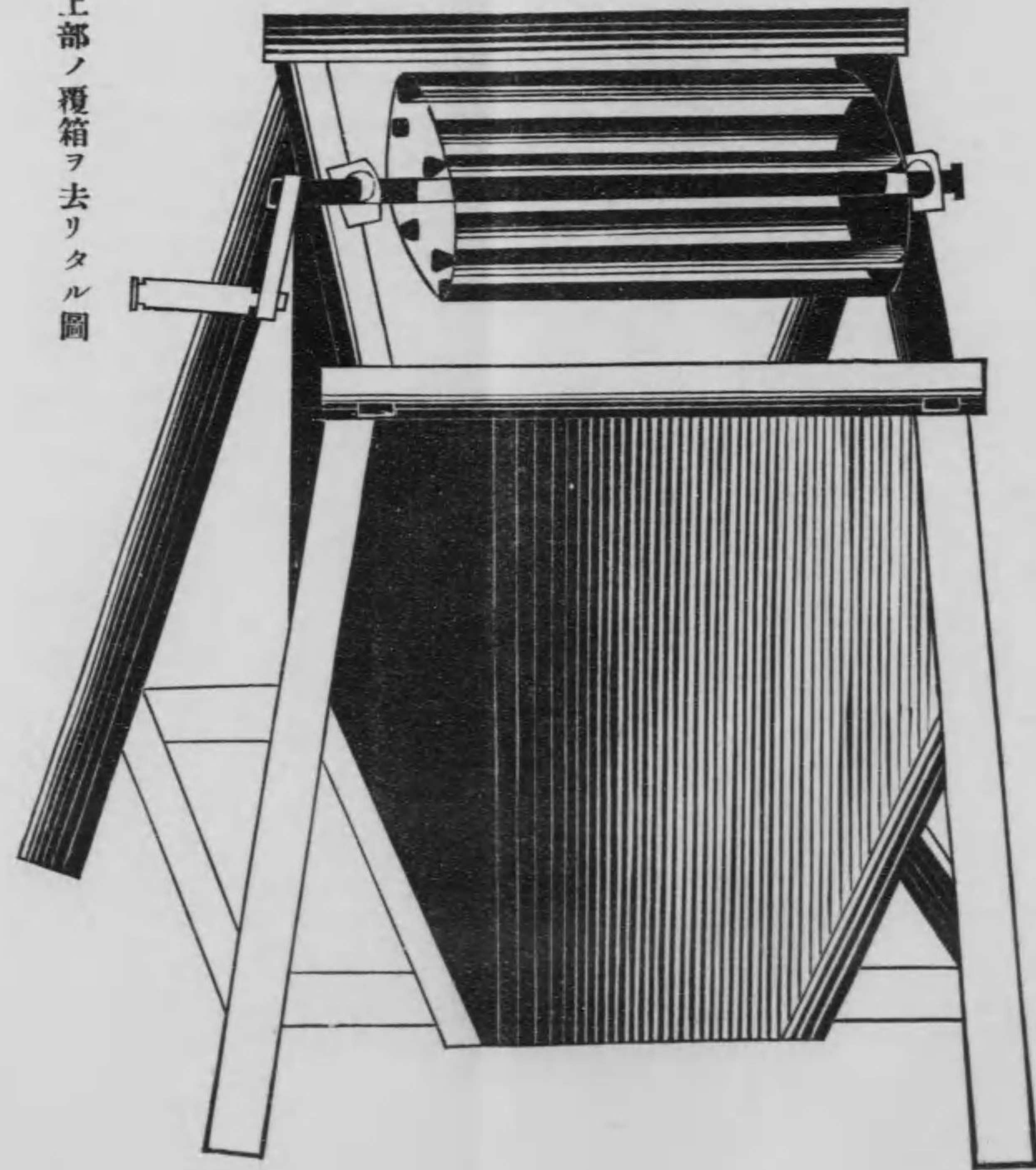
播種月日	發芽歩合	發芽歩合	備	考
十一月廿二日	五月二日 潮	五月二日 潮		
十二月卅日	同	六月廿五日		
一月廿七日	同	同		
二月廿八日	同	同		
三月廿九日	同	同		
五月一日	同	同		
六月一日	同	同		
七月一日	同	同		
			二月廿六日ヨリ發芽ヲ始ム	
			四月五日ヨリ發芽ヲ始ム	
			四月十九日ヨリ發芽ヲ始ム	
			上ハ浸種ノ際沈下セシモノ下ハ浮キ上リシモノ	
			發芽セズ	
			發芽セズ	
			發芽セズ	

玉 解 器

前側面ヨリ見タル圖



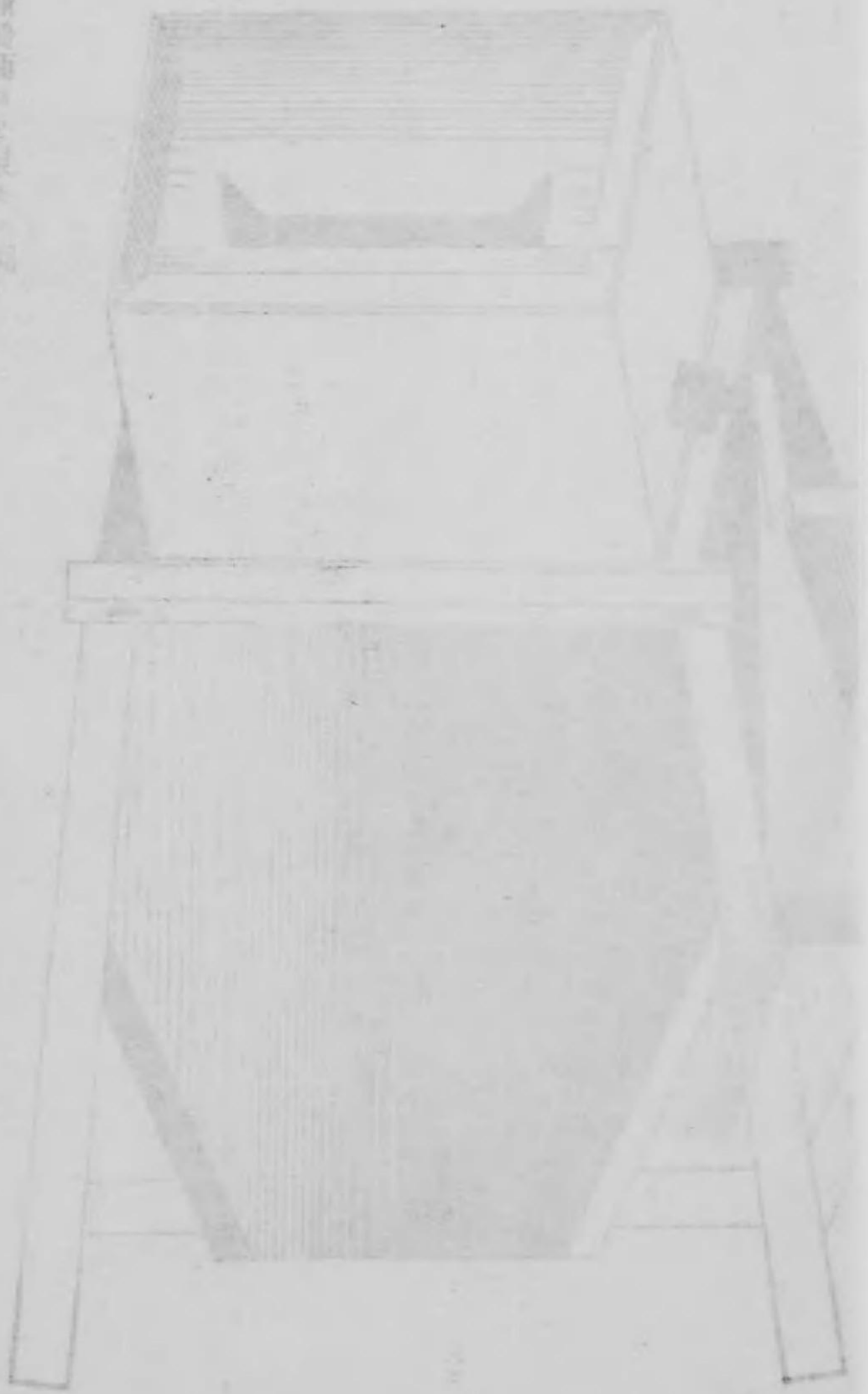
上部ノ覆箱ヲ去リタル圖



十二月廿七日	十一月廿七日	十月廿七日	九月廿七日	八月廿七日	七月廿七日	六月廿七日	五月廿七日	四月廿七日	三月廿七日	二月廿七日	一月廿七日
十二月廿八日	十一月廿八日	十月廿八日	九月廿八日	八月廿八日	七月廿八日	六月廿八日	五月廿八日	四月廿八日	三月廿八日	二月廿八日	一月廿八日
十二月廿九日	十一月廿九日	十月廿九日	九月廿九日	八月廿九日	七月廿九日	六月廿九日	五月廿九日	四月廿九日	三月廿九日	二月廿九日	一月廿九日
十二月三十日	十一月三十日	十月三十日	九月三十日	八月三十日	七月三十日	六月三十日	五月三十日	四月三十日	三月三十日	二月三十日	一月三十日

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

四月五日ヨリ發芽ヲ始ム
 四月十九日ヨリ發芽ヲ始ム
 上ハ浸種ノ際沈下セシモノ下ハ浮キ上リシモノ
 發芽セズ
 發芽セズ
 發芽セズ



備考 十一月乃至三月ニ播種セシモノハ六月迄ハ漸次發芽數ヲ増加シツ、アリシモ其後蟲害ヲ蒙リ爲メニ枯死スルモノ續出セリ之ガ爲メ發芽數ヲ數フル能ハズ七月ノ發芽歩合ノ減少セル又之ニ原因ス

右ノ結果ニヨレバ十二月下旬ニ播種セシモノ成績最モ良好ニシテ之ニ次クハ十一月下旬、二月下旬、三月ノ順トナリ十一月乃至二月ニ下種セシモノハ大差ナシ是ニ依ツテ觀ルニ雨期前若クハ雨期即チ十二月乃至二月頃ニ播種スルノ優レルヲ認ム然レトモ本年ハ多大ノ蟲害ヲ被リシ爲メ比較困難トナリタレバ更ニ試験ヲ重ネテ確實ノ結果ヲ求ムヘシ

第十六節 挿木試験

挿木繁殖ノ難易ト其適期トヲ知ラン爲メ青心種老若ノ枝幹ヲ取り四十四年十二月ヨリ翌年六月迄左ノ通り施行セリ

- | | | | | |
|--------|--------------|----|----|-----|
| 一、老枝 | 五本 | 灌水 | 五本 | 無灌水 |
| 二、若枝 | 五本 | 灌水 | 五本 | 無灌水 |
| 外ニ玉挿及ヒ | 二月ニハ施肥無肥ヲ行ヘリ | | | |

老枝ハ十六七年生乃至二十年生位ノモノニシテ其太サ鉛筆軸大、若枝ハ前年台刈シテ萌芽セルモノニシテ老枝ハ一尺二寸位、若枝ハ八寸位ニシテ地ニ挿入スルニハ小刀ニテ基部ヲ斜ニ平滑ニ切斷シ

且ツ根ノ發生ヲ容易ナラシメン爲メニ切目ヲ付ケタリ
玉挿トハ插穂ノ基部ヲ粘土ヲ水ニテ捏テ玉トナシタルモノノ中ニ挿入シ之ヲ土中ニ掘リ埋ムルモ
ノナリ

而シテ四月頃迄ニ行ヒタルモノハ六月頃迄ハ何レモ萌芽シテ活着ノ趣アリシト雖七月ノ旱天及八月
下旬九月中旬ノ暴風雨襲來等ノ爲メ遂ニ全部枯死シ本試験ハ全ク、不成功ニ終レリ尙ホ大正元年十
二月ヨリ改メテ本試験ヲ施行シ居ルガ故ニ更ニ報告スヘシ

第四章 調 査

第一節 植付時期及方法

植付方法ハ前年ト異ナラサルノミナラズ補植ニ過ズシテ其時期ハ前二ケ年ノ成績ニ鑑ミ一ハ試験ノ
爲メ一ケ月余早カラシメ明治四十四年十二月十三日ニ開始シ一月廿二日ニ終リ此間植付日數十四日
ナリ

今前二ケ年ニ準ヒ移植費用ヲ調査セシニ次ノ如シ

植付月日	植付權數	同上人夫	同上金額	苗取及運搬人夫	同上金額	人夫	金額
十二月十三日	千三百六	人	四百	人	四百	人	四百
同 十四日	八百二	人	四百	人	四百	人	四百
計							

同 十六日	三百三	人	四百	人	四百	人	四百
同 十八日	二百六	人	四百	人	四百	人	四百
同 廿日	二百八	人	四百	人	四百	人	四百
同 廿一日	二百三	人	四百	人	四百	人	四百
同 廿二日	二百四	人	四百	人	四百	人	四百
同 廿五日	二百三	人	四百	人	四百	人	四百
同 廿六日	二百二	人	四百	人	四百	人	四百
同 廿九日	二百一	人	四百	人	四百	人	四百
同 三十日	二百	人	四百	人	四百	人	四百
計							

備考 男一日一人三十二錢女二十錢トス

右表ニヨリ一萬權當リ植付費用ヲ計算スレバ

種 別	人夫數	金額	男女混合
植付(穴堀共)	七、四	二二、五〇九	
苗取及運搬	二〇、三	六、一〇七	右
計	九一、七	二八、六一六	同

示表ノ如ク前年ト比較スレバ植付人夫ハ十一人八分九厘ノ減少ナレトモ苗取及運搬人夫ハ十一人一

分五厘一毛ヲ増加セリ之レ前年ノ苗木所在地ハ近々三丁ノ處ヲ運ビシモ本年ハ十二月廿五日ヨリ植付セシ苗木ハ烏樹林庄ヨリ購入セシモノニシテ里程二里ニ達スルガ爲メナリ進ンテ苗木所在地ノ遠近ニヨリ影響スル費用ヲ見ントシテ今廿五日以前ト其後ノ植付機數ニ依リ一萬機當リヲ計算比較セ

期 間	植付機數	人夫數	賃 銀
十二月廿五日迄	八、一四九	一六、九	四、八二〇
右 以 後	六、四八二	二四、六	七、七一三
差 額	一、六六七	七、七	二、八八三

十二月廿五日以後ノモノハ即チ烏樹林庄ヨリ購入セシモノニシテ人夫ノ差七人七分此賃銀二圓八十八錢三厘ノ多額ヲ要セリ由テ距離ノ遠近關係ノ至大ナルヲ知ルヘシ
右表中賃銀ノ前年ト差アルハ人夫賃ノ男一日二錢増加セシ爲メナリ
尙ホ又開墾地ノ植付所要費用ヲ取調セシニ次ノ如シ

植付月日	機數	同上人夫	賃 銀	備 考
十二月十八日	四〇〇	六	一、九二〇	
同 十九日	三一七	六	二、一七六	
同 廿日	〇九九	一	三二〇	石少ナシ
同 廿五日	一三二	三	九六〇	石多シ
同 廿六日	〇七四	一	三二〇	

同 廿七日	一四七	二	六四〇
一月 六日	一九〇	三	九六〇
同 十一日	二五七	四	一、二八〇
同 廿二日	二四八	五	一、六〇〇
同 廿三日	一五二	三、五	一、二二〇
計	二、〇一六	三五、五	一、二九六

右ノ如クシテ一萬機當リ所要人夫ハ百七十五人此賃銀五十六圓平地ニ比シ一倍九分餘ニ達シ前年ニ比較スレバ實ニ人夫五十二人八二ノ減少ヲナセリ之レ本年ハ補植ヲ主トシ畦設ノ少ナカリシガ爲メ斯ル大減少ヲ來セルモノナリ

本年新植青心種ハ壹萬三百七機ニシテ之ニ供セシ採木苗數ハ親株二千四百二十八機ナリ故ニ親株一機ヨリ得タル機數ハ七株一ニシテ前年ト一昨年トノ中間ニ相當シ一萬機ノ新植ヲナスニ親株一千四百機ヲ要スル計算トナレリ

第二節 移植後ノ經過

本年ノ雨期ハ兎角其時候ヲ發揮シテ曇雨日數多ク四月中旬晴天數日ニ亘リシモ概シテ降雨多ク土地ハ濕氣ヲ失フガ如キ憂ナカリシ之レヲ以テ一般良好ノ成績ヲ收メ六月廿七日枯死數ヲ調査セシニ多キハ三割九分八厘少キハ一分九厘平均八分三厘九毛越ヘテ十一月一日調ヘニ依レバ六月廿八日以降ノ枯死割合多キハ三割一分八厘少キハ六厘平均三分五厘例年六月以降ハ炎熱ノ爲メ土地乾燥スルノ

泥	對	土	雜	石	反
土	照	糞	草	灰	當
二八九	二七三	二七三	二九二	二八一	二七三
一〇	六	二五	二	三二	一一
三四	二二	九	〇	一〇	四三
九	三	五	六	一〇	三〇
三二	一一	二〇	二〇	四〇	一一
二七〇	二三四	二四三	二八五	二四〇	三三
九三四	九六七	八九〇	九七二	八五四	八四六
十一月十三日泥土一擔ヲ六權ニ分チ入レテ土ト混合セリ	土糞ハ一權ニ三斤宛施ス	雜草ハ移植一ヶ月前穴中ニ埋メ置キ移植時根邊ニ敷キタリ	石灰ハ十二月十一日撒布并攪混合セリ	燒土ハ一權宛三斤宛	七十貫ノ區ト同様

備考 全酸度ハ四十四度八五ナリシ

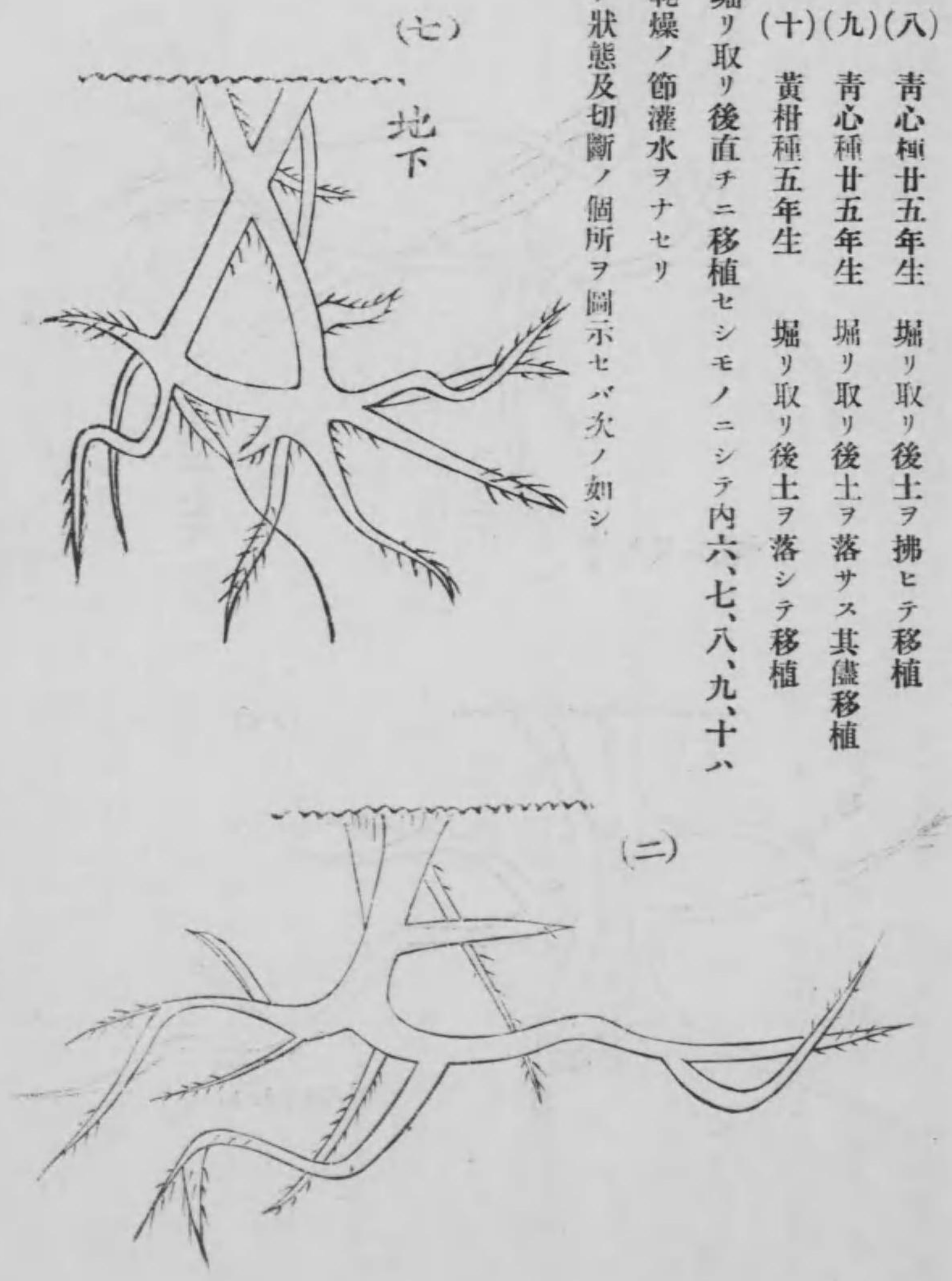
右ノ結果ニ據レバ雜草區ノ九割七分二厘優等ニシテ次キハ對照區ノ九割六分七厘ナリ以下泥土、燒土、土糞ノ順序ニシテ石灰量ノ多キハ少キヨリ幾分良好ナルガ如シ兎角移植當時種々施肥ノコトヲナス可成的雜草ヲ根邊ニ敷キ込ミ濕度ヲ保留セシムルヲ宜シトス

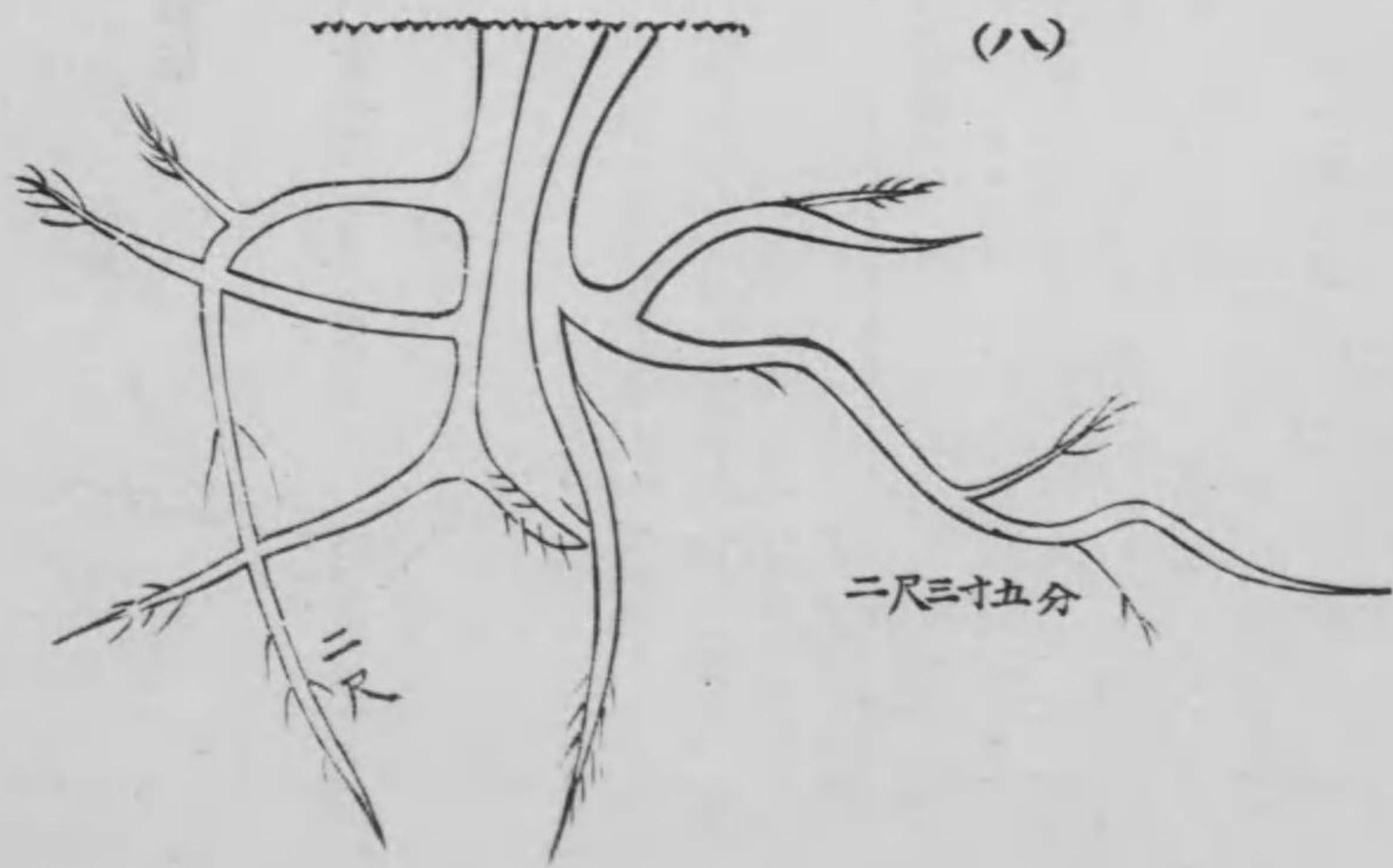
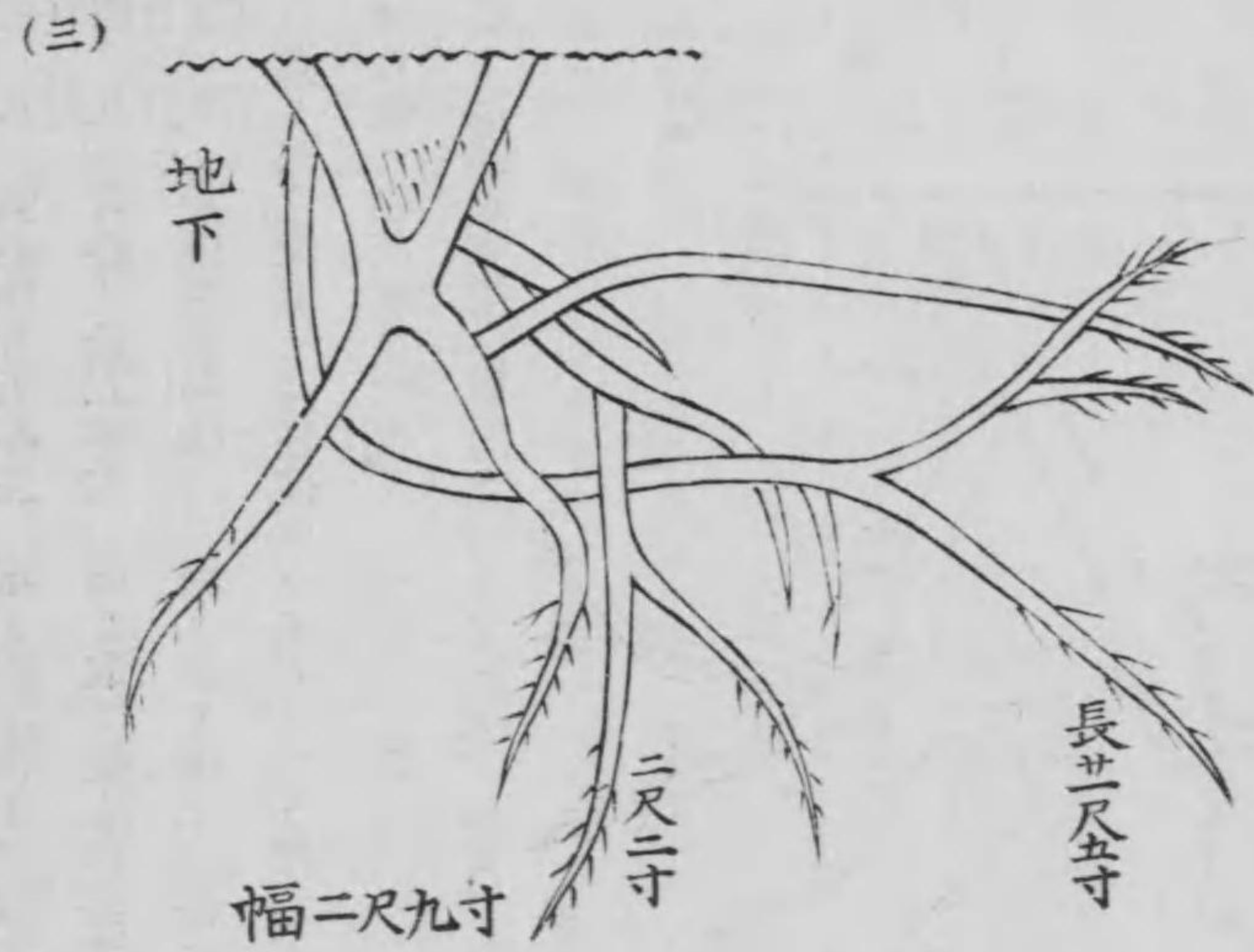
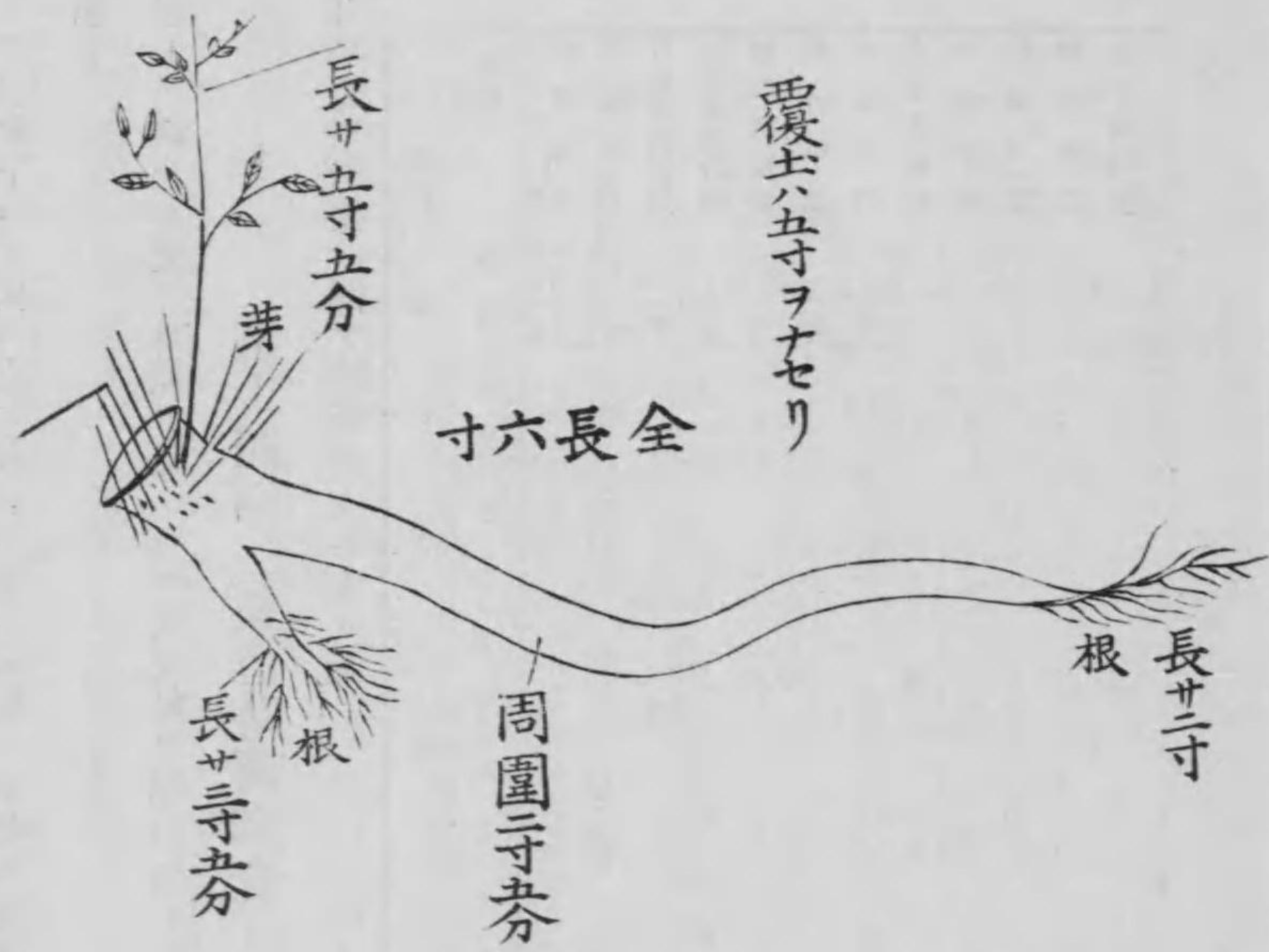
第二節 移植調査

目的古茶樹ヲ移植シテ活着スルヤ否ヤヲ調査スルモノナリ一月廿四日濃霧溫暖室內溫度攝氏十八度

- (一) 青心種十年生 掘り出シ後土ヲ拂ヒテ移植
- (二) 青心種廿五年生 掘り出シ後鬚根ノ下ヨリ切斷ノ上移植
- (三) 青心種廿五年生 掘り取り後土ヲ拂ヒテ移植
- (四) 青心種廿五年生 掘り取り後土ヲ落サス其儘移植
- (五) 黃柑種五年生 掘り取り後土ヲ落シテ移植

右ハ掘り取り後直チニ移植セシモノニシテ内六、七、八、九、十ハ土地乾燥ノ節灌水ヲナセリ
今根ノ狀態及切斷ノ個所ヲ圖示セバ次ノ如シ





移植後ハ直チニ剪枝ヲナシ置ケリ今其結果
 ヲ見ルニ何レモ活着セシモ就中不成績ナル
 ハ(二)及(十)ノ二株ニシテ枝條ノ枯死セシモノ
 多ク僅カニ二三本萌芽セシノミ他ハ優劣ナ
 シ
 本調査ニヨレバ老幼ノ區別ナク鬚根ノ有無
 及着土ノ如何ニ關セズ着根スルヲ知ルヘシ
 尙ホ又(二七)ノ切斷先ノ根部五個ヲ埋メテ萌
 芽スルヤ否ヤヲ試ミタルニ枯死セシモノ一
 本ニシテ他ハ萌芽セリ因ニ根ノ小ナルモノ
 ハ悪シク大ナル方良好ナルガ如シ今萌芽セ
 シモノ、状態ヲ國示セバ左ノ如シ
 上圖ノ如クシテ芽ハ根ノ上部ニ發スレトモ
 鬚根ハ之ニ反ス
 尙鬚根ハ切斷口ヨリ發スレトモ芽ハ切口ヨ

リ二三分下ヨリ出ス之ニヨレバ根ハ容易ニ枯死スルモノニアラズシテ繁殖用ニ供スルコトヲ得ルガ如シ

以上ノ調査ハ更ニ時期ヲ見テ行ヒ其完結ヲ期スベシ

第十四節 製造時間調査

月別製茶所要時間ヲ調査セシニ左ノ如シ

項目	春		夏		秋	
	四月	五月	五月	六月	七月	八月
生葉數量	五五五・一六八	一〇一〇・〇一〇	一〇六〇・〇一〇	一三〇〇・〇一〇	一七〇〇・〇一〇	二一〇〇・〇一〇
摘採時間	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇
日早萎凋時間	五八	五八	五八	五八	五八	五八
蒸餾萎凋時間	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
釜炒前數量	八・四〇	八・七〇	八・四〇	八・七〇	八・四〇	八・七〇
釜炒時間	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
揉捻時間	二二	二二	二二	二二	二二	二二
水走前數量	五二〇	六六二	五二〇	六六二	五二〇	六六二
水走時間	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
焙爐時間	二二	二二	二二	二二	二二	二二
製茶數量	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
製茶總時間	四〇・七	四〇・七	四〇・七	四〇・七	四〇・七	四〇・七

製茶歩合	新消費量		木炭消費量		所要人夫
	斤	斤	斤	斤	
二五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二八	一八	一八	一八	一八	一八
三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三二	二二	二二	二二	二二	二二
三三	二三	二三	二三	二三	二三
三五	二五	二五	二五	二五	二五
三六	二六	二六	二六	二六	二六
三八	二八	二八	二八	二八	二八
四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
四二	三二	三二	三二	三二	三二
四四	三四	三四	三四	三四	三四
四六	三六	三六	三六	三六	三六
四八	三八	三八	三八	三八	三八
五〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
五二	四二	四二	四二	四二	四二
五四	四四	四四	四四	四四	四四
五七	四六	四六	四六	四六	四六
六〇	四八	四八	四八	四八	四八
六二	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
六四	五二	五二	五二	五二	五二
六六	五四	五四	五四	五四	五四
六八	五六	五六	五六	五六	五六
七〇	五八	五八	五八	五八	五八
七二	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
七四	六二	六二	六二	六二	六二
七六	六四	六四	六四	六四	六四
七八	六六	六六	六六	六六	六六
八〇	六八	六八	六八	六八	六八
八二	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
八四	七二	七二	七二	七二	七二
八六	七四	七四	七四	七四	七四
八八	七六	七六	七六	七六	七六
九〇	七八	七八	七八	七八	七八
九二	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
九四	八二	八二	八二	八二	八二
九六	八四	八四	八四	八四	八四
九八	八六	八六	八六	八六	八六
一〇〇	八八	八八	八八	八八	八八

備考 右ハ製茶百斤當所要時間ナリ揉捻時間ノ割合少キハ機械使用ノ結果ナリ尙ホ摘採時間ハ一人、釜炒、水走篩、焙爐ハ各一個使用ニ因ル時間ナリ

第五節 茶芽伸長度合調査

本年度茶芽伸長度合ハ春茶季前ニアリテハ紅心種ノ伸長量最モ多ク埔心種、不知春種之ニ次ギ以下印度種枝蘭種香圓種大冇種ノ順ニシテ他ハ殆ンド大差ヲ認メズ紅心種ハ三月卅日既ニ二寸一分八厘ニ伸長シ埔心種、不知春種ヲ凌グト八分九厘乃至九分七厘ニシテ伸長量最モ少キ福州種ノ五分四厘ニ比シ實ニ一寸六分四厘ノ多キニ達セリ又紅心種ハ三月廿一日既ニ四葉ヲ開キ埔心種、不知春種ハ共ニ三葉開芽ヲナセリ然ルニ摘採前四月十日ノ調べニヨレバ枝蘭種ノ伸長量却ツテ多ク即チ二寸七分三厘ニシテ七葉ノ開芽ヲナシ之ニ次グハ黃柑種ノ二寸六分四厘ノ五葉開キ紅心種二寸五分八厘ノ六葉開瀆口種二寸二分九厘ノ五葉開、白心種二寸二分ノ四葉開キ、福州種一寸八分三厘ノ四葉開キ、印度種一寸八分ノ五葉開キ、不知春種一寸六分六厘ノ五葉開、青心種一寸七分二厘、白毛猴一寸七

分三厘香圓種一寸五分六厘大有種一寸五分埔心一寸三分ノ順序ナリシ
 然レトモ又四月卅日ノ調べニヨレバ黃柑種最モ優リ枝蘭種之ニ次キ以下白心、漢口、白毛猴、紅心、
 青心、福州、印度、不知春種、貓耳、宇治、大有、香圓、烏金ノ順トナリ發芽後ハ黃柑枝蘭、白心種
 ノ伸長漸次迅速トナレリ之ニ依ツテ見ルニ發芽期ニ早晚アルノミナラズ伸長ノ遲速ニ著シキ差アル
 ヲ知ルベシ夏茶季六月卅日ノ調べニヨレバ同シク黃柑種ノ伸長量著シク優越シ實ニ九寸七分一厘ニ
 達シ之ニ次ケルハ枝蘭種ノ七寸八分白心種ノ六寸六分二厘紅心種ノ五寸七分六厘印度種ノ五寸二分
 二厘ヲ始メトシ大有、白毛猴、不知春種、漢口、福州、青心等ノ順トナレリ又茶期終了後ノ調べニ
 ヲレバ黃柑種ハ實ニ一尺一寸八分ニ伸長シ枝蘭種ハ一尺一寸一分、白心種ハ九寸八分五厘印度種九
 寸六分六厘、香圓種八寸六分七厘、不知春種八寸四分、漢口種八寸三厘、埔心種七寸九分五厘、白毛猴
 七寸三分二厘、宇治種六寸一分六厘、福州種六寸二厘、大有五寸五厘、青心五寸三厘、紅心四寸八分三
 厘、貓耳四寸九分トナレリ

而シテ枝蘭種、白心種ハ度々蟲害ヲ蒙リシト雖尙ホヨリ黃柑種及香圓種ト共ニ樹勢旺盛ニシテ之ニ
 反シ樹勢ノ惡シキハ大有種ヲ最トシ之ニ次グハ紅心、宇治、不知春、青心等ノ順ナリ以上ノ結果ニヨ
 レバ紅心種、不知春種ハ發芽最モ早キモ夏茶以降ノ伸長甚ダ微々タルモノ、如ク之ニ反シ黃柑種白
 心、枝蘭、香圓、印度種ハ發芽ニ於テ前者ニ比シ著シク晚シト雖茶芽ノ伸長ハ急速ナルガ如シ又各種

共十月初旬以降伸長ハ甚ダ微々タルモノ、如シ

一、既成茶園

施肥無肥ニヨル茶芽伸長ノ差ハ顯著ナルガ如キモ本年選定セシ青心種ノ芽ハ度々蟲害ヲ蒙リシ爲メ
 萎縮シテ充分ノ伸長ヲナス能ハズ却ツテ無肥ニ劣レリ黃柑種ニアリテハ施肥ノ著シク優レルヲ認メ
 得ハシ即チ二月下旬ニ於ケル兩者ノ差ハ僅カニ二厘ナリシト雖三月下旬ニ於ケル其差ハ無肥ノ五分
 二厘ニ對シ施肥ハ八分七厘ニ伸長セリ又春茶摘採前四月十日施肥ハ二寸三分七厘ニ伸長セリト雖無
 肥ハ一寸七分四厘ニシテ其差六分四厘ニ達シ四月卅日ニ於テハ共ニ五葉開キニテ無肥區ノ一寸九分
 三厘ニ對シ施肥區ハ二寸八分三厘ニ及ヘリ越ヘテ夏茶期六月卅日ノ調べニヨレバ無肥區ノ二寸八分
 二分二厘ニ對シ施肥區ハ四寸六分二厘ニ伸長シ其差一寸八分ニ達シ漸次其差顯著トナレリ茶期終了
 後十一月初旬ニ於ケル其伸長量ハ無肥區ノ僅々四寸五分ニ對シ施肥區ハ八寸一分七厘ニシテ其實
 三寸八分二厘ノ多キニ及ビ殆ンド倍量ニ達セリ而シテ無肥區ニ於テハ青心、黃柑共ニ十月下旬以
 降些ノ伸長ヲ見スト雖施肥區ニアリテハ尙ホヨリ十一月初旬迄テ伸長ヲ持續セリ之レヲ前年ノ夫レ
 ニ比較スルモ亦略ボ同一ノ結果ヲ生セリ

二、新設茶園

新設茶園ニアリテハ殆ンド同一ニシテ其差僅カニ數分ニ過キズ是レ施肥ハ三年生ニ限ラレ且ツ前々

年ニ施セシモノナレバ長時日ヲ經過セル爲メ肥効少キニ基因スヘク又其間僅カノ差アリト雖之レ植
 付當時ノ状態、苗木ノ良否ニヨリ影響セルナルヘシ而シテ一年生ニアリテハ其冬伸長最共ニ四寸五
 分内外三年生ニアリテハ六寸内外ニ伸長スルモノ、如シ

第六節 深耕費調査

第一 既成茶園

月 日	所要 人夫數	作業權數	同面積	一畝權當		摘 要
				人夫數	賃 銀	
十一月十八日	七・八六	五・三三一	一・〇一〇	三三・九	七・四〇〇	雨天ニテ作業困難ナリ
同 廿一日	四・一〇	三・二二六	〇・八	一八・四	四・七〇〇	
同 廿二日	一・六三	一・八九	二・九八	一六・一	三・一〇〇	
同 廿七日	一・八三	五・八八	二・八八	三二・一	四・八五〇	
十二月五日	一・六三	六・三三	二・七	一五・五	三・七〇〇	
同 六日	一・六九	七・〇	二・八	二四・〇	五・五〇〇	
同 八日	一・五八	九・五九	二・五	一六・八	三・八〇〇	
同 九日	一・五七	三・五五	二・二	一六・二	三・六三〇	
同 十日	一・八三	八・八〇	二・八	二〇・八	四・八六〇	
計及平均	一・三七一	一・一三〇	三・七三五	二二・六	三・九七〇	

備考 以下掲クル處ノ人夫ニ對スル計算ノ勞働時間ハ自四月一日至九月卅日ハ九時間半トシ自

十月一日至三月三十一日ハ八時間半ニシテ賃銀ハ男三十二錢女二十錢トセリ

一萬權所要人夫數二十一人五六ニシテ其賃銀六圓九十錢一甲步宛トスレバ人夫數十七人一分ニシテ
 賃銀五圓四十七錢ナリ

第二 新植茶園(平地)

中耕月日	所要 人夫數	作業權數	同面積	一畝權當		備 考
				人夫數	賃 銀	
十二月廿三日	一・〇〇	一・三六〇	一・〇	一六・八	四・二五〇	
同 廿四日	三・三〇	一・一三〇	三・〇	一三・五	四・九〇〇	
同 廿五日	一・〇〇	一・一三〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
同 廿六日	一・〇〇	一・一〇〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
一月六日	一・〇〇	一・〇〇〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
同 七日	一・〇〇	一・一三〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
同 八日	一・〇〇	一・〇〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
同 十二日	一・〇〇	一・〇〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
同 十五日	一・〇〇	一・一三〇	一・〇	一三・五	四・九〇〇	
平均及計	一・三七一	一・一三〇	三・七三五	二二・六	三・九七〇	

一萬權所要人夫數十六人七分賃銀五圓三十四錢ニシテ一甲步宛トスレバ十四人七分賃銀四圓七

十錢ナリ

備考 深耕ハ牛耕ヲ用フルコトナク全部人夫鍬ヲ用ヒテ行ヒタリ
第三 傾斜地新園

中耕月日	所要人夫	作業權數	同面積	一萬權當		一甲步當		備考
				人夫	賃銀	人夫	賃銀	
十一月十二日	三〇〇〇	八二四	二六六	三六四	一一六五〇	三二四	一〇〇五〇	傾斜地ノ既成茶園及新園平地ニ比シ所要人夫ノ多キハ傾斜地ナルト石礫ノ多キニヨル
同 十三日	三〇〇〇	九八八	三三〇	三〇一	九六三〇	二五一	八〇〇〇	
同 十四日	二七五〇	九八一	三五〇	二八〇	八九六〇	二二〇	七三〇〇	
同 十五日	四二〇〇	一一五七	四〇〇	三六三	一一六二〇	三〇八	九八六〇	
平均及計	二二九五	三九六〇	一三二五	三二七	一〇四七〇	二七六	八八三〇	

一萬權當十圓四十七錢一甲步宛八圓八十三錢ナリ

第七節 施肥費調査

既成茶園施肥ニ要セシ人夫賃及其ノ壹萬權換算ハ左ノ如シ

月 日	區 番	施肥權數	所要人夫	同賃銀		一萬權當		備考
				人夫	賃銀	人夫	賃銀	
十二月十四日		一一一	一一六六	男	四〇〇	八一	三二四五〇	大豆粕單用ナリシテ以テ調合ノ必要ナク從テ施肥モ早シ
同 十六日		一一一	七〇〇	同	二〇〇	五九	四三三〇	
同 十六日		一一一	七〇〇	同	二〇〇	五九	四三三〇	
同 十六日		一一一	七〇〇	同	二〇〇	五九	四三三〇	
平均及計		一一一	三六〇〇	同	一〇〇〇	一八五	三七〇〇	

月 日	區 番	施肥權數	所要人夫	同賃銀	一萬權當	備考
十六日		一一一	一一六六	男	四〇〇	八一
同 十六日		一一一	七〇〇	同	二〇〇	五九
同 十六日		一一一	七〇〇	同	二〇〇	五九
同 十六日		一一一	七〇〇	同	二〇〇	五九
平均及計		一一一	三六〇〇	同	一〇〇〇	一八五

右表ニ付壹萬權所要人夫數及賃銀ヲ見ルニ人夫數男子四人九分女子八人五分ニシテ其賃銀合計ハ三圓二十七錢ナリ而シテ此所要人夫數ニハ肥料ノ調合及運搬ヲモ含ムニアリテハ施肥方法、施肥期恰モ深耕ニヨリ茶園ノ周圍ヲ堀リ上ゲアルヲ以テ調合セル肥料ヲ茶園ノ周圍ニ散布シ直チニ覆土ス肥料ハ普通一權宛大豆粕二十多過燐酸石灰七、五分硫酸加里二多ノ割ナリ

第八節 大豆粕減量調査

本年當場ニ於テ大豆粕ヲ温氣多キ木炭置場及比較的濕氣少キ倉庫トニ貯藏シ毎月其減量ヲ調査セシニ次ノ如キ結果ヲ得タリ

大豆粕各一枚ニ對スル増減量

印 別	調査初日各大豆粕斤量	自二月廿七日	自三月廿八日	自五月廿一日	自五月廿八日	自六月廿八日	自七月廿八日	計	備考
A	七三〇	二八五	一五九	一〇九	一三二	二四九	三〇〇	八九〇	

第一目	第二目	第三目
採收量	採收量	採收量
水分減量	水分減量	水分減量
生物ニ對スル百分率	生物ニ對スル百分率	生物ニ對スル百分率
供試量	供試量	供試量
風乾物ニ對スル百分率	風乾物ニ對スル百分率	風乾物ニ對スル百分率
灰分量	灰分量	灰分量
生物ニ對スル百分率	生物ニ對スル百分率	生物ニ對スル百分率

以上六月末採取

備考 試驗材料ハ各大豆粕ノ周縁ニ添ヒ順次ニ少量宛削採シタルモノナレバ其不均一ナルヲ免

レズ

且ツ外縁ハ常ニ外圍ノ狀況ニ作用セラレツ、アルモノナレバ其變化内部ニ比シ大ナルモノナリ

右ノ試驗結果ニヨリ考察スルニ原材料ハ最初外圍ノ水分ヲ吸收シ次ニ放散シ漸次有機原質ノ分解ヲ來シ其分解ノ盛ナル際ハ表示セル如ク水分ノ大ナルヲ觀ル然レトモ其分解セル部分ハ漸次水分ヲ游離放散スルモノ、如ク次第ニ水分ヲ減ジ灰分ヲ増加シツ、アリ

即チ二月末風乾物ノ水分量ハ少ニシテ三四月ニ至リ漸次増加セルハ外縁ノ脂肪ノ分解ニ際シ外圍ヨリ水分ヲ吸收シタルモノナルベク

二月末ノ一〇五乃至一一〇度ノ乾燥後ノ水分量ヨリ三四月ノ水分ノ大ナルハ脂肪ノ分解ニ從ヒ他ノ有機原質ノ分解ノ微ヲ示スモノナルベク

五六月末ノ風乾後ノ水分少ナルハ外圍ノ脂肪ノ分解終リ時日ト共ニ水分ヲ放散シタルモノナルベシ尙五六月末ノ一〇五乃至一一〇度乾燥後ノ水分ノ六月末ノ夫レヨリ大ナルハ外圍ノ脂肪ノ缺乏ト共ニ内部ノ他ノ有機質物ノ盛ナル分解ヲ來シ其化合水ノ遊離ヲ示スモノニアラザルカ灰分量ハ三月末ニ少ニ五六月末ニ多ナルモ前述ノ如ク前者ハ外圍ヨリ水分吸收關係ニヨリ後者ハ有機原質ノ分解ニヨリ水分ノ發散セルヲ證スルモノ、如シ

素分ハ器物ノ關係上其施行僅カニ且ツ其試驗モ延引セリ其分量ノ少ナルハ材料採收ノ常ニ外縁ニ添ヒタル爲メ外圍ノ作用ヲ受ケ減少セルモノナルベク又時日ノ經過ニ伴ヒ微量ナガラモ漸次損失スルモノ、如シ

倉庫ハ水分ヲ吸收及分解遲緩ニ木炭置場ハ之ニ反ス要スルニ貯藏ノ期間ト共ニ原質ノ分解ヲ來シ漸次減少スルモノ、如シ

第九節 施肥無肥ノ對照

其成績ハ次表ノ如シ

區別	反別	標數	施肥量	季別				
				春	夏	秋	冬	計
施肥區	反歩	六三三四	一標宛	二二四〇	二二四〇	二二四〇	二二四〇	二二四〇
			大豆粕	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇
			過磷酸石灰土	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇
			硫酸加里	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇
			一匁	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇	一四九七〇
無肥區	五五〇五	四七〇一	計	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
			春	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
			夏	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
			秋	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
			冬	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇

施肥ハ前年ヨリ繼續施行セルモノト然ラザルモノトノ平均ヲ示セルモノナリ今無肥ト對照シテ收穫茶葉量ヲ比較スルニ各期何レモ増加セリ其量春茶ニ於テ百標當五百七十一匁夏茶三百十三匁秋茶五百六十八匁冬茶三十一匁合計一貫四百八十七匁ニシテ其割合無肥區ノ總收穫量七貫二百十五匁ニ對シ二割六厘ノ增收ヲ示セリ今之ヲ前年ト對照セバ次ノ如シ

季別	四十五年		四十四年		四十三年		平均	
	施肥區	無肥區	施肥區	無肥區	施肥區	無肥區	施肥區	無肥區
春	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
夏	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
秋	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
冬	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇
計	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇	三三三〇

以上成績ノ示ス處ニヨレバ施肥無肥ノ差ハ甚タ顯著ニシテ其三ヶ年平均ヲ見ルニ無肥ニ對スル施肥區ノ增收量ハ百標當一貫八百四十一匁即チ二割五分六厘ノ增收トナレリ而シテ本年ノ施肥ハ二月下旬ニ行ヒ施肥區ノ多クハ前年ヨリ繼續セルモノニシテ今各季ノ增收量ヲ見ルニ春茶ハ比較的多キモ夏茶ニ到リ減少シ又秋茶ニ到リテ春茶ヲ凌駕シ冬茶ハ更ニ好果ヲ示セリ如斯各期ヲ通シテ肥効ヲ發揮セルガ如キモ春茶ノ增收ハ恐ラク前年度ノ殘肥ノ効力ニヨルニアラサルカ左ニ本年初メテ施肥セルモノト無肥トノ比較表ヲ掲ケン

季別	本年度初回ノ施肥百標當收穫茶葉量	對照無肥同上
春	二、二六〇	二、三〇六
夏	一、二五〇	九四七
秋	一、三八五	一、一一七
冬	一九	一一

以上ノ如クニシテ春茶ニ効力アリシヲ認メズ夏茶ヨリ漸次肥効顯ハレ秋冬ニ到リテ奏効最モ多キモノ、如シ故ニ前記春茶ノ增收ハ一ツニ前年ノ殘肥効力ナルコトヲ認識スベシ
 生葉ニ對スル製茶歩止リハ無肥區ハ施肥區ニ比シ春茶ニ於テ五厘秋茶一分一厘多キモ之レヲ一年中ノ平均ニヨレバ僅カニ七厘ノ差アルノミナリ

今施肥區無肥區產製茶ノ品質ヲ對照スレバ左表ノ如シ

審査項目	定點	施肥區				無肥區			
		春茶	夏茶	秋茶	平均	春茶	夏茶	秋茶	平均
形	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
色澤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
水色	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
萎凋	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
香氣	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
香味	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
炒燥	一〇〇	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三
計		六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三

以上ノ審査點數ヲ比較スルニ春茶ニアリテハ施肥區產ノ品質劣レリト雖夏秋茶ハ之ニ反シ却ツテ施肥區ノ優ルヲ認ム又夏秋產茶ハ其收量ヲ合算スレバ春茶ノ夫レヨリ著シク多ク殊ニ價格高價ナルガ故ニ施肥區ハ春茶ニ於テ劣レル品質ヲ補フテ尙ホ餘リアルヘク寧ロ施肥區產ノ品質優レリト謂フベシ

第五章 製茶配合試驗

本年ノ天候ニ關シテハ既ニ栽培試驗ノ項ニ其詳細ヲ記述セリト雖更ニ其概要ヲ摘述スレバ春茶季ハ天候極メテ順調ナリシヲ以テ從ツテ製茶ノ品質モ比較的佳良ナリシ然レトモ夏茶ノ初期ニ入りテヨリ降雨連續セシ爲メ製茶ハ色澤、水色、香味共ニ不良ニ陥レリ越ヘテ七月初旬頃ヨリ漸ク天候恢復シタリト雖時期既ニ晚カリシ爲メ良茶ヲ產スル能ハズ秋茶又屢々降雨ニ遭遇セシ爲メ品質宜シカラズ要スルニ本年ハ天候ノ不順ナリシヨリ製茶ノ品質ハ概シテ不良、優品ヲ產セズシテ終レリ從ツテ原料ノ買收ニモ少カラヌ困難ヲ來セリ

配合試驗用原料茶ハ臺北、桃園、新竹及嘉義廳下ニ於ケル各主產地ヨリ茶期ヲ通シテ一回乃至四回ノ買收ヲナシ右ニ述ヘシ如ク原料蒐集ニ困難ヲ感セシト雖其數八十三種ニ及ベリ之レヲ昨年ノ九十八種ニ比スレバ十五種ヲ減ゼリト雖一昨年ノ四十二種ニ較ブレバ尙ホ四十一種ノ多キニ達セリ
 然リト雖八月九月兩度ノ暴風雨ニ際シ原料茶ヲ保存セシ家屋倒潰セルガ爲メニ濕潤シ剩ヘ其後雨天ノ打チ續キシト他ノ家屋モ亦屋根飛散セシニ依リ直チニ乾燥スルヲ得ズ供試用ニ不充分ナルノミナ

ラズ供試用ニ堪ヘザルモノヲモ多ク出スニ至リ試験ニ支障ヲ來シ延ヒテ評價ノ時期ヲ失セルハ甚ダ遺憾トス而シテ本年八十三種ノ原料茶ヲ以テ配合セシモノ九十四種ニシテ之ヲ産地ノ順ニヨリテ示セバ即チ以下ノ如シ

産地	配合番號	各種茶番號	買收月日	買收單價	再製茶價市	配合茶價市	差引	等級	配合割合
北港									
臺北廳北港	14	24	6.13	40	33	35	28	9	5
新竹廳南河		34	7.6	36	33	32	32	9	5
				38	33	32-1		9	
臺北廳北港	39	24	6.13	40	33	32	31	9	5
桃園廳北港		29	6.17	19.5	33	32-4		8	5
				30	36			9	
臺北廳北港	33	1	5.2	40	25	25	26	13	5
桃園廳北港		49	7.16	27	28	26		12	5
				4	27	26-1		12	
臺北廳北港	68	24	6.13	40	33	30	34	9	5
新竹廳北港		79	8.9	35	32			9	5
				38	32	32 ナシ		9	
臺北廳北港	70	52	5.2	40	25	28	29	13	5
新竹廳北港		79	7.9	35	32			9	5
				38	28	29+1		11	
水返脚									
臺北廳水返脚	1	40	7.13	100	67	89	76	4	5
同 瑪陵坑		25	6.13	120	103	70	70	1	5

臺北廳水返脚	16	64	8.10	80	54	68	78-7	3	5
新竹廳藤坪		82	8.10	65	59	47		5	5
				73	57	54-3		5	5
臺北廳水返脚	25	40	7.13	100	67	72	60	4	5
新竹廳藤坪		62	7.20	45	54	44		5	5
				73	61	66+5		4	5
臺北廳水返脚	31	40	7.13	100	67	86	66	4	5
新竹廳南坑		37	7.9	90	73	56		3	5
				95	70	70 ナシ		4	5
臺北廳水返脚	37	40	7.13	100	67	40	56	4	5
新竹廳大山脊		53	7.18	80	85	48-28		2	5
				90	76			6	5
臺北廳水返脚	65	64	8.10	80	54	28	31	5	5
新竹廳石硬仔		61	7.19	50	50	30-22		6	5
				65	52			10	5
臺北廳水返脚	66	64	8.10	80	54	34	33	5	5
新竹廳石硬仔		78	8.8	60	40	34	33	6	5
				70	50	34-16		6	5
臺北廳水返脚	69	40	7.13	100	67	36	36	4	5
新竹廳石硬仔		61	7.19	50	50	36	36	6	5
				75	59	36-23		9	5
臺北廳水返脚	73	64	8.10	80	54	32	32	5	5
新竹廳水返脚		58	7.18	50	49	32	32	6	5

玳陵坑																				
臺北廳	玳陵坑	1	25	6.13	65	52	32—20	9	Sup up											
同	水返脚		40	7.13	130	103	89	1	Choice											
					100	67	76	4	Fine to Finest											.5
臺北廳	瑪陵坑		25	6.13	110	85	78—7	8	Finest											
新竹廳	人山脊	24	59	7.17	80	103	130	1	Choice											
					130	85	76	2	Finest to Choice											
臺北廳	瑪陵坑		25	6.13	100	94	85—9	2	Fineto Choice											
新竹廳	石硬仔	08	38	7.9	190	103	40	1	Choice											
					70	64	40	4	Fine to Finest											
臺北廳	瑪陵坑		25	6.13	95	84	40—44	8	Sup Fine											
新竹廳	沙	74	35	7.7	120	103	45	1	Choice											
					110	50	35	6	Fine											
					115	77	40—34	8	Sup Fine											
南港																				
臺北廳	南港		28	6.15	45	35	49	9	Sup up											
新竹廳	石硬仔	28	38	7.9	70	64	41	4	Fine to Finest											
					58	50	36	8	Sup Fine											
臺北廳	南方林	40	28	6.15	45	35	42—8	9	Sup up											
桃園廳	南方林		29	6.17	1.95	39	31	8	Sup to Fine											
					32	37	27—10	12	Good to Sup											
臺北廳	南方林	41	27	6.15	48	43	33	8	Sup to Fine											
桃園廳	南方林		29	6.17	19.5	39	29	8	Sup to Fine											
					34	41	32—9	9	Sup up											

臺北廳	南方林	42	28	6.15	45	35	32	9	Sup up											
桃園廳	南方林		40	7.16	27	28	31	12	Good to Sup											
					36	31	32+1	9	Sup up											
臺北廳	南方林	43	28	6.15	45	35	32	9	Sup up											
桃園廳	南方林		73	8.28	27	25	30	13	Good up											
					36	30	31+1	9	Sup up											
臺北廳	南石硬仔	63	28	6.15	45	35	30	9	Sup up											
新竹廳	南石硬仔		79	8.9	35	32	27	9	Sup up											
					40	34	29—5	11	On Sup											
臺北廳	南石硬仔	64	27	6.15	48	43	40	8	Sup to Fine											
新竹廳	南石硬仔		61	7.19	50	50	32	6	Fine											
					49	47	36—11	9	Sup up											
臺北廳	南沙	90	27	6.15	48	43	36	8	Sup to Fine											
新竹廳	南沙		35	7.7	110	50	42	6	Fine											
					79	47	39+8	8	Sup to Fine											
臺北廳	南成榮棚	91	27	6.15	48	43	32	8	Sup to Fine											
桃園廳	南成榮棚		52	7.16	40	47	21	6	Fine											
					44	45	31—14	10	Superior											
石碇、深坑、什伍份、安坑																				
臺北廳	石碇坑	79	75	8.17	28	31	28	10	Superior											
同	石碇坑		69	8.14	38	29	27	11	On Sup											
					33	30	28—2	11	On Sup											
臺北廳	深坑	20	44	7.3	56	36	30.5	9	Sup up											
新竹廳	深坑		55	7.16	70	37	34	9	"											
							31		"											

臺北廳	深坑	32	66	8.16	47	30	58	11	On Sup	4
桃園廳	三角湧		72	8.21	110	76	112	3	Finest	6
					84	57	74+18	3	Finest	
臺北廳	深坑	82	44	7.3	56	36	32	9	Sup up	.5
新竹廳	大肚		54	7.18	55	36	31	9	"	.5
					56	36	32-4	9	Sup up	
臺北廳	什伍份	26	46	7.5	0	31	27	10	Superior	.5
桃園廳	四方林		49	7.16	27	28	30	12	Good to Sup	.5
					44	30	30+3	10	Superior	
臺北廳	什伍份	46	46	7.5	60	31	33	10	Superior	.5
桃園廳	什伍份		76	8.31	24	27	31	12	Good up	.5
					42	29	32+3	10	Superior	
臺北廳	什伍份	54	46	7.5	60	31	33	10	Superior	.5
桃園廳	什伍份		10	5.24	30	29	28	11	On Sup	.5
					45	30	31+1	9	Sup up	
臺北廳	安坑	21	41	7.2	50	37	37	9	Sup up	.3
新竹廳	石碇仔		54	7.18	75	36	38	9	Sup up	.4
同			61	7.19	50	50	32	6	Fine	.3
					52	41	36-5	9	Sup up	
臺北廳	安坑	77	41	7.2	50	37	36	9	Sup up	.5
新竹廳	石碇仔		61	7.19	50	50	32	6	Fine	.5
					50	44	34-10	9	Sup up	
	內湖									

中區

臺北廳	內湖	27	43	7.11	71	34	34	9	Sup up	.5
新竹廳	沙坑		35	7.7	110	50	41	6	Fine	.5
					91	42	37-5	9	Sup up	
臺北廳	內湖	13	42	7.3	85	40	90	6	Fine	.5
新竹廳	南坑		37	7.9	90	73	40	3	Finest	.5
					88	61	64+3	4	Fine to Finest	
臺北廳	內湖	44	43	7.11	71	34	25	9	Sup up	.5
桃園廳	四方林		29	6.17	19.5	29	28	8	Sup to Fine	.5
					45	37	27-10	11	On Sup	
臺北廳	內湖	45	42	7.3	85	49	23	6	Fine	.5
桃園廳	四方林		72	8.28	27	25	30	13	Good up	.5
					56	37	29-8	11	On Sup	
臺北廳	內湖	50	67	8.15	42.5	26	28	13	Good up	.5
桃園廳	成業湖		10	5.24	30	29	28	11	On Sup	.5
					36	27	28+1	12	Good Sup	
臺北廳	內湖	51	42	7.3	85	49	40	6	Fine	.5
桃園廳	三給水		51	7.17	40	41	33	8	Sup to Fine	.5
					63	45	37-8	8	Sup to Fine	
臺北廳	內湖	52	43	7.11	71	34	28	9	Sup up	.5
桃園廳	三給水		30	6.16	31	24	29	13	Good up	.5
					51	29	29+3	11	On Sup	
臺北廳	內湖	53	67	8.15	42.5	26	26	13	Good up	.5
桃園廳	三給水		8	5.24	28	23	26	14	Good	.5
					35	25	26+1	13	Good up	

中區

桃園廳	銅鑼圈	2	75	8.31	65	43	34-9	9	Sup up	.5
同	三角湧	6	6	5.11	24	28	28	12	Good to Sup	.5
成榮湖					40	28	30	12	"	.5
桃園廳	成榮湖	19	31	6.15	32	28	29+1	11	On Sup	
新竹廳	大山脊		77	8.21	100	41	36	11	On Sup	.5
					40	30	32	8	Sup to Fine	.5
桃園廳	成榮湖	29	10	5.24	70	36	33-3	9	Sup up	.5
新竹廳	頭份林		10	5.24	30	29	39	11	On Sup	.5
			81	8.11	55	41	32	8	Sup to Fine	.5
桃園廳	成榮湖	68	32	6.15	43	35	35	9	Sup up	.5
新竹廳	田尾		63	7.21	49	39	31	8	Sup to Fine	.5
					35	33	29	9	Sup up	.5
桃園廳	成榮湖	45	76	8.31	38	32	32	9	Sup up	.5
新竹廳	什伍份		46	7.5	60	27	31	12	Good Sup	.5
					24	31	33	10	Good Sup	.5
桃園廳	成榮湖	47	76	8.31	42	29	32+3	10	Superior	.5
同	四方林		49	7.16	24	27	28	12	Good Sup	.5
					27	23	25	12	Good Sup	.5
桃園廳	成榮湖	48	10	5.24	26	28	27-1	12	Good Sup	.5
同	四方林		7	5.24	30	29	32	11	On Sup	.5
					27	25	27	13	Good up	.5
					29	27	30+3	10	Superior	.5

20

桃園廳	成榮湖	49	31	6.15	100	41	30	8	Sup to Fine	.5
同	四方林		23	6.15	195	39	32	8	"	.5
					60	40	31-9	10	Superior	
桃園廳	成榮湖	50	10	5.24	30	29	28	11	Good up	.5
新竹廳	內湖		67	8.15	42.5	26	28	13	On Sup	.5
					56	27	28+1	12	Good Sup	.5
桃園廳	成榮湖	54	10	5.24	30	29	33	11	Superior	.5
新竹廳	什伍份		46	7.5	60	31	28	10	On Sup	.5
					45	30	31+1	9	Sup up	.5
桃園廳	成榮湖	71	31	6.15	100	41	30	8	Sup to Fine	.5
新竹廳	頭份林		81	8.7	55	41	32	8	"	.5
					77	41	31-10	9	Sup up	.5
桃園廳	成榮湖	91	52	7.16	40	47	32	6	Fine	.5
新竹廳	南港		27	6.15	48	43	29	8	Sup to Fine	.5
					44	45	31-14	10	Superior	.5
沙坑、南河										
新竹廳	沙坑	20	55	7.16	70	37	36.5	9	Sup up	.5
新竹廳	深坑		44	7.3	56	36	34	9	"	.5
					63	37	34-3	9	Sup up	.5
新竹廳	沙坑	27	35	7.7	110	50	34	6	Fine	.5
新竹廳	內湖		43	7.11	71	34	41	9	Sup up	.5
					91	42	37-5	9	Sup up	.5
新竹廳	沙坑	74	35	7.7	110	50	45	6	Fine	.5
新竹廳	瑪陵坑		25	6.13	130	103	35	1	Choice	.5

21

新竹廳	石硬仔	56	78	8.8	60	46	36	6	Fine	.5
同	頭份林	56	53	7.18	50	49	36	6	"	
					55	48	36-12	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	60	38	7.9	70	64	36	4	Fine to Finest	.5
同	頭份林	60	53	7.18	50	49	36	6	Fine	
					60	57	36-21	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	61	61	7.19	50	50	36	6	Fine	.5
同	頭份林	61	58	7.18	50	49	35	6	"	
					50	50	36-14	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	62	79	8.9	35	32	36	9	Sup to Fine	.5
同	頭份林	62	81	8.7	55	41	27	8	Sup up	
					45	37	32-5	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	63	79	8.9	35	32	30	9	Sup up	.5
同	南港	63	28	6.15	45	35	27	9	"	
					40	34	29-5	11	On Sup	
新竹廳	石硬仔	64	61	7.19	50	50	40	6	Fine	.5
同	南港	64	27	6.15	48	43	32	8	Sup Fine	
					49	47	36-11	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	65	61	7.19	50	50	38	6	Fine	.5
同	水返脚	65	64	8.10	80	54	31	5	Fine up	
					65	52	30-22	10	Superior	
新竹廳	石硬仔	66	78	8.8	60	46	34	6	Fine	.5
同	水返脚	66	64	8.10	80	54	33	5	Fine up	
					70	50	34-16	6	Fine	
新竹廳	石硬仔	67	38	7.9	70	64	40	4	Fine to Finest	.5
同	媽腰坑	67	25	6.13	120	103	40	4	Choice	

新竹廳	石硬仔	68	79	8.9	95	84	40-44	8	Sup to Fine	
同	北港	68	24	6.13	35	32	30	9	Sup up	.5
					40	33	34	9	"	
					38	32	32+	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	69	61	7.19	50	50	36	6	Fine	.5
同	水返脚	69	40	7.13	109	67	36	4	Fine to Finest	
					75	59	36-23	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	70	79	8.9	35	32	28	9	Sup up	.5
同	北港	70	1	5.2	40	25	29	13	Good up	
					38	28	29+1	11	On Sup	
新竹廳	石硬仔	77	61	7.19	50	50	36	6	Fine	.5
同	永安坑	77	41	7.2	50	37	32	9	Sup up	
					50	44	34-10	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	80	38	7.9	70	64	40	4	Fine to Finest	.5
同	油罐	80	56	7.18	70	77	42	3	Fine	
					70	71	41-3	8	Sup to Fine	
新竹廳	石硬仔	81	79	8.9	35	32	28	9	Sup up	.5
同	田寮坑	81	57	7.17	40	34	30	9	"	
					38	33	29-4	11	On Sup	
新竹廳	石硬仔	92	38	7.9	70	64	32	4	Fine to Finest	.5
同	猪寮	92	70	8.22	60	53	35	5	Fine up	
					65	59	34-25	9	Sup up	
新竹廳	石硬仔	10	39	7.9	90	79	130	3	Finest	.5
同	三角湧	10	72	8.22	110	76	64	3	"	

新竹廳	藤	坪	12	62	7.20	100	78	86+8	2	Finest to Choice
同	田寮坑			57	7.17	46	54	39	5	Fine up
						40	34	35	9	Sup up
新竹廳	藤	坪	16	82	8.10	43	44	39-5	8	Sup to Fine
臺北廳	水返脚			64	8.10	65	59	68	5	Fine up
						80	54	47	5	"
						73	57	48	5	Fine up
新竹廳	藤	坪	25	62	7.20	45	54	54-3	5	Fine up
臺北廳	水返脚			40	7.13	100	67	72	5	Fine up
						45	67	60	4	Fine to Finest
新竹廳	藤	坪	33	62	7.20	73	61	44	4	Fine to Finest
臺北廳	擺	接		70	8.22	45	54	66+5	4	Fine to Finest
						60	53	44	5	Fine up
新竹廳	藤	坪	55	39	7.9	90	79	40	5	Fine up
同	頭份林			36	7.8	100	55	44	5	"
						95	67	52	6	Fine
新竹廳	藤	坪	57	82	8.10	65	59	48-19	6	Fine
同	頭份林			81	8.7	55	41	36	6	"
						60	50	36	9	Sup up
新竹廳	藤	坪	58	80	8.7	38	29	36-14	11	On Sup
同	頭份林			83	8.10	38	26	23	12	Good to Sup
						58	28	24-4	13	Good up

新竹廳	藤	坪	59	62	7.20	45	54	45	5	Fine up
同	頭份林			58	7.18	50	49	32	6	Fine
						48	52	39-13	8	Fine up
新竹廳	藤	坪	83	82	8.10	60	59	60	5	Fine up
同	大山脊			59	7.17	80	85	54	5	Fine to Choice
						75	72	57-15	5	Fine up
新竹廳	藤	坪	86	83	8.10	38	26	24	12	Good to Sup
桃園廳	四方林			73	8.28	27	25	27	13	Good to Sup
						32	26	26	12	Good to Sup
新竹廳	藤	坪	88	39	7.9	90	79	26	3	Finest
同	大山脊			59	7.17	80	85	50	2	Finest to Choice
						85	82	60-22	5	Fine up
新竹廳	藤	坪	93	82	8.10	65	59	32	5	Fine up
臺北廳	內湖			42	7.3	85	49	36	6	Fine
						75	54	34-20	9	Sup up
新竹廳	藤	坪	78	11	5.18	35	25	30	13	Good up
臺北廳	大擺			5	5.11	40	23	32	14	Good
						38	24	26+2	10	Superior
新竹廳	藤	坪	4	2	5.2	28	23	15	14	Good
桃園廳	三洽園			8	5.24	28	23	23	14	"
臺北廳	銅鑼			9	5.24	25	23	25	14	"
				5	5.11	40	23	23	14	"
						30	23	24+1	13	Good up
臺北廳	石坑			3	5.2	30	21	17	15	On Good
基隆廳	安三			4	5.11	32	22	23.5	14	Good
桃園廳	三洽園			30	6.16	31	24	23.0	13	Good up

臺北總 株園 同	石成 四力林	45 10 7	7.4 5.24 5.24	31 50 30 27	22 27 29 25	23+1 23 28.5 33	14 12 11 13	Good Good to Sup On Sup Good up	3 3 3 4
臺北總 株園 同	港 頭份林 庄	1 80 83 11	5.2 8.7 8.10 5.18	40 38 38 35	25 29 26 25	30+3 28 28.5 33	11 13 11 12 13	On Sup Good up On Sup Good to Sup Good up	5.2 2.5 2.5 2.5 2.5
新 竹園 株園 同	石 成樹林	79 53 16	8.9 7.16 5.18	35 80 35	32 28 27	31+5 31 30 33	10 9 12 12	Superior Sup up Good to Sup "	3 3 3 4
臺北總 株園 同	南 大成	26 33 52	6.15 7.5 7.16	48 60 40	43 37 47	31+2 65 30 54	8 9 6	Superior Sup to Fine Sup up Fine	3 4 4 3
臺北總 株園 同	港 肚	47 50 67	7.5 7.17 8.15	50 37 24 42.5	42 28 27 26	60+18 26 23.5 28	5 12 12 13	Fine up Good to Sup "	3 3 3 4
臺北總 株園 同	坑 寮	69 76 65 71	8.14 8.31 8.17 8.21	38 24 28 50	29 27 31 30	28+1 39 29 27	11 12 10 11	On Sup Good to Sup Superior On Sup	2.5 2.5 2.5 2.5
臺北總 株園 同	安 成石	15	8.21	35	27	28-1	12	Good to Sup	2.5

六十個以上總合	31	22	23+1	14	Good	3
四十個以下總合	29	29ナシ	11	On Sup		
六十個以上總合	78	76-2	3	Finest		
四十個以下總合	49	50+1	6	Fine		
六十個以上總合	34	37	9	Sup up		
四十個以下總合	17	35	9	Sup up		
六十個以上總合	48	30	8	Sup to Fine		
四十個以下總合	29	38	9	Sup up		

示表ノ如ク配合ノ結果品質向上シ價格等級ノ昇騰セルモノ二十二種ニシテ其割合二割三分四厘又配
合セシモ等級價格ニ何等ノ變動ヲ來ササルモノ八種即チ八分五厘トナレリ又配合ノ結果却ツテ品質
ヲ損ジ等級及價格ノ下降セルモノ六十四種ニシテ其割合六割八分ノ多キニ達セリ是レ三十七番(配
合番號)以降ハ評價ノ時期ヲ失セルト曩ニ暴風雨ニ際シ濕氣ヲ吸收セル爲メ時日ノ經過スルニ從ヒ
漸次品質ノ下向ヲ免レサリシニ基因スルコト大ナルヘシ又三十七番乃至七十番ハ昨年配合ノ結果等
級ノ進ミ價格ノ上騰セシ地方ヲ昨年ノ如クニ配合セルモノナルモ今年ハ却ツテ價格ノ下降ヲ來セリ
是レ前述ノ原因ノ外例ヘ同一地方ト雖本年ハ天候不順ニシテ降雨多カリシ爲メ昨年ノ産茶ニ比シ形

狀、色澤、香味等性質ノ著シク異ルニヨリ不向トナレルモノナルベシ茲ニ於テ平年好結果ヲ得シ地方ト雖モ亦本年ノ如キ天候不順ノ年ニアリテハ茶ノ性質ノ異ルヨリ不向トナルコトアルベキヲ知り得

次ニ原料粗製茶ヲ再製セシニ其結果次表ノ如シ

産地	買收月日	格價	種茶時數	茶葉量	屑物量		計	同上歩合	殘高	再減高	同上歩合	殘高	仕上歩合
					葉	葉先粉末							
春茶													
自二十圓至三十圓													
瑪陵坑	5.2	28	960	220	—	220	2.28	7.40	60	81	7.08	7.08	7.08
四方林	5.24	27	1,100	20	40	60	54	1,040	80	79	9.00	8.72	8.72
銅羅園	5.24	25	990	30	20	50	50	940	120	146	8.29	8.28	8.28
三洽水	5.24	28	900	20	50	70	72	890	70	78	8.20	8.54	8.54
南	5.24	25	1,010	—	10	10	10	1,000	100	1.09	9.00	8.99	8.99
夏茶													
四方林	7.16	27	6,480	300	280	1,000	1,540	5,480	220	58	5.60	8.00	8.00
銅羅園	7.17	24	2,900	240	40	700	2.41	2,200	80	36	2.120	7.31	7.31
四方林	6.17	19.5	4,840	280	120	880	1.81	3,960	80	20	3.880	8.02	8.02
秋茶													
石	8.17	28	650	60	20	90	1.38	560	20	35	5.10	8.30	8.30
四方林	8.28	27	2,020	120	60	220	1.08	1,800	80	45	1.720	8.51	8.51

春茶自三十圓至四十圓

三洽水	8.31	30	3,840	80	80	240	62	3,600	260	72	3,340	8.70	8.70
銅羅園	8.31	24	1,940	80	120	240	1.23	1,700	100	58	1,600	8.24	8.24
成榮圃	8.31	24	5,500	240	340	740	1.34	4,760	300	63	4,460	8.10	8.10
夏茶													
霹靂石	5.2	30	1,000	70	60	130	1.30	870	50	60	820	8.20	8.20
安坑	5.11	32	1,920	50	30	80	41	1,840	180	93	1,660	8.64	8.64
成榮圃	5.24	30	1,920	40	120	160	83	1,760	140	79	1,620	8.44	8.44
大樹	5.18	35	1,010	30	20	50	59	960	160	1.66	800	7.92	7.92
林坪	5.18	35	970	30	20	50	51	920	140	1.52	780	8.04	8.04
田藤	5.18	30	1,100	40	—	40	36	1,060	180	1.70	880	8.00	8.00
夏茶	8.950	同	2,900	2,50	5,40	53	8,410	1,050	1,23	7,360	8.14	8.14	8.14
三洽水	6.16	31	5,000	160	100	400	80	4,600	200	43	4,400	8.80	8.80
南	7.6	36	1,210	200	40	250	2.06	960	40	41	920	7.60	7.60
擺尾	7.5	37	6,060	320	240	660	1.08	5,400	280	51	5,120	8.45	8.45
田	7.21	35	950	80	10	150	1.57	800	20	25	780	8.21	8.21
秋茶													
安坑	8.14	38	6,000	140	120	380	63	5,620	220	39	5,400	9.00	9.00

石碾仔	8.9	35	9,700	100	180	580	60	9,120	520	57	8,600	8.80
頭份林	8.7	38	4,800	100	240	460	96	4,340	420	96	3,920	8.16
藤坪	8.10	38	6,720	80	270	300	53	6,300	440	70	5,920	8.80
			27,220	4.80	5,40	1,78	67	25,440	1,600	67	23,840	8.66
			7,60		7,60							
春茶 自四十圓至五十圓												
北港	5.2	40	1,000	40	60	100	1.00	903	100	1.11	800	8.00
擺接	5.11	40	930	30	—	30	32	900	40	.44	860	9.24
三角湧	5.11	40	1,100	50	10	120	1.09	950	100	1.02	880	8.00
大山脊	5.18	40	1,010	40	30	70	60	940	140	1.48	800	7.92
上坪	5.24	40	1,070	30	20	50	50	1,020	140	1.37	880	8.22
南坑	5.28	40	1,000	30	10	40	40	960	80	88	880	8.80
南庄	5.28	45	1,080	100	—	100	92	980	100	1.03	820	7.60
斗換坪	5.28	45	960	100	—	100	1.04	960	140	1.45	820	8.54
石碾仔	5.28	40	1,020	30	20	50	50	980	140	1.42	840	8.22
			9,170	4.90	1,70	660	70	8,620	1,040	1.18	7,580	8.12
夏茶 同												
北港	6.13	40	4,780	160	100	340	71	4,440	240	54	4,200	8.78
南港	6.15	48	1,240	40	80	80	64	1,100	40	34	1,100	9.35
南港	6.15	45	2,220	80	40	140	63	2,080	40	19	2,040	9.18
成菜棚	6.15	40	8,700	660	430	1,340	1.81	7,300	440	58	6,920	7.95
三角湧	7.27	46	6,520	160	200	220	48	6,200	440	70	5,760	8.83

三洽水	7.17	40	4,200	160	40	220	52	2,980	240	60	3,740	8.70
成棚	7.16	40	5,840	40	120	280	48	5,500	280	50	5,280	9.04
南坑	7.19	40	1,490	60	20	50	70	1,400	80	57	1,320	8.85
田寮	7.17	40	3,650	160	40	210	57	3,440	280	81	3,100	8.65
藤坪	7.20	45	1,820	20	10	80	44	1,740	60	34	1,680	9.23
			40,460	1,540	1,20	3,100	69	37,360	2,140	51	35,260	8.80
					5,40							
秋茶 同												
深坑	8.16	47	3,000	20	80	180	60	2,820	140	50	2,680	8.93
內湖	8.15	42.5	6,200	80	120	360	58	5,840	240	41	5,600	9.03
大山脊	8.8	40	1,920	20	40	100	52	1,820	90	1.09	1,620	8.43
			11,12	1,20	4,00	640	60	10,490	580	66	9,900	8.74
					2,80							
春茶 自五十圓至六十圓												
頭份林	5.18	50	1,110	100	30	130	1.17	180	100	1.02	880	8.00
夏茶 同												
南港	6.15	50	2,020	80	40	200	99	1,820	60	33	1,700	8.75
安坑	7.2	50	4,900	120	100	340	69	4,500	240	52	4,220	8.81
深坑	7.3	56	5,900	80	160	320	54	5,640	400	70	5,240	8.73
石碓	7.4	50	4,640	40	80	240	52	4,400	280	63	4,120	8.87
大肚	7.18	55	970	20	10	70	72	900	20	22	830	9.07

頭份林	7.18	50	1,980	60	60	140	70	1,840	60	32	1,780	8.98
石硬仔	7.19	50	3,960	100	140	280	69	3,680	280	76	3,400	8.54
			24,430	500	700	1,550	68	22,840	1,340	50	21,500	8.82
			同	同	390							
三角湧	8.21	50	4,800	180	80	280	58	4,520	240	52	4,280	8.91
頭份林	8.7	55	4,600	40	40	200	43	4,400	400	90	4,000	8.70
			5,940	220	120	480	50	8,920	640	70	8,280	8.80
			同	同	140							
			自六十圓至七十圓									
大肚	7.5	60	970	20	20	50	51	920	40	43	880	9.07
什伍份	7.5	60	4,980	80	100	300	60	4,680	290	62	4,390	8.81
			5,550	100	120	650	55	5,600	330	52	5,270	8.95
			同	同	130							
			秋茶									
擺接	8.22	60	2,80	20	20	80	28	2,720	200	73	2,520	9.00
石硬仔	8.8	60	5,500	80	100	280	50	5,220	320	60	4,900	8.90
藤坪	8.10	65	1,460	20	100	140	72	1,820	120	65	1,700	8.67
			10,260	120	220	500	50	3,760	640	55	9,120	8.85
			同	同	100							
			夏茶									
石硬仔	7.9	70	590	100	40	150	2.50	440	20	45	420	7.11
			自七十圓至八十圓									

內湖	7.11	71	7,880	20	120	240	30	7,640	200	26	7,440	9.44
沙坑	7.16	70	1,980	80	107	140	71	1,840	100	54	1,740	8.78
油羅	7.18	70	900	20	20	80	83	830	90	1.04	790	8.22
			11.40	220	240	610	1.00	10,800	410	47	10,390	8.53
			同	同	150							
			夏茶									
南坑	7.9	90	1,920	80	80	180	93	1,740	20	11	1,720	8.98
藤坪	7.9	90	2,810	80	40	170	60	2,640	120	45	2,520	8.90
大山脊	7.17	80	870	20	40	70	80	800	10	12	790	9.08
			5,600	180	160	420	77	5,180	140	23	5,030	9.00
			同	同	80							
			秋茶									
水返脚	8.10	80	7,730	40	280	500	65	7,220	480	66	6,740	8.73
			百圓以上		200							
			同	同	300							
			春茶									
嘉義	5.24	100	950	30	—	30	30	920	80	86	840	8.84
			同	同								
			夏茶									
瑪陵坑	6.13	120	6,460	80	180	380	53	6,080	200	32	5,880	9.10
成菜棚	6.15	100	8,920	160	120	720	80	8,200	620	75	7,580	8.50
沙坑	7.7	110	1,030	20	240	70	70	960	160	1.66	800	7.77
頭份林	7.8	100	3,660	240	100	240	1.14	3,240	420	71	3,000	8.29
水返脚	7.13	100	7,980	100	240	620	77	7,360	490	66	6,870	8.67

秋茶		23,050	600	880	2,210	79	25,840	1,710	76	24,630	8.45
内湖	7.15 1425	4,800		80	160	33	4,040	180	38	4,400	9.30
三角湖	7.2 110	2,240		80			2,240	100	44	2,140	9.55
平均		7,040		80	16	33	6,880	28	31	6,600	9.36

更ニ買收原料茶ヲ價格及季節別ニヨリ再製減高ノ平均歩合ヲ示セバ次ノ如シ

價格別	春			夏			秋		
	層物量	再火減	仕上り量	層物量	再火減	仕上り量	層物量	再火減	仕上り量
三十圓以下	100	10	90	100	10	90	100	10	90
三十圓乃至四十圓	100	10	90	100	10	90	100	10	90
四十圓乃至五十圓	100	10	90	100	10	90	100	10	90
五十圓乃至六十圓	100	10	90	100	10	90	100	10	90
六十圓乃至七十圓	100	10	90	100	10	90	100	10	90
七十圓乃至八十圓	100	10	90	100	10	90	100	10	90
八十圓乃至九十圓	100	10	90	100	10	90	100	10	90
百圓以上	100	10	90	100	10	90	100	10	90
平均	100	10	90	100	10	90	100	10	90

以上二表ノ示ス所ニヨレバ春茶ハ概シテ層物量少キモ再火歩減多ク夏茶秋茶ハ之ニ反シ火減少キモ中等以下ノ品ニアリテハ比較的層物量多キヲ認ム又仕上り高ハ夏秋茶ノ春茶ヨリ多キヲ知ル可ク價

格ヨリ云フトキハ高價ナル程層物火減少ク仕上り高多キヲ認ムヘシ

配合試驗用製茶試驗

製茶配合試驗用製茶試驗ノ爲メ本年試製セシ地方ハ九個所ニシテ内紅茶六個所、綠茶二個所ト是ヲ應別ニセバ臺北廳紅茶二個所、綠茶二個所、桃園廳紅茶二個所、綠茶一個所、新竹廳紅茶二個所ニシテ紅茶ハ烏龍茶ノ優品ヲ産スル地方ヲ以テシ綠茶ハ主ニ烏龍茶原料ニ不適ナル時茶種ノ栽培セラル、地方ニ於テ施行セリ而シテ綠茶ハ右ノ外粗製茶ヲ買收セシモノ五種ニシテ今是等ノ審査評點數ヲ示セバ次ノ如シ

綠茶

審査項目	產地	審査定點	春			夏			秋		
			層物量	再火減	仕上り量	層物量	再火減	仕上り量	層物量	再火減	仕上り量
乾	芝蘭三堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
潤	土地公埔庄	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
香	芝蘭一堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
蒸	草山庄	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
水	桃洞堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
色	坪頂大湖庄	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
形	揀東上堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
計	神岡庄	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
	石碇堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
	暖々街	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
	芝蘭二堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
	揀東上堡	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
	北投庄	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90
	期堵庄	100	100	10	90	100	10	90	100	10	90

右表ニ示スガ如ク土地公埔庄草山庄ノモノ品質最モ良好ニシテ圳塔庄ノ著シク遜色アルハ製造中過失ノ點アリシニ基因スヘシ
又以上各種粗製茶ヲ再製セシニ次ク如キ結果ヲ得タリ

產地	棟茶時 數量	層		計量	同上歩合	殘高	再火減	同上歩合	殘高	仕上り 歩合
		茶頭	物先							
土地公埔	百九	六〇	二〇	八〇	一〇〇	六二	七一	一二四	五〇	七三
草山	一五	一〇	一〇	二〇	六六	一一三	一一	一五六	一一一	八〇〇
坪頂大湖	四六〇	三〇	三〇	六〇	一〇〇	六〇〇	四七	一〇一	三三三	七七一
神岡	九六〇	一〇	八〇	九〇	八三	八八〇	一〇〇	一四五	七四〇	七七〇
暖街	九六〇	六〇	一〇〇	一六〇	一八	七七〇	九〇	一四五	六八〇	七〇八
北港	九六〇	四〇	八〇	一二〇	一四	八四〇	一〇〇	一四四	七四〇	七七〇
圳塔	九六〇	四〇	二〇	六〇	七二	八九〇	一〇〇	一四四	七四〇	七七〇
平均	五三四	二二〇	二二〇	四四〇	一〇一	八二一〇	五八	一三三	三三三〇	七六〇

紅茶

紅茶ハ暴風雨ニ際シ小屋倒潰セルガ爲メ其見本浸水シ製品ノ審査評點ヲ掲グル能ハズト雖今左ニ品質ノ概要ヲ摘述スレバ其最モ良カリシハ文山嶽内湖庄産ニシテ竹北一堡石硬仔産之ニ次キ三角湧、頭份林、咸菜礮、北港ノ順ナリ内湖庄産ハ形狀、香味共ニ優良ニシテ多クノ白毛ヲ出シ石硬仔産ハ形狀香氣ニ於テ内湖庄産ニ劣ルト雖潤味佳良ナリ頭份林産ハ香味前二者ニ比シ著シク遜色アリシ

モ形狀最モ良好ナリキ又北港庄産ハ形狀粗大ナリシモ是レ試製ヲナセシトキハ既ニ夏茶ノ摘採後ナリシヲ以テ生葉ノ粗惡ナリシニ因ルモノナリ
次ニ是等ノ試製茶ヲ再製セシニ其結果次ノ如シ

產地	棟茶時 數量	層		計量	同上歩合	殘高	再火減	同上歩合	殘高	仕上り 歩合
		茶頭	物先							
内湖	一七二〇	四〇	粉末	一〇〇	六六	一七二〇	一〇〇	二〇	一七二〇	八七
石硬仔	一七二〇	一〇〇	一〇	一一〇	六六	一七二〇	九〇	二二	一七二〇	八三三
頭份林	一七二〇	二〇	一〇	三〇	六六	一七二〇	八〇	二二	一七二〇	八七三
三角湧	一七二〇	二〇	一〇	三〇	六六	一七二〇	一四〇	二二	一七二〇	八三三
咸菜礮	一七二〇	五〇	一〇	六〇	六六	一七二〇	一〇〇	二〇	一七二〇	八三三
北港	九六〇	一四〇	一〇	一五〇	一〇〇	九六〇	四〇	五二	九六〇	七三〇
平均	九三〇	四九〇	三二〇	八一〇	一〇一	八二一〇	五八	一三三	三三三〇	七六〇

第六章 分析試驗

第一節 試驗茶園土壤ニ就キテ

該試驗ハ當試驗茶園一般ノ土性及爾後ノ變化ヲ解知セントシテ開始セシモノナリ
其得タル結果ハ酸度及熱灼ニ於ケル損失ニシテ左ノ如シ

分析結果

區名	水分	熱灼ノ損失	酸度
傾斜地下部表土	一〇、九八二一	七、八八五一	四三、八九
右同 心土	一三、五一三五	七、二〇三五	三五、二五
右同上部表土	九、一八四六	八、八五四三	四九、八九
右同 心土	六、七九一二	八、七三三九	四六、一三
第三百三十一區表土	一〇、七〇三〇	六、〇五二〇	四九、五〇
右同 心土	一三、三四六一	六、四〇五一	四五、三九
第三百三十四區表土	一一、二五六九	六、二二一八	五一、〇〇
右同 心土	一三、三八八三	六、二五六四	四八、〇〇
第三百三十五區表土	一一、〇一一〇	五、七一六七	四八、七五
右同 心土	一二、〇五〇五	六、四二〇九	四七、二五
第一區表土	三、四九〇五	五、二七一	四二、七五
右同 心土	六、〇一六六	六、一三四八	四八、三九
第二十一區表土	五、五七九一	五、六六五八	四〇、五〇
右同 心土	七、二八三八	六、四三〇四	四二、三九
第三十六區表土	四、四八七六	六、六一八三	四八、七五
右同 心土	六、七二五六	六、九〇〇三	四六、一四
第五十區表土	三、九二二八	五、七四九六	四二、八七
右同 心土	一〇、二三〇七	六、三九二三	四六、一四

第六十三區表土	三、二二五〇	五、七七二四	四二、三九
右同 心土	五、六九七四	六、五九九四	四八、〇〇
第七十四區表土	六、〇九六二	六、三七〇〇	四五、〇〇
右同 心土	九、五四六二	六、三五八一	四三、八九
第七十五區表土	三、六七五〇	五、二七七二	二八、六九
右同 心土	九、五一六一	六、二〇一三	四四、七八
第七區表土	三、四三八三	五、四四六一	四七、二五
右同 心土	五、九六一〇	六、二四七三	三九、三九
表土平均	六、六九六三	六、二二三一	四六、〇五
心土平均	九、二一三三	六、六三七二	四四、七〇

備考

一、土壤採收期 明治四十五年七月二十五日

第一、二十一、三十六、五十、六十三、七十四、七十五區混合ノ各區表土

同年同月二十八日

右同各區心土

大正元年八月二十三日

傾斜地上下部、第三百三十一、百三十四、百三十五ノ各區表心兩土

二、傾斜地上部トハ第七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九ノ各區混合傾斜地下部

ニハ第九二、九四、九六、九八、一〇〇、一〇二ノ各區混合

三、表土トハ各耕土深サ五寸以内ノ土壤、心土トハ深サ五寸ヨリ約一尺迄ノ深サノ土壤ヲ各區數ケ所ヨリ取り混合セリ

四、分析ハ普通法ニヨリ水分及熱灼ノ損失ハ二種平均數、酸度ハ一種ノ試驗數ヲ示ス

五、第七十五區ハ明治四十四年二月十七日石灰(炭酸石灰トシテ)反當三十五貫匁ヲ加用シタルモノナレバ其表土ノ酸土少ク平均(酸度)數欄ニハ除外セリ

第二節 土地改良方法ニ就キテ

第一輪作 試驗

土地改良ハ如何ナル方法ヲ得策トスルカ綠肥栽培上ノ施設ヲ定メントシ鉢及圃場ニテ試作セシモノナリ

(イ) 圃場 試驗

試驗地ハ綠肥栽培試驗報告(附平地茶園改良法)ノ第二章第二節ノ圃場試驗地ヲ利用セリ
今左ニ各區土性ノ一二ヲ表示セン

區	名	水分	熱灼ノ損失	酸度	窒素
第 一 區	試驗地	—	5.850	5.10	0.1100
第 二 區	區	6.103	5.350	5.11	0.1240
第 三 區	區	6.121	5.567	5.94	0.1290

第 一 區	第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區	第 六 區	第 七 區	第 八 區
6.080	6.174	6.174	6.174	6.174	6.174	6.174	6.174
5.677	5.595	5.699	5.699	5.699	5.699	5.699	5.699
5.11	5.11	5.11	5.11	5.11	5.11	5.11	5.11
0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240

第 一 區	第 二 區	第 三 區	第 四 區	第 五 區	第 六 區	第 七 區	第 八 區
6.080	6.174	6.174	6.174	6.174	6.174	6.174	6.174
5.677	5.595	5.699	5.699	5.699	5.699	5.699	5.699
5.11	5.11	5.11	5.11	5.11	5.11	5.11	5.11
0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240	0.1240

* 實驗一回ノ示數ナリ、又酸度ハ鹽化加里三倍法ニヨリ一回ノ實驗數ヲ示セリ

試驗 區

該試驗區別ハ石灰加用及原土ノ兩區ニ於テ各八區ヲ設ケ各一坪半ノ面積ヲ有ス

區名	第一回試作物	第二回試作物	第三回試作物	第四回試作物	第五回試作物	摘	要
第一區	荳科植物(無肥)	同(無肥)	根菜類(無肥)	荳科植物(無肥)	禾穀類(無肥)	以上ハ二ヶ年ニ於ケル栽培豫定	
第二區	同(無肥)	根菜類(無肥)	荳科植物(無肥)	同(無肥)	葉菜類(右二)		
第三區	同(無肥)	右(無肥)	同(無肥)	同(右同)	葉菜類(無肥)		
第四區	同(無肥)	右(無肥)	同(無肥)	同(右同)	根菜類(無肥)		
第五區	同(無肥)	右(無肥)	同(無肥)	同(無肥)	荳科植物(無肥)		
第六區	同(無肥)	右(無肥)	同(無肥)	同(無肥)	禾穀類(無肥)		
第七區	禾穀類(無肥)	根菜類(無肥)	荳科植物(無肥)	球根類(無肥)	禾穀類(無肥)		
第八區	休	閉同	上同	上荳科植物(無肥)	休		

備考

右表ハ五ヶ年間繼續試作物ノ内一部ノ豫定ヲ示ス

綠肥作施肥量磷酸トシテ反當一、二〇〇夕加里トシテ四〇〇夕(過磷酸石灰使用)

大麥施肥量磷酸同量、加里一、〇〇〇夕窒素二、五〇〇夕(硝酸アムモニヤ及硫酸アムモニヤ使用)

第一回試作物結果

區名	播種期	發芽期	開花期	結實期	收穫期	株數	草丈	生草量	結實數及種子量	根瘤數	摘	要
第一區	十一月九日	十一月九日	十二月十二日	三月十八日	五月四日	三(2)1	1.56	4.65	三	約	ナシ	大豆
第二區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.48	5.33	三	約	ナシ	大豆
第三區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.48	5.33	三	約	ナシ	大豆
第四區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.55	5.45	三	約	ナシ	大豆
第五區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.55	5.45	三	約	ナシ	大豆
第六區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.60	5.45	三	約	ナシ	大豆
第七區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.60	5.45	三	約	ナシ	大豆
第八區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.60	5.45	三	約	ナシ	大豆
第一區	十一月九日	十一月九日	十二月十二日	三月十八日	五月四日	三(2)1	1.56	4.65	三	約	ナシ	大豆
第二區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.48	5.33	三	約	ナシ	大豆
第三區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.48	5.33	三	約	ナシ	大豆
第四區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.55	5.45	三	約	ナシ	大豆
第五區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.55	5.45	三	約	ナシ	大豆
第六區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.60	5.45	三	約	ナシ	大豆
第七區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.60	5.45	三	約	ナシ	大豆
第八區	同	同	同	同	同	三(2)1	1.60	5.45	三	約	ナシ	大豆

表土ヲ約三寸ノ深サニ削リ取り尙ホ深サ約一尺ヲ掘リ上ゲ全面積十坪ヲ二十分ノ一ニ巾七寸ノ板ヲ以テ上部ノミ區劃セリ右堀リ上ゲ土壤ヲ各區計算量(深サ一尺)約百五十七貫匁ニ水分ヲ合算(十五パーセント風乾物ヨリ大)百八十貫匁ノ土壤ヲ充セリ該土壤堀リ上ゲ期ハ大正元年十二月十六日ニシテ石灰加用區ノ石灰加用ハ十二月二十五日ニ終リ直チニ各區ニ充セリ

試驗區

第一區 原燒土加用區

原土ノ燒土ヲ反當千五百貫即チ區當二貫五百匁ヲ加用セリ

第二區 原土無肥區

原土壤ニテ無肥料ナリ

第三區 原土完全肥料區

窒素反當二、〇〇〇匁 磷酸二、〇〇〇匁加里一、〇〇〇匁ノ割ニテ大豆粕、過磷酸石灰、硫酸加里ヲ施用セリ

第四區 泥土燒土加用區

泥土ノ燒土反當千五百貫匁即チ區當二貫五百匁ヲ加用セリ

第五區 泥土加用區

泥土反當三千貫匁區當五貫匁ヲ加用セリ

第六區 石灰二貫匁加用區

土壤百貫匁ニ對シ石灰(碳酸石灰トシテ)二貫匁ヲ加用セリ

第七區 石灰一貫匁加用區

第八區 同 五百匁加用區

第九區 同 二百五十匁加用區

第十區 同 百匁加用區

第十一區 同 二貫匁加用施肥綠肥栽培區

土壤百貫匁ニ對シ石灰(碳酸石灰)二貫匁ヲ加用シ

施肥量ハ磷酸反當二貫匁加里同一貫匁ノ割合ニ使用セリ

第十二區 石灰一貫匁加用施肥綠肥栽培區

第十三區 石灰五百匁加用施肥綠肥栽培區

第十四區 石灰二百五十匁加用施肥綠肥栽培區

第十五區 石灰百匁加用施肥綠肥栽培區

第十六區 泥土加用綠肥栽培區

泥土反當三千貫ヲ加用シ綠肥ヲ栽培ス

第十七區 原土施肥綠肥栽培區

施肥量第十一區ニ等シ

第十八區 原土無肥綠肥栽培區

第十九區 原土燒土加用綠肥栽培區

加用量第一區ニ等シ

第二十區 石灰二百五十匁加用無肥綠肥栽培區

加用量第九區ニ等シ

試作土壤

栽培試驗中土性ノ變化ヲ知ラントシテ先ヅ原土ノ成分實驗ヲ開始シ其二三ヲ得タルニヨリ左ニ表示セリ

風乾物百分中

區名	第一回採收			第二回採收		
	水分	熱灼ノ損失	酸度	水分	熱灼ノ損失	酸度
原土區	六六七〇	五六三三	三九一九	七三八二	五九四九	三九一九
原土區						

區名	第一回採收			第二回採收		
	水分	熱灼ノ損失	酸度	水分	熱灼ノ損失	酸度
第六區	七八一四	六三二八	一・一三	六七三三	五九四七	〇・四一
第七區	七四七九	五九四四	一・五八	六三八九	四七二八	一・六二
第八區	八三一七	六〇三六	〇・八三	八三九九	五六一七	一・八八
第九區	八二九九	五九三九	二・三三	七四三三	五二六五	三・〇〇
第十區	六五七三	五四〇七	一・二八	五七〇九	五六〇四	一・六九
第十一區	七〇三八	六一四五	一・〇八	八二三四	六二二九	一・〇九
第十二區	七〇三六	六一七二	一・八八	九四四三	五五〇三	一・四二
第十三區	七九〇〇	六三五七	一・三〇	六六一〇	六二〇二	〇・五五
第十四區	六五八六	六三七一	三・〇八	六九六三	五三四三	一・四〇
第十五區	七〇〇三	六四五六	五・三三	八四一九	五三九五	一・二九
第二十一區	八〇九九	五九二八	二・二五	七〇八二	五四九八	一・八九
大正元年十二月十日採收泥土				六一六七	六九九三	五・六三
右同 燒土				三三三三	四三三六	一・八八
右同 原燒土				三五〇四	五二二八	三・〇〇

備考

第一回採收ハ各區深サ十糎ニ於テ各部ヨリ第二回ハ深サ十糎乃至二十糎ニ於テ各部ヨリ採收混合シタルモノニシテ第一回ハ大正元年一月十四日採收シ日乾シ粉碎ハ粗ナリ(石灰粒堅固ニシテ碎ケズ篩目ヲ通過セズ)シガ第二回ハ同年三月五日採收シ粉碎ヲ密ニセリ
 (一)印ハ塩基性ヲ示シ其欄ノ數ハ(一)ノ酸度ヲ示ス(十)ハ酸度ヲ示ス

試作狀況

茶樹ハ苗木(一年生青心種)ヲ大正二年一月八日各區二櫛宛移植シ同九日綠肥作物栽培區ニ首着ヲ播種セリ茶樹ハ移植當時ト變リナシ
 首着ハ一月十五日全區發芽シ其二週間ヲ經過セルニ第十六、十七、十八、十九、二十區ハ矮少ニ他ノ各區ハ生育頗ル良好ニシテ三月ニ至リテハ前四區ハ生育不可能ナルモノ、如ク發芽當時ト變化ナク漸次縮少シツ、アリ第十五區ハ之ニ次キ第十四區又良好ナラズ就中良好ナルハ十二區ニシテ第十一、十三ノ兩區ハ之レニ次ギ一様ナリ

區名	發芽期	開花期	結實期	株數	草丈	草量	結實數	根瘤數
第十一區	二月四日	三月廿日	三月廿八日	三	短長	〇.〇	〇	〇
第十二區	同	同	同	三	〇.一	〇	〇	〇
第十三區	同	同	同	七	〇.一	〇	〇	〇
第十四區	同	同	同	二六	〇.一	〇	〇	〇
第十五區	同	同	同	二六	〇.一	〇	〇	〇
第十六區	同	同	同	三	〇.一	〇	〇	〇
第十七區	同	同	同	三	〇.一	〇	〇	〇
第十八區	同	同	同	一八	〇.一	〇	〇	〇
第十九區	同	同	同	三	〇.一	〇	〇	〇

第二十區	同	同	同	同	同	同	同	同
------	---	---	---	---	---	---	---	---

備考

播種期 大正二年一月九日

收穫期 同 年五月六日

右表ニヨル時ハ首着ハ土壤百貫ルニ對シ石灰一貫ル即チ一、パーセントハ最モ良好ニ二、パーセント及〇、五パーセントハ之ニ次キ石灰加用量ノ少キニ從ヒ漸次生育不良ナルヲ示シ燒土加用ハ原土施肥區ヨリモ良好ナリ

(ロ) 鉢試驗

該試驗ハ圃場試驗ト相待チテ其成蹟ヲ試ミントシテ施行セリ

試作土壤

該土壤ハ第一、(ロ)鉢試驗土壤ト同一ノモノニシテ大正元年十一月末石灰ヲ加用シ同年十二月中旬鉢ニ入レ各區ノ酸度ヲ測定セリ

土壤百貫ニ對スル石灰加用量	原土	百加用	二百四十加用	三百加用	五百加用	一貫五百加用
酸度	〇.〇	〇.一	〇.二	〇.三	〇.四	〇.五

試驗區

區名	第一區	第二區	第三區	第三區	第五區	第六區
土壤百貫ニ對ス ル石灰加用量	一貫五百匁	五百匁	三百匁	二百四十匁	百匁	原土
以上施肥區						
區別	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區
土壤百貫ニ對ス ル石灰加用量	一貫五百匁	五百匁	三百匁	二百四十匁	百匁	原土
以上無肥區						

備考

施肥區ハ反當磷酸一貫二百匁加里四百匁ノ割合ニテ磷酸曹達及硫酸加里ヲ使用シ第二回ニ磷酸八
百匁、加里六百匁窒素二貫匁ノ割合ヲ使用セントス
各區二個宛ニシテ鉢約一七、〇〇〇分ノ一反トス

生育狀況

大正二年一月八日茶樹種子(黃柑種)ヲ三日間水浸シ同十日播種セリ
種子二百粒ハ四百五立方糶ノ容積ヲ有シ浸種中沈降セルモノ百九十二粒沈降セザルモノ二百八十
六粒ナリ
發芽期次ノ如シ

區名	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區
(イ)發芽期	三月廿五日	四月七日	三月廿三日	三月十五日	四月八日	同上	三月廿七日	三月十八日	同上	三月十八日	三月十八日	三月廿日
(ロ)同	三月廿八日	三月十五日	右同	右同	同上	同上	三月十四日	三月十四日	同上	三月十四日	三月十四日	三月十四日

禾穀類栽培試驗

該試驗ハ土地改良上綠肥作物ヲ栽培上ノ輪作試驗ノ一作ヲナスベク先ツ其適否ヲ知ラントシテ施行
セリ

試驗地及試驗區

試驗地ハ土地改良法試驗地ニ隣接セルモノニシテ其試驗區左ノ如シ

第一區 完全肥料區

窒素 反當二、五〇〇匁 硝酸アムモニヤ及硫酸アムモニヤヲ使用
磷酸 同 一、二〇〇 過磷酸石灰併用
加里 同 一、〇〇〇 硫酸加里使用

第二區 無窒素肥料區

第一區肥料中窒素ヲ除キタルモノニ等シ

第三區 無肥料區

右三區ニシテ石灰加用及原土區ノ兩區ニ施設試験セリ

試験種類及試験成績

試験種類ハ大小麥ニシテ大麥ハ各區ヲ半坪トシ小麥ハ一坪トシテ大正元年十一月九日播種シ十三日發芽セシモ鶏ノ被害ニテ十八日ニ補種セリ

同月廿三日發芽シ其後一週間ハ差違ナカリシモ時日ノ經過ト共ニ原土區ハ漸次枯死シ石灰加用完全區ハ生育良好ニシテ益々繁茂シツ、アリシガ原土區第二第三ノ兩區ハ一月中ニ第一區ハ二月中ニ枯死シ始メタリ

大小麥ノ酸性土壤ニ對スル生育状態ヲ比較スレハ小麥ハ良好ナリ五月八日收穫セシモ四月中結實セントスル頃鶏ノ被害ニ遭遇シ採種量ヲ知ル能ハズ依ツテ桿ノ量ヲ示シ其ノ生育狀況ヲ表ハサントス

試験區	大麥		小麥		開花期	結實期	摘
	草丈	秤量	草丈	秤量			
石灰加用 第一區	長	二〇五	長	一六五	三月廿四日	四月十二日	秤量ハ充分枯シタルモノヲ秤量セリ
同 第二區	同	一六五	同	四八七	同	同	
同 第三區	同	〇五三	同	二〇〇	同	同	
備考	同	〇五三	同	一〇	同	同	

原土區ハ總テ枯死シ秤量スル能ハズ
秤量ハ充分枯セシモノヲ秤量セリ

試験區	小麥		開花期	結實期	摘
	草丈	秤量			
石灰加用 第一區	長	一六五	三月廿四日	四月十二日	秤量ハ充分枯シタルモノヲ秤量セリ
同 第二區	同	四八七	同	同	
同 第三區	同	二〇〇	同	同	
原土 第一區	同	二三五	同	同	
同 第二區	同	一〇	同	同	
同 第三區	同	一〇	同	同	

右ノ結果ニ徴スレバ兩者共該原土區ニハ不適當ナレドモ石灰加用ニヨリテ尋常ナル生育ヲナスヲ認ム尙ホ石灰加用區ニ於ケル第二區ト第三區トノ差ノ小ナル又第三區ノ大ナルハ石灰加用ガ土壤中ノ不溶解成分ヲ可溶性ニナスモノニアラザルカ先ヅ該作物ハ石灰加用ニヨリ輪作作物トシテ栽培セラ
ル、事實ヲ明カニセリ

第三節 茶浸出液ニ就キテ

喫茶上注意スベキハ温度、時間浸液ノ割、水質及浸出回数等ナリ故ニ之レガ一般ヲ知ラントシテ施行セリ

今左ニ試験ノ得タル結果ヲ示サン

供試品、供試品ハ明治四十四年六月廿六日製造ニカ、ル桃園廳海山堡三角湧ノ夏茶再製茶ニシテ粗製買收價格金四十七圓ノモノニシテ其審査點數ヲ示セバ

審査種目	形状	色澤	水色	萎凋	香氣	調味	乾燥	計
審査定點數	三〇	一〇	一〇	一〇	一五	一五	一〇	一〇〇
得點數	二五	五	七	七	一三	二	一〇	六八

主要成分 (乾物百分中)

水分	固形物	可溶解分	同上灰分	粗灰分	タンニン	テイン
四六・〇	九三・一〇	三三・八九	四・〇九	七・一〇	一・四〇	一・八三

備考

分析ハ再製茶原形ヲ其儘沸騰セル蒸餾水ニテ普通審査法ノ如キ方法ニテ二回浸出シ少量ノ温湯及冷水ニテ各一回濾過洗滌シ其含量ヲ蒸發定量セリ

當場井水ニテ温度、時間、浸液割合ヲ異ニシタル分析結果ヲ示サントシ先ヅ當場井水成分ノ概要ヲ左記ス

井水分析結果 (一立中)

試験種目	浮游性物質	全固形物	硝酸	アンモニア	有機窒素	矽酸	鐵燐土	石灰	苦土	曹達及加里	硫酸	磷酸	可溶性有機物	亞硝酸	硬度
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

成分摘要	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK	COORAK
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考

井水ノ反應 微量ナル酸性ヲ呈ス

沸煮ニヨル變化 微カニ黄白色ヲ呈シ沈澱物ヲ生ゼズ

浸出回數ニヨル成分變化

回數	種目	水色	茶葉開展度	溫度	可溶分	タンニン	テイン
第一回	同	帶橙褐色比色	小數多數大數ナシ	攝氏八七度ヨリ八三度ニ降下ス	二五・七八	七五・九三	一・八三
第二回	同	同	四・〇 大小數半ス	同	九・〇八	七〇・七	〇・九〇
第三回	同	同	一・九五 大數多數小數僅少	同	三・八八	一・一一	〇・一八
第四回	同	同	二・二二 大數ノミ	同	一・四九	〇・九	〇・〇九
第五回	同	同	九・四 右	同	一・三六	〇・八	〇・〇九
第六回	同	同	七・八 滑トナル	同	一・〇七	試驗チ欠ク	同
第七回	同	同	四・九 右	同	〇・八七	同	同
計	同	同	同	同	一・八三	同	同

備考

第九回目ニハ水色殆ンドナク其液ヲトリテ有機物ノ試験ヲ試ミタルニ根跡ヲ呈セルノミ

一二四

温度、時間及浸出液ノ割合ニ就キテ

第一水色比較

浸出法	浸出回数	第一水色比較			
		第一回	第二回	第三回	第四回
(一)五分間百度浸出	1	100.0	47.6	33.6	19.6
(二)五分間八十二度浸出	1	42.8	41.0	19.5	12.2
(三)普通審査法ニヨル浸出	1	71.4	41.0	19.5	12.2
(四)五分間五倍浸液浸出	1	21.4	41.0	19.5	12.2
(五)二分間右同	1	17.9	15.6	8.1	
(六)二分間二五倍浸液浸出	1	35.7	25.2	16.2	
(七)三分間普通審査法ニヨル浸液浸出	1	51.8	41.0	19.5	15.9
(八)二分間右同	1	45.2	41.0	20.5	18.3
(九)一分間右同	1	35.7	41.0	25.6	19.3

第二可溶解分比較

浸出法	浸出回数	第二可溶解分比較			
		第一回	第二回	第一回	第二回
(一)第一表番號名ニ等シ	1	27.870		0.565	

第三タンニン比較

浸出法	浸出回数	第三タンニン比較			
		第一回	第二回	第一回	第二回
(一)第一表番號名ニ等シ	1	17.412	11.032	0.352	
(二)同	1	25.789	9.628	0.522	0.195
(三)同	1	28.970		0.17	
(四)同	1	25.926	14.077	0.105	0.057
(五)同	1	21.045	12.744	0.170	0.103
(六)同	1	15.898	6.418	0.322	0.130
(七)同	1	14.992	12.393	0.304	0.130
(八)同	1	10.664	12.669	0.216	0.256

浸出法	浸出回数	第一水色比較			
		第一回	第二回	第一回	第二回
(一)第一表番號名ニ等シ	1	8.391	4.209	0.170	0.085
(二)同	1	7.415	3.880	0.162	0.079
(三)同	1	7.593	4.017	0.154	0.081
(四)同	1	1.280		0.046	
(五)同	1	7.160	6.160	0.029	0.025
(六)同	1	6.500	3.714	0.053	0.030
(七)同	1	5.345	3.621	0.108	0.073
(八)同	1	5.107	3.880	0.104	0.079
(九)同	1	3.621	3.621	0.073	0.073

一二五

備考

一二六

- 一、(四)以下ノ温度ハ普通審査法ニ於ケルモノニ等シ
- 二、製茶原形ヲ浸出ス
- 三、水色比較ハ五分間百度浸出第一回液ヲ一〇〇、〇トシ比色圓筒ノ度目ニヨリ計算シタル數ナリ

右ノ試験結果ハ完結スルニ至ラザレドモ喫茶上注意スベキ一、二要點ヲ解知スルニ足ルベシ
 苦味ハ蒸溜水浸出ニ著シク井水ハ之レニ反ス、「タンニン」ハ温度ノ影響ヨリ寧ろ浸出時間ノ多少ニ
 關スル事大ナリ可溶分多少モ浸出時間ニ影響スル處大ナリ
 尙浸出液ノ多少、時間、温度、水質等ハ喫茶上大ニ顧慮スベキハ推知スルニ餘アリ故ニ後日ヲ以テ
 詳細ヲ究メントス

第四節 茶花ニ就キテ

該試験ハ茶花ニ「タンニン」ト「テイン」トノ存否ヲ知ラントシ施行セリ

試験材料ノ調製

大正元年十二月廿六日黃柑種ノ花ヲ花梗ヨリ摘採シ即時蒸氣ニテ三十秒間蒸熟シ一日間風乾シ次ニ
 文火ニテ乾燥シ尙一日間風乾セリ

全	花	原材料量	風乾後量	百分率
		二、一〇八 _g	三六六 _g	一七、三六二四

定性試験

全花風乾物ヲ萼部ト花瓣及雄雌蕊部トノ二部ニ分チ試験セリ
 供試品五瓦ヲ採リ熱水二〇〇CCヲ以テ攝氏九十度乃至百度(沸騰セル蒸溜水ヲ注入シ湯煎鍋上ニテ
 浸出ス)ニテ二回浸出シ各液共直ニ該浸出器ヲ冷水中ニ浸シ攪拌シツ、冷却ヲ促進シ兩液ヲ混合セ
 リ其全液ヲ二〇「パーセント」ノ醋酸鉛ヲ加ヘテ沈澱ヲ生ゼシメ沈澱ノ生ゼザルニ至リテ濾過シ熱水
 及冷水ニテ洗滌シ濾液ノ酸性ヲ呈セザルニ於テ止メ其沈澱物ヲ水中ニ洗ヒ入レ硫化水素ヲ通ジテ鉛
 ヲ除去シ其液ヲ第一液トシ「タンニン」ノ定性ニ使用セリ
 先キノ濾液中過剰ノ鉛鹽ヲ除去スル爲メ硫化水素ヲ通ジ濾過シ得タル濾液ヲ第二液トシ「テイン」ノ
 定性用トセリ

萼部定性試験

第一液 「タンニン」定性

- (イ) 鹽化鐵ヲ二、三滴加用、淡キ暗綠色ヲ呈シ濁滷ヲ示ス
- (ロ) 青化加里液二、三滴ヲ注加、淡キ赤褐色ヲ呈シ後チ赤色トナル

一二七

(ハ) 赤血鹽ノ「アンモニヤ」液ヲ二三滴滴下、濃厚ナル深赤色ヲ呈シ後チ褐色ニ變化セリ

(ニ) 亞硝酸加里ノ一片ヲ加ヘ稀薄ナル硫酸一、二滴ヲ注加ス、反應判然セズ

(ホ) 硝酸鉛液ヲ注加ス、少量ノ白色沈澱ヲ生ゼリ其沈澱(硫化水素ニテ鉛ヲ除去セルモノ)ニハ

(イ) (ロ) (ハ) ノ反應アリ(ニ) ノ反應不明、其濾液(硫化水素ニテ過剩ノ鉛ヲ除去ス)ニハ(イ) (ロ) ノ反應ナ

ク(ハ) ノ試藥ヲ加ヘシニ濃厚ナル綠色ヲ呈セリ

(ヘ) 濃硫酸ヲ注ギ重クロム酸加里ノ結晶ノ一片ヲ加フ、反應ナシ

第二液 「テイン」定性

(イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) ノ反應ナシ

(ヘ) 試験 漸次ニ濃厚ナル暗綠色ヲ現出ス

之レニヨリテ第一液ニハ「タンニン」ノ存在ヲ認め第二液ニハ「テイン」ノ含有セラル、ヲ知レリ

花薔及雄雌蕊部定性試験

第一液 「タンニン」定性

(イ) 試藥 溷濁アル淡綠色ヲ呈ス

(ロ) 同 淡キ赤褐色ヲ呈ス

(ハ) 同 微カニ赤色ヲ呈ス

(ニ) 同 淡キ帶黃赤色ヲ呈シ後チ稍綠色ヲ帶ベリ

(ホ) 同 暗色ノ沈澱ヲ生ズ(暗色ハ處含色素ニ影響セルモノナラン)

沈澱(硫化水素ニテ鉛ヲ除去ス)ハ(イ) (ロ) ノ反應アリ(ハ) ノ試藥ニテ淡キ褐色ヲ呈ス

濾液(硫化水素ニテ過剩ノ鉛ヲ除去ス)ハ(イ) ノ反應アリ(ロ) ノ反應不明、(ハ) ノ試藥ニテ濃厚ナル

綠色ヲ呈ス(ニ) ノ反應不明、

(ヘ) 試藥 反應ナシ

第二液 「テイン」定性

(イ) (ロ) (ハ) ノ反應ナシ

(ヘ) 試藥 漸次ニ透明ナル濃綠色ヲ呈ス

右ニヨレバ萼部ト殆ンド等シキ結果ヲ得タリ

備考

全花ヲ共ニ蒸熱乾燥セルモノナレバ萼部ヨリ或ハ花瓣ヨリ處含「タンニン」或ハ「テイン」ヲ各他ニ浸出附着セルヤモ測ラレズ再度ノ試験ヲナサントス

定量分析結果(風乾物百分中)

名稱	試驗目	水分	灰分	タンニン	テイイン	可溶分	全窒素
萼	1.9881	33.3333	4.6280	1.0000	33.7400	1.7484	0.4484
花辦及雄蕊莖部	1.7013	37.7111	1.5958	0.0100	33.1400	0.4484	0.4484

全生花定量分析結果 (生物百分中)

浸出法	試驗種目	乾物量	粗灰分	可溶分	タンニン	テイイン
熱湯	浸出	1.2381	0.5560	6.1444	0.5133	0.1010
温アルコール	浸出			8.8500	1.0100	0.1111
エーテル	浸出			4.3500	試験チ欠ク(存在)	0.1010

備考

エーテル浸出ハ生物三〇瓦ヲ「ソグスレット」氏脂肪浸出器ニテ四日間浸出シ水ヲ加ヘ蒸發濾過シ五〇〇珪トシ試験セリ

温アルコール浸出ハ四〇「パーセント」ノアルコール各五〇〇珪ヲ生物二〇瓦中ニ加ヘ温煎鍋上ニテ三十分間宛浸出シ無色トナレルニ至リテ濾液ヲ蒸發五〇〇珪トシ試験ニ附セリ

熱湯浸出ハ蒸溜水ノ沸騰シツ、アルモノヲ生物五〇瓦ニ注シ湯煎鍋上ニテ三十分間宛浸シ無色ト

ナレルニ至リテ濾過蒸發シ一立トシ試験セリ

風乾物定量ハ粉碎シ五瓦ヲ採リ二八〇珪ノ煮沸セル蒸溜水ヲ注入シ湯煎鍋上ニテ二回浸シ温水少量ヲ以テ二回洗滌シ五〇〇珪トナシ試験ニ附セリ

第五節 茶樹生葉水分試験

附、伸長度(變り芽)一禮宛收量及審査點數

四季水分試験

該試験ハ四季其品質ヲ異ニセルハ茶芽ノ水分ガ影響セルモノナラントノ推察ノモトニ開始セリ
斯クテ同種同樹齡ニシテ位置狀況ヲ異ニセルモノ、及茶樹ノ種類別ニヨリ又樹齡ヲ異ニセルモノ、三種ニ就キ施行セリ

第一、位置狀況ヲ異ニセルモノ

該試験ハ青心種約二十五年木ヲ左ノ各區二乃至四禮ノ一様ナル草勢ヲ示セルモノヲ採リ水分、變り芽伸長度、一禮當收量ヲ月別ニ試験調査シ尙審査點數ヲ併テ表示セリ

一、水分百分率

區名	月別	施肥	期日	同上試験	同上試験	同上試験	同上試験	同上試験	各區平均				
一八區	施肥	無	四月	同上試験	五月	同上試験	七月	同上試験	八月	同上試験	九月	同上試験	各區平均
			七月十四日	七月廿一日	七月廿四日	八月二日	八月十八日	七月廿七					

加セリ

又施肥區ハ無肥區ヨリモ長大ニシテ何レモ六回ノ變リ芽ヲ生ジ變リ芽ハ初期(四、五月ノ候)ニ早ク不定ニ後約三十日間ニ一回ヲ抽出スルモノ、如シ

三、一權當摘採量

月別	一二八區				一二二區				一三一區				一三三區				一三四區				全區月別平均收量
	採	回	數	採	採	回	數	採	採	回	數	採	採	回	數	採	採	回	數	採	
四月	1500	2	1500	2	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000
五月	1500	2	1500	2	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000
六月	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000	3	1000
七月	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850
八月	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850
九月	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850
十月	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850	3	850
全收量及同數製茶回數及一萬權生葉收量	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110	110	81110

備考

表中一權當摘採量トハ各區二乃至四權ノ收量ヲ平均シタルモノナリ
摘採回數トハ各區各權中製茶摘採期ニ於テ摘採セラルベキ茶葉ヲ有セシモノニシテ即製茶摘採期

ニ於テ全試驗茶權中摘採セラルベキ茶葉ナキ時ヲ除ケル回數ナリ

右表ニヨレバ月別平均收量ハ四、八、五、七、六、十、九ノ月順ヲ示シ施肥無肥兩區ノ比ヲ全收量ニ見ル時ハ施肥區多量ナリ

四、審査點數(月別及區別)

(イ) 月別審査點數(五試驗區平均)

月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
採點數	10	11	9	11	11	7	8
審査種數	10	11	9	11	11	7	8

(ロ) 區別審査點數(全年平均)

區別名	一二八區	一二二區	一三一區	一三三區	一三四區
採點數	11	10	11	11	11
審査回數	11	10	11	11	11

備考

一、(イ)ノ審査回數トハ右五試驗區ノ各月全審査回數ニシテ採點數トハ其全審査ノ點數ヲ平均セルモノナリ

二、(ロ)ノ審査回數トハ四月乃至十月ノ毎月製茶期ニ於テ採收セル一乃至三回ノ審査全回數ニシテ採點數トハ其全審査ノ點數ノ平均ナリ

三、本年ハ春期晴天打續キ六、七月ノ夏茶期ニ於テ降雨多カリシ爲メ春茶ハ夏茶ニ比較的良好ニシテ又四月ノ點數ハ審査標準茶點數ノ比較的大ナリシナリ

右表ニヨリ比較スルニ第一表ノ水分ハ四月ヨリ七月迄次第ニ減少シ又七月ヨリ九月ニ至リ漸次増加セリ

第二表伸長度ニ於テ四月最長ニ漸次短縮シ六月最モ矮少ニシテ七月乃至九月ハ伸長度大トナリ十月ニ至リ亦減少セリ

第三表收量ハ四月ヨリ六月迄漸次減少シ七、八月ハ増加シ九、十ノ兩月ニ至リ減少セリ

第四表審査點數ハ四月ノ例外ヲ除ク時ハ七月迄漸次増加シ又漸次十月迄減少セリ

之レニヨリテ第一表ヲ見ル時ハ六、七月ノ候ハ水分少ク春秋ニ至ルニ從ヒ漸次増加セリ之レ他ノ諸表ニ照シテ或ハ品質ニ影響ヲ及ボスモノナランカ

次ニ肥料施用ノ有無兩區ニ於テ施肥區ハ水分多量ニ伸長度生葉收量共ニ大ニシテ審査點數少ナク故ニ或ハ施肥セバ若干品質ヲ下落セシムルカ而シテ季節ニ於ケル水分ノ差ハ五バーセント前後ヲ示セルニ對シ施肥ノ有無ニ於テハ僅カニ二、バーセント前後ノ差ヲ示セルハ又以テ施肥ノ有無其品質ニ及ボス事季節ニ於ケルヨリ僅少ナラント推察ス

第二、茶樹ノ種類ヲ異ニセルモノ

該試驗ハ後日種類ニヨリ品質ヲ異ニシ收量ノ多少ヲ試驗スルニ際シテノ便宜上茶芽ノ水分、伸長度一欄當生葉收量各種二欄ヲ定メ試驗セルモノナリ

一、水分百分率

區名	種類名	春期生葉水分	同試驗期	夏期生葉水分	同試驗期	平均
七十九區	青心種	七五五八	四月二十一日	七二八六	七月四日	七四二二
八十區	白毛猴種	七九一七	同九日	七五八八	同	七七五二
八十一區	白心種	七七五七	同九日	七七〇三	六月十二日	七七七五
八十二區	紅心種	—	—	七五五八	同	七五五八
八十三區	大有種	八一七九	同九日	七四〇二	同	七七八八
八十四區	枝蘭種	七六七〇	同九日	七六三三	同	七六五二
八十五區	黃柑種	七六八二	同九日	七五七五	同	七六二九
百四區	福州種	七四五四	同廿九日	七五七〇	同	七五一四
各期平均	—	七三三三	—	七二九二	—	七三一三

二、變リ芽回數及同伸長度

月別	區別	變リ芽回數	同伸長度
右摘採月	七九區	2	1000
	八〇區	1	1100
	八一區	1	1100
	八二區	—	—
	八三區	1	1100
	八四區	1	1100
	八五區	1	1100
	一〇四區	—	—
	平均	—	—
	右摘採月	同	同

セルモノニシテ各變リ芽摘採期ノ茶芽伸長度及各月ノ摘採量ヲモ併テ觀察セリ

一、水分百分率

區名	樹種	樹齡	春生葉水分	摘採期	夏生葉水分	摘採期	秋生葉水分	摘採期	平均
一一八區	黃柑種	約十五年	七五二二	四月九日	七三九五	七月四日	七五二八	八月二日	七四八二
同	同	同八年	七五四七	同	七四五六	同	七五二七	同	七五〇四
同	同	同五年	七六〇七	同	七四九七	同	七六二九	同	七六一八
同	同	同三年	七五一九	同	七四六八	同	七三七七	同	七四七三
一一二區	同	約十年	七五七三	十四日	七三九〇	七月廿四日	七五〇五	八月一日	七四七三
一一八區	青心種	約廿五年	七五七〇	十四日	七三九〇	七月廿四日	七五〇五	八月一日	七四七三
一一二區	同	約廿五年	七五七〇	十七日	七三九〇	七月廿四日	七五〇五	八月一日	七四七三
一一八區	同	約廿五年	七五七〇	十四日	七三九〇	七月廿四日	七五〇五	八月一日	七四七三
一一八區	同	同十五年	七五七〇	十四日	七三九〇	七月廿四日	七五〇五	八月一日	七四七三
同	同	同十年	七五七〇	同	七三九〇	同	七五〇五	同	七四七三
同	同	同三年	七五七〇	同	七三九〇	同	七五〇五	同	七四七三
平均			七五〇〇		七三九〇		七五〇〇		七四七三

備考

水分ハ各二種平均數ナリ

夏期ハ芽立ナキモノアリテ試験ヲ欠ク

?印ハ平均(各齡)數ヨリ除外スルモノトス

右表ニヨリテ見ルニ黃柑種ハ五六年ノモノ最モ水分大ニ漸次老幼兩者ニ向ヒ減少セリ
 青心種ニアリテハ二十五年ノモノ最モ大ニ漸次樹齡ト共ニ減少セリ之レ等水分關係ハ既成茶園ニテ
 施行シタルモノニテ樹齡詳ナラズ且ツ台刈ノ期判然セザルニヨリ後日該試験區確設セラル、ニ於テ
 試験ヲ重ヌベシ

二、變リ芽伸長度及回数

區別	種別	樹齡	約十五年	同八年	同五年	同三年	同十五年	同十年	同三年	同十年	同十五年	同三年	平均
一一八區	黃柑種	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
同	同	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
一一二區	同	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
一一八區	青心種	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
同	同	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
一一二區	同	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
一一八區	同	同上	〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇
平均			〇〇一・一	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇	〇〇四・〇

摘採期	九	十	延採期	變芽同數
八月十四日	九月三日	十月四日	十月四日	五
同二日	同四日	同四日	同四日	五
同十四日	同十四日	同十四日	同十四日	七
同二日	同十九日	同十九日	同十九日	五
同二日	同十九日	同十九日	同十九日	三
同十四日	同十四日	同十四日	同十四日	四
同十四日	同十四日	同十四日	同十四日	四
同十四日	同十四日	同十四日	同十四日	七
同十四日	同十四日	同十四日	同十四日	五
同十四日	同十四日	同十四日	同十四日	五

備考 變芽調査ハ春季第一回摘採期ハ觀測セズ
三、一機當收量

摘採回數	六	五	四	月別樹齡	種類	區名
約十五年	ナシ	ナシ	ナシ	約十五年	黃柑種	一一八區
同八年	ナシ	ナシ	ナシ	同八年	同上	同上
同五年	ナシ	ナシ	ナシ	同五年	同上	同上
同三年	ナシ	ナシ	ナシ	同三年	同上	同上
同十五年	ナシ	ナシ	ナシ	同十五年	青心種	同上
同十年	ナシ	ナシ	ナシ	同十年	同上	同上
同三年	ナシ	ナシ	ナシ	同三年	同上	同上
同十年	ナシ	ナシ	ナシ	同十年	黃柑種	一一二區
同十五年	ナシ	ナシ	ナシ	同十五年	同上	一一七區
同三年	ナシ	ナシ	ナシ	同三年	同上	同上
平均	ナシ	ナシ	ナシ	平均	同上	同上

全摘採回數	全摘採量	摘採回數	十	九	八	七
(ロ)(イ)	(ロ)(イ)	(ロ)(イ)	(ロ)(イ)	(ロ)(イ)	(ロ)(イ)	(ロ)(イ)
一五	四六	一三	二五	三八	三三	三三
二三	二九	一七	二八	二四	三五	三五
三三	三三	一七	二二	二六	二八	二八
二三	二二	一四	二二	二七	一五	一五
?	?	一一	二二	二二	二九	二九
四二	一五	一一	一一	三七	一四	一四
六九	九九	一一	二二	二二	二一	二一
一八	三四	二二	二二	五八	五三	五三
一五	七二	一四	二九	九一	一一	一一
二五	九二	一六	二二	一〇	二七	二七
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

備考 (イ)ハ摘採期ニ於テ茶芽ヲ有セシ回數(ロ)ハ之レニ反ス

大正元年度

茶樹栽培試驗場事業報告

三叉河分場

三叉河分場事業報告目次

第一章 總 說

第一節 建 物

第二節 面積及權數

第三節 氣 候

第二章 事業概況

第一節 本年各茶期ニ於ケル茶芽發育ノ狀態

第二節 收穫

第三章 試驗事項

第一節 肥料效果比較試驗

第二節 施肥期試驗

第三節 有肥中耕回数試驗

第四節 三要素用量試驗

第五節 無肥中耕回数試驗

第六節	剪枝時期試驗	三
第七節	台刈剪枝比較試驗	三五
第八節	大豆粕單用試驗	三六
第九節	青草施用試驗	四〇
第十節	燒土肥料試驗	四三
第十一節	大豆粕石灰加用及ヒ硫酸鐵加用試驗	四四
第十二節	種類試驗	四七
第十三節	摘採回数試驗	四九
第十四節	煙炭肥料試驗	五一
第十五節	無窒素肥料試驗	五二
第十六節	大豆粕單用比較試驗	五三
第十七節	移植試驗	五四
第十八節	壓條試驗	五五
第十九節	插木試驗	五五
第二十節	三叉河地方ニ於ケル烏龍茶ト紅茶トノ比較試驗	五七

第四章 機械

第一節	綠茶製造工程	六一
第二節	紅茶製造工程	六二

第五章 調查

第一節	茶芽伸長度合調查	六三
第二節	製茶時間調查	七一
第三節	臺灣ニ於ケル茶ノ代用品調查	七四

Handwritten table with a grid structure, possibly a ledger or account book. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized into columns and rows. The table is oriented vertically on the page.

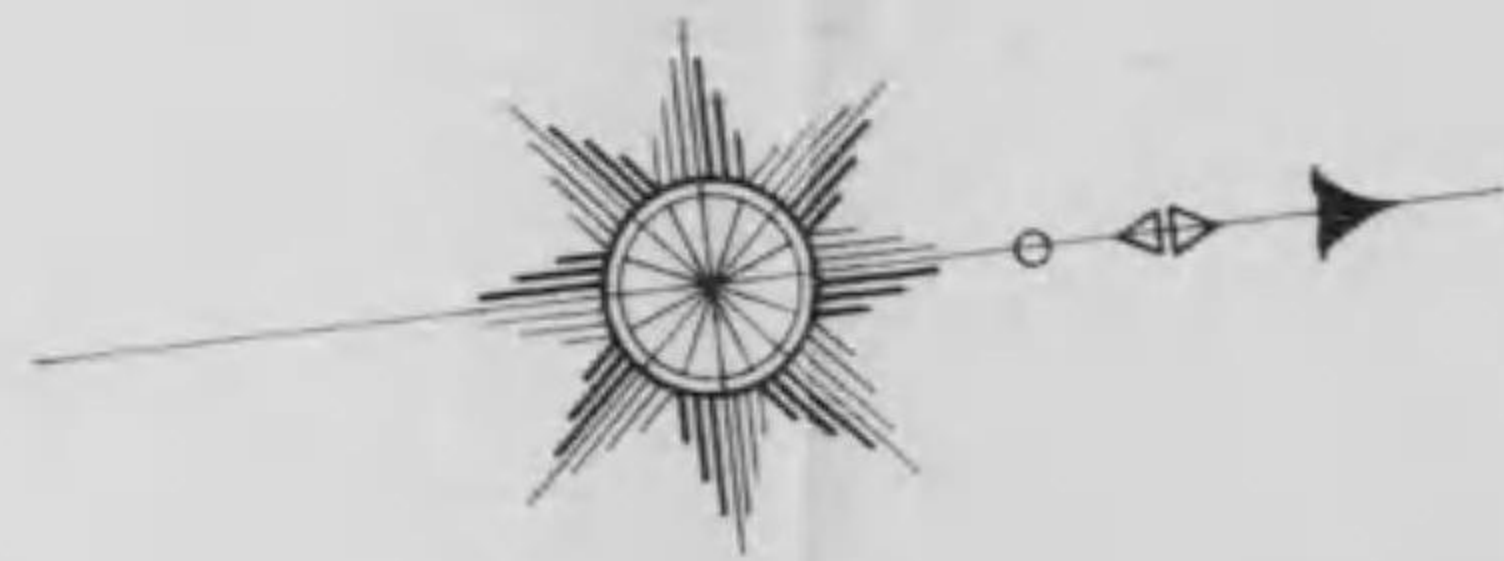
Column 1	Column 2	Column 3
1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24
25	26	27
28	29	30
31	32	33
34	35	36
37	38	39
40	41	42
43	44	45
46	47	48
49	50	51
52	53	54
55	56	57
58	59	60
61	62	63
64	65	66
67	68	69
70	71	72
73	74	75
76	77	78
79	80	81
82	83	84
85	86	87
88	89	90
91	92	93
94	95	96
97	98	99
100	101	102

Blank page with faint, illegible markings or bleed-through from the reverse side of the page.

三叉河分場試驗地略圖

縮尺二千二百分之一

至伯公坑



至水眉庄

至三叉河驛

例 凡

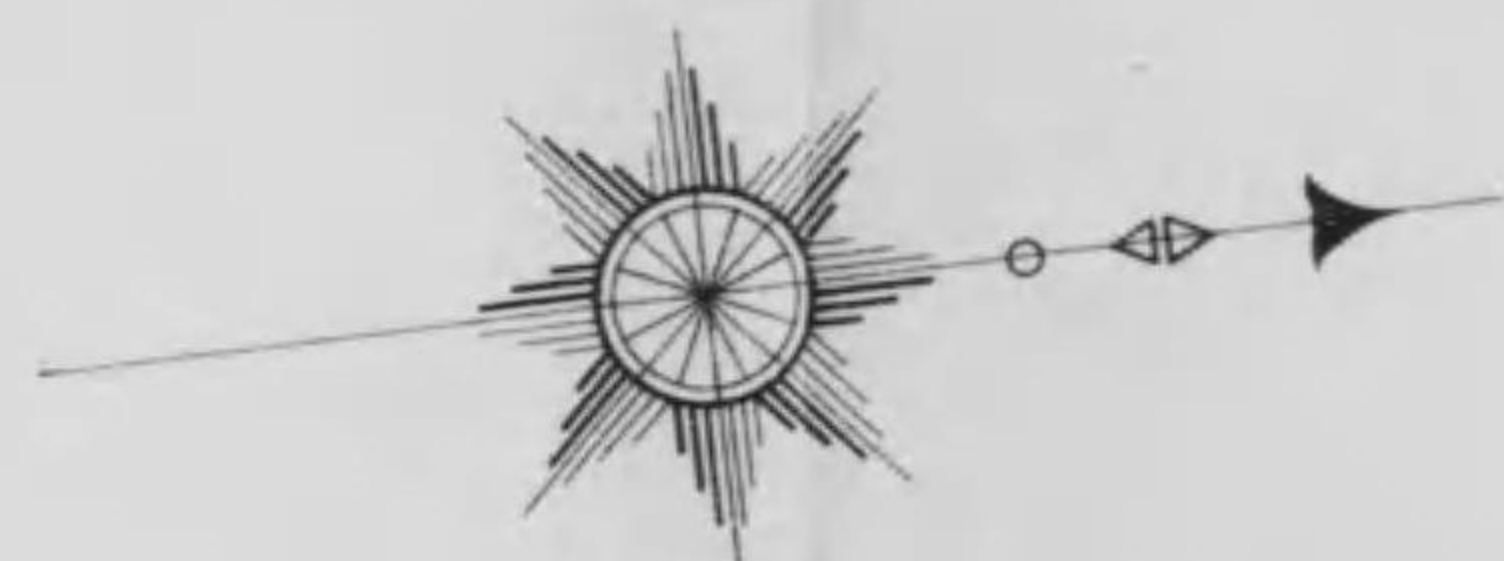
1. 乃至 8.	肥料效果比較試驗				
9. 乃至 14. 19. 20.	施肥期試驗				
15. 乃至 18.	有肥中耕回數試驗	(1)	宿	含	
21. 乃至 25.	窒素用量試驗	(v)	事務所及倉庫		
26. 乃至 30.	磷酸用量試驗	(△)	作業小屋		
32. 乃至 36.	加里用量試驗	(=)	浴所及便所		
44. 乃至 49.	剪枝時期試驗	63.	大豆粕硫酸銨加用試驗	78.	79. 剪枝無剪枝比較試驗
39. 乃至 43.	大豆粕單用試驗	65.	燒土肥料試驗	54. 乃至 57.	無肥摘採回數試驗
80.	大豆粕用量比較試驗	67.	玉露茶製造試驗	90. 乃至 92.	枝菌種移植試驗
37. 乃至 42. 64. 66.	無肥中耕回數試驗	68.	茶葉收穫試驗	81.	青心種六年生
50. 乃至 53.	台刈剪枝比較試驗	69.	70. 種茶肥料試驗	87. 乃至 88.	青心及枝菌一年生



三叉河分場試驗地略圖

縮尺二千百分之一

至伯公坑



至水眉庄

至三叉河驛

例 凡

1. 乃至 8.	肥料效果比較試驗				
9. 乃至 14, 19, 20.	施肥期試驗				
15. 乃至 18.	有肥中耕回數試驗	(1)	宿	舍	
21. 乃至 25.	窒素用量試驗	(□)	事務所及倉庫		
26. 乃至 30.	磷酸用量試驗	(△)	作業小屋		
32. 乃至 36.	加里用量試驗	(○)	浴所及便所		
44. 乃至 49.	剪枝時期試驗	63.	大豆粕硫酸銨加用試驗	78.	79.
39. 乃至 43.	大豆粕單用試驗	65.	燒土肥料試驗	54. 乃至 57.	無肥摘採回數試驗
80.	大豆粕用量比較試驗	67.	玉露茶製造試驗	90. 乃至 92.	枝蘭種移植試驗
37. 乃至 42, 64, 66.	無肥中耕回數試驗	68.	茶葉收穫試驗	81.	青心種六年生
50. 乃至 53.	台刈剪枝比較試驗	69.	70.	煙炭肥料試驗	87. 乃至 88.
58. 59. 60.	青草肥料試驗	71. 乃至 74.	有肥摘採回數試驗	82. 乃至 86, 89.	同 二年生
67.	62.	75. 乃至 77.	無窒素試驗	93. 乃至 95.	同 一年生



試	區	計	外	驗	地	地
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇
二七〇	二九〇	三〇〇	三二〇	三三〇	三四〇	三五〇

備考

本年四季摘採茶機數ハ五年木以上四萬貳千五百四拾機ニシテ二年生ハ夏季少量ノ摘採ヲナシ一年生ハ摘採セズ

第三節 氣候

温度 雨量

月別	室内温度計(攝氏)		日温計(攝氏)		地皮温度計(攝氏)		地中計(攝氏)		雨量計	晴天曇天雨天
	午前六時	正午	午後五時	午前八時	正午	午後五時	午前八時	正午		
一	11.2	14.5	13.8	10.5	12.1	11.0	11.5	11.8	13.7	11
二	11.5	14.8	14.1	10.8	12.4	11.3	11.8	12.1	14.0	10
三	11.8	15.1	14.4	11.1	12.7	11.6	12.1	12.4	14.3	9
四	12.1	15.4	14.7	11.4	13.0	11.9	12.4	12.7	14.6	8
五	12.4	15.7	15.0	11.7	13.3	12.2	12.7	13.0	14.9	7
六	12.7	16.0	15.3	12.0	13.6	12.5	13.0	13.3	15.2	6
七	13.0	16.3	15.6	12.3	13.9	12.8	13.3	13.6	15.5	5
八	13.3	16.6	15.9	12.6	14.2	13.1	13.6	13.9	15.8	4
九	13.6	16.9	16.2	12.9	14.5	13.4	13.9	14.2	16.1	3
十	13.9	17.2	16.5	13.2	14.8	13.7	14.2	14.5	16.4	2
十一	14.2	17.5	16.8	13.5	15.1	14.0	14.5	14.8	16.7	1
十二	14.5	17.8	17.1	13.8	15.4	14.3	14.8	15.1	17.0	0
平均	13.0	16.0	15.0	12.0	14.0	13.0	13.5	13.8	15.0	10

計	一	十	十	十	一	平均
19.0	18.1	17.2	16.3	15.4	14.5	15.0
18.8	17.9	17.0	16.1	15.2	14.3	14.8
18.6	17.7	16.8	15.9	15.0	14.1	14.6
18.4	17.5	16.6	15.7	14.8	13.9	14.4
18.2	17.3	16.4	15.5	14.6	13.7	14.2
18.0	17.1	16.2	15.3	14.4	13.5	14.0
17.8	16.9	16.0	15.1	14.2	13.3	13.8
17.6	16.7	15.8	14.9	14.0	13.1	13.6
17.4	16.5	15.6	14.7	13.8	12.9	13.4
17.2	16.3	15.4	14.5	13.6	12.7	13.2
17.0	16.1	15.2	14.3	13.4	12.5	13.0
16.8	15.9	15.0	14.1	13.2	12.3	12.8
16.6	15.7	14.8	13.9	13.0	12.1	12.6
16.4	15.5	14.6	13.7	12.8	11.9	12.4
16.2	15.3	14.4	13.5	12.6	11.7	12.2
16.0	15.1	14.2	13.3	12.4	11.5	12.0
15.8	14.9	14.0	13.1	12.2	11.3	11.8
15.6	14.7	13.8	12.9	12.0	11.1	11.6
15.4	14.5	13.6	12.7	11.8	10.9	11.4
15.2	14.3	13.4	12.5	11.6	10.7	11.2
15.0	14.1	13.2	12.3	11.4	10.5	11.0
14.8	13.9	13.0	12.1	11.2	10.3	10.8
14.6	13.7	12.8	11.9	11.0	10.1	10.6
14.4	13.5	12.6	11.7	10.8	9.9	10.4
14.2	13.3	12.4	11.5	10.6	9.7	10.2
14.0	13.1	12.2	11.3	10.4	9.5	10.0
13.8	12.9	12.0	11.1	10.2	9.3	9.8
13.6	12.7	11.8	10.9	10.0	9.1	9.6
13.4	12.5	11.6	10.7	9.8	8.9	9.4
13.2	12.3	11.4	10.5	9.6	8.7	9.2
13.0	12.1	11.2	10.3	9.4	8.5	9.0
12.8	11.9	11.0	10.1	9.2	8.3	8.8
12.6	11.7	10.8	9.9	9.0	8.1	8.6
12.4	11.5	10.6	9.7	8.8	7.9	8.4
12.2	11.3	10.4	9.5	8.6	7.7	8.2
12.0	11.1	10.2	9.3	8.4	7.5	8.0
11.8	10.9	10.0	9.1	8.2	7.3	7.8
11.6	10.7	9.8	8.9	8.0	7.1	7.6
11.4	10.5	9.6	8.7	7.8	6.9	7.4
11.2	10.3	9.4	8.5	7.6	6.7	7.2
11.0	10.1	9.2	8.3	7.4	6.5	7.0
10.8	9.9	9.0	8.1	7.2	6.3	6.8
10.6	9.7	8.8	7.9	7.0	6.1	6.6
10.4	9.5	8.6	7.7	6.8	5.9	6.4
10.2	9.3	8.4	7.5	6.6	5.7	6.2
10.0	9.1	8.2	7.3	6.4	5.5	6.0
9.8	8.9	8.0	7.1	6.2	5.3	5.8
9.6	8.7	7.8	6.9	6.0	5.1	5.6
9.4	8.5	7.6	6.7	5.8	4.9	5.4
9.2	8.3	7.4	6.5	5.6	4.7	5.2
9.0	8.1	7.2	6.3	5.4	4.5	5.0
8.8	7.9	7.0	6.1	5.2	4.3	4.8
8.6	7.7	6.8	5.9	5.0	4.1	4.6
8.4	7.5	6.6	5.7	4.8	3.9	4.4
8.2	7.3	6.4	5.5	4.6	3.7	4.2
8.0	7.1	6.2	5.3	4.4	3.5	4.0
7.8	6.9	6.0	5.1	4.2	3.3	3.8
7.6	6.7	5.8	4.9	4.0	3.1	3.6
7.4	6.5	5.6	4.7	3.8	2.9	3.4
7.2	6.3	5.4	4.5	3.6	2.7	3.2
7.0	6.1	5.2	4.3	3.4	2.5	3.0
6.8	5.9	5.0	4.1	3.2	2.3	2.8
6.6	5.7	4.8	3.9	3.0	2.1	2.6
6.4	5.5	4.6	3.7	2.8	1.9	2.4
6.2	5.3	4.4	3.5	2.6	1.7	2.2
6.0	5.1	4.2	3.3	2.4	1.5	2.0
5.8	4.9	4.0	3.1	2.2	1.3	1.8
5.6	4.7	3.8	2.9	2.0	1.1	1.6
5.4	4.5	3.6	2.7	1.8	0.9	1.4
5.2	4.3	3.4	2.5	1.6	0.7	1.2
5.0	4.1	3.2	2.3	1.4	0.5	1.0
4.8	3.9	3.0	2.1	1.2	0.3	0.8
4.6	3.7	2.8	1.9	1.0	0.1	0.6
4.4	3.5	2.6	1.7	0.8	0.0	0.4
4.2	3.3	2.4	1.5	0.6	0.0	0.2
4.0	3.1	2.2	1.3	0.4	0.0	0.0
3.8	2.9	2.0	1.1	0.2	0.0	0.0
3.6	2.7	1.8	0.9	0.0	0.0	0.0
3.4	2.5	1.6	0.7	0.0	0.0	0.0
3.2	2.3	1.4	0.5	0.0	0.0	0.0
3.0	2.1	1.2	0.3	0.0	0.0	0.0
2.8	1.9	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0
2.6	1.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
2.4	1.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
2.2	1.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
2.0	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
1.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

月別各旬温度雨量表 (温度ハ正午観測 一旬ハ五日トス)

月別	一旬		二旬		三旬		四旬		五旬		六旬		平均	總雨量
	温度	雨量	温度	雨量	温度	雨量	温度	雨量	温度	雨量	温度	雨量		
一	14.5	0.5	15.0	0.0	15.5	0.0	16.0	0.0	16.5	0.0	17.0	0.0	15.0	0.0
二	14.8	0.0	15.3	0.0	15.8	0.0	16.3	0.0	16.8	0.0	17.3	0.0	15.3	0.0
三	15.1	0.0	15.6	0.0	16.1	0.0	16.6	0.0	17.1	0.0	17.6	0.0	15.6	0.0
四	15.4	0.0	15.9	0.0	16.4	0.0	16.9	0.0	17.4	0.0	17.9	0.0	15.9	0.0
五	15.7	0.0	16.2	0.0	16.7	0.0	17.2	0.0	17.7	0.0	18.2	0.0	16.2	0.0
六	16.0	0.0	16.5	0.0	17.0	0.0	17.5	0.0	18.0	0.0	18.5	0.0	16.5	0.0
七	16.3	0.0	16.8	0.0	17.3	0.0	17.8	0.0	18.3	0.0	18.8	0.0	16.8	0.0
八	16.6	0.0	17.1	0.0	17.6	0.0	18.1	0.0	18.6	0.0	19.1	0.0	17.1	0.0
九	16.9	0.0	17.4	0.0	17.9	0.0	18.4	0.0	18.9	0.0	19.4	0.0	17.4	0.0
十	17.2	0.0	17.7	0.0	18.2	0.0	18.7	0.0	19.2	0.0	19.7	0.0	17.7	0.0
十一	17.5	0.0	18.0	0.0	18.5	0.0	19.0	0.0	19.5	0.0	20.0	0.0	18.0	0.0
十二	17.8	0.0	18.3	0.0	18.8	0.0	19.3	0.0	19.8	0.0	20.3	0.0	18.3	0.0
平均	15.0	0.0	15.5	0.0	16.0	0.0	16.5	0.0	17.0	0.0	17.5	0.0	15.5	0.0
總雨量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0